

お茶の水女子大学
SDGs 推進研究所

2023 年度 事業報告書



Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

はじめに

皆様には、日頃より **SDGs** 推進研究所への温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。この場を借りて、改めて深く御礼を述べさせていただきます。

私たち **SDGs** 推進研究所は、今年度で設立 3 年目を迎えることができました。当研究所最大の特徴は、生活者の視点に立った **SDGs** の推進にあります。具体的には、本学が誇る生活科学研究を基盤として、「人間らしい豊かな生活」「多様な価値観を持つ人々との共生」「環境との調和」を目指す **SDGs** 研究活動を展開しています。また、大学と附属学校園が一体となったキャンパス環境を活かし、**SDGs** 教育にも力を入れています。

昨年度は、食を通じた生活者の視点から **SDGs** を推進する多くのプロジェクトを実施しました。その成果については、本報告書に詳しく記載しておりますので、ご一読いただけますと幸いです。これまでの成果を基に、今後も「生活者視点」を大切にしながら、さらに活動の範囲を広げていく所存です。

今後とも、皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2024 年 5 月 20 日

サステイナブル社会実装機構長 太田裕治

2022年4月に設立されたSDGs推進研究所の2年目の実施事業について、
ここにご報告申し上げます。

本学のSDGs研究・教育は生活者起点の中心となる生活科学部をはじめ文教育学部、理学部、そして2024年4月に創設された共創工学部の4学部、大学院、さらには学内の研究所・センターに支えられています。本研究所の役割は、これらの研究・教育を集積させ、お茶の水女子大学の特色あるSDGs活動を教職員と学生、本学と協力関係を結んで下さっている企業、他大学、地域と共に進め、学内外の結節点として、全ての人々がSDGsに貢献できる仕組み作りをすることと考えております。

2年目の事業は、4月7日にグローバル協力センターと共催で開催した「グローバル対話 地球の未来を守る：持続可能な未来のために大学が果たす役割」で始まりました。オックスフォード大学リナカ・カレッジのニック・レイミュ・ブラウン学長をお招きし、オックスフォード大学での気候変動への取り組みをご紹介いただきました。こうしたグローバルな視点によるSDGsの検討は、本学が時間をかけて育ててきた女子教育支援の蓄積があるからこそのものであると思います。

4月以降の事業は、1年目に蒔かれた種を大切に育てるということを心がけて展開いたしました。例えば、協定を締結しているセブン&アイ・ホールディングス、附属学校園、本研究所と研究所の学生委員会とが共同で実施したフードドライブ事業、アバナード社寄附講座による学内公開講座「アーティスト思考とソーシャルイノベーション」、協定を締結している日本工営を中心に企画した「OCHA-SDGs 共創コンソーシアム」などです。こうした事業は、種から芽が出て順調に育ち、3年目はさらに大きく伸びていくものと思います。

引き続き、皆様のご指導とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

2024年5月20日
SDGs推進研究所長 齋藤悦子

【 目 次 】

はじめに

I. SDGs 推進研究所 2023 年度事業概要	1
1. 研究所の概要	
2. 2023 年度構成メンバー	
3. 2023 年度事業概要	
II. 研究部門	5
1. 2022 年度研究助成・成果報告会	
2. 2023 年度研究助成	
3. SDGs 関連研究成果	
(1) 論文一覧	
(2) 著書一覧	
(3) 学会等活動	
(4) 獲得した外部資金	
(5) 企業との共同研究	
(6) 特許	
III. 教育部門	29
1. アバナード寄附講座	
2. 国連大学本部大学間連携活動 BIG IDEAS : SDGs に関する対話シリーズ	
3. 保育マネジメント研究会との連携教育	
4. 2023 年度教育助成	
IV. 企画調整部門	
1. シンポジウム・セミナーの開催	40
(1) オックスフォード大学講演会：グローバル対話『地球の未来を守る：持続可能な未来のために大学が果たす役割』及び研究者交流会共催	
(2) 公開セミナー「カカオで学ぶ SDGs」開催	
(3) ポツダム大学「ペトラ=ヴァルシュブルガー教授ご来学記念研究発表会」開催	
(4) ポツダム大学「ペトラ=ヴァルシュブルガー教授講演会 心理社会的要因が食行動と肥満に及ぼす影響：予防と介入への示唆」開催	

2. 産学連携	49
(1) OCHA-SDGs 共創コンソーシアム開催 (第二回・第三回)	
(2) 東京ガス株式会社との「地域のレジリエンス力向上及びサステイナブル・キャンパスの実現に向けた包括連携協定」締結	
(3) 株式会社セブン&アイ・ホールディングスとのワイガヤ会、賢者のレシピ考案、伊藤研修センター見学会	
3. 地域連携	55
(1) OCHA-SDGs 勉強会「私たちのごみはどこに行くんだろう？—文京区の清掃・リサイクルの現状について—」開催	
(2) 文京区クールアースフェア出展	
(3) 文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会参加	
4. 国際連携	58
(1) 台北医学大学との国際シンポジウム参加	
(2) ポツダム大学ペトラ=ヴァルシュブルガー教授講演会	
(3) 東京大学国際シンポジウム“Signals for Human, Animal and Planetary Health: from Metabolites to Biological Interactions”発表	
5. 附属学校園との連携	60
(1) フードドライブ	
(2) 附属学校授業参観・公開研究会参加	
(3) IoT 家電を使用した授業の支援	
(4) エシカルラーニングラボへの参加	
6. アウトリーチ活動	62
7. 学内 SDGs 推進活動	75
(1) THE インパクトランキングエントリー	
(2) SDGs 学内認知度初期値設定のための調査 (SDGs 認知度調査)	
(3) 学内公開講座「本物のダシを味わうことは教養である in Tokyo」開催	
(4) OCHA-SDGs 学生委員会代替わり (幹部交代式)	
V. 学生委員の活動	78
1. お茶の水女子大学消費生活協同組合食堂部における OchaEco 弁当販売及び夕食テイクアウト	
2. お茶の水女子大学消費生活協同組合購買部にて昆虫食の委託販売	
3. OCHA-SDGs 勉強会「私たちのごみはどこに行くんだろう？—文京区の清掃・リサイクルの現状について—」開催	
4. クールアースフェア出展	
5. ラブ・プラスチック参加	

6. 給水マップ制作
7. 夏季活動報告会
8. 徽音祭出展
9. フードドライブ開催
10. お茶の水女子大学消費生活協同組合とプラントベースドフードメニュー開発・販売
11. OCHA-SDGs カレンダーの制作
12. LGBTQ 居場所づくりのサポート
13. OCHA-SDGs 学生委員会・お茶大版気候市民会議 ステッカー等作成

VI. 広報・・ 86

1. 学内広報
 - (1) 学報 GAZETTE
 - (2) 学内案内小冊子

2. 学外広報

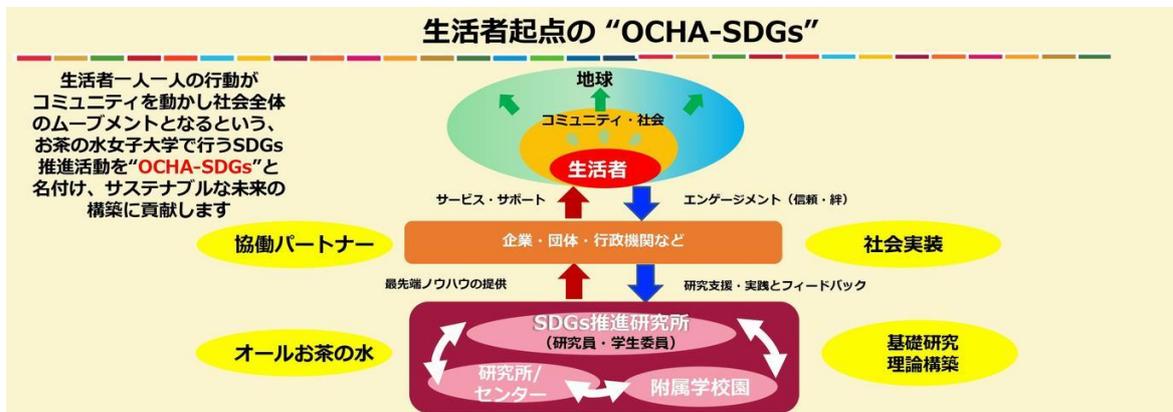
【資料】

- ①国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所規則
- ②国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 戦略会議規則
- ③お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所パンフレット
- ④各種イベント・案内ポスター
- ⑤2022 年度学生対象 SDGs 認知度調査 最終報告書
- ⑥2023 年度教職員対象 SDGs 認知度調査 最終報告書

I. SDGs 推進研究所 2023 年度事業概要

1. 研究所の概要

2022 年 4 月に発足した当研究所は、2023 年度は所長に斎藤悦子教授、副所長に荒木美奈子准教授を迎え、事業がスタートした。研究員には新たに五十嵐悠紀准教授が加わり、本学らしい生活者起点の SDGs を一層充実させるため、昨年同様、研究部門、教育部門、企画調整部門の 3 部門に分かれ学内外の SDGs 推進に関わる研究、活動を推進した。昨年度、有志の学生が立ち上げた「OCHA-SDGs 学生委員会」は会員数が約 60 名にのぼり、自主的に定期会を開催し、様々な SDGs に関わるプロジェクトを企画した。研究所はこの学生組織を研究所の下部組織(仮)と位置づけ、SDGs 推進活動の実行部隊として共に活動した。



2. 2023 年度構成メンバー

2023 年度構成メンバー（部門長及びスタッフ）

本学における職位等		氏名	専門分野
機構長	副学長	太田 裕治※	生体医工学
研究所長	副理事・教授	斎藤 悦子※	生活経済学 生活経営学
副研究所長 研究部門長	准教授	荒木 美奈子 ※	国際協力学 アフリカ地 域研究
プロジェクト管理者 企画・調整部門長	特任教授	笠松 千夏※	官能評価 食嗜好学
教育部門長	教授	刑部 育子※	保育学
特任教員	特任リサーチフェロー	河崙 唯衣	公衆栄養学
	特任アソシエイトフェロー	溝添 倫子◎	環境工学
客員教授	名誉教授	藤原 葉子	栄養化学
客員教授		小中 鉄雄	国際協力学
客員研究員		菊池 淳子	国際協力学
研究協力員		伊藤 さやか	国際協力学
		有友 愛子	家庭科教育
事務局	アカデミック・アシスタント	飯塚 陽子	
	アカデミック・アシスタント	中村 天女	
	アカデミック・アシスタント	野崎 慈子	
	アカデミック・アシスタント	鈴木 茜	
	派遣職員	志村 未来	

※は運営委員を兼ねる

◎は育児休暇

2023 年度構成メンバー（研究員等）（五十音順）

本学における職位等		氏名	専門分野
学内研究員	教授	赤松 利恵※	公衆栄養学
	教授	植村 知博	植物細胞生物学
	教授	近藤 恵	自然人類学
	教授	須藤 紀子	公衆栄養学
	教授	長澤 夏子	建築計画学
	教授	浜野 隆	教育開発学 比較国際教育学
	教授	水野 勲	数理地理学 経済地理学
	教授	森光 康次郎	食品化学
	教授	矢島 知子	有機化学
	教授	由良 敬	生物物理学
	准教授	五十嵐 悠紀	情報通信
	准教授	市 育代	栄養化学
	准教授	河合 英徳	建築環境工学
	准教授	新實 五穂	服飾史
	准教授	新田 陽子	調理科学
	准教授	長谷川 直子※	自然地理学 陸水学
	准教授	藤山 真美子	デザイン工学
	講師	神山 翼	気象学
	講師	佐藤 瑤子	給食経営管理
	助教	雨宮 敏子	材料物性
助教	野田 響子	食品貯蔵学	
運営委員会委員	教授	清本 正人	発生生物学 海洋生物学
	准教授	佐藤 敦子	環境発生進化学

※は運営委員会委員を兼ねる

3. 2023 年度事業概要

研究部門では昨年度助成を行った研究員の研究報告会とプロジェクト研究助成を行った。

教育部門では、附属学校園との **SDGs** 教育への教育助成を行った。附属学校園とは全学フードドライブの実施、授業や公開研究会、ラボ等への参加を通して連携した。また、アバナード株式会社寄附講座「総合コース」「グローバル女性リーダー特論（基礎編）」の運営を行った。

企画調整部門では、**SDGs** 学内認知度初期値設定のための調査、**THE** インパクトランキングへのエントリー、公開イベント 3 件、学内イベント 2 件を行った。また、各種 **SDGs** 推進活動を自主的に企画運営する学生委員会の支援、民間企業との連携（共創コンソーシアムの企画運営）、文京区や東京大学をはじめとした文京区内大学との連携を通じたイベントや勉強会を行った。

Ⅱ. 研究部門

1. 2022 年度研究助成・成果報告会

2022 年度の研究助成採択者による研究成果報告会を 2 回に分け開催した。本研究助成は、研究所研究員の個人研究、学内外の研究者との共同研究、企業や他機関との共同研究などを対象に、本学の SDGs 研究を牽引する研究を発掘し、SDGs に資する研究活動を活性化させることを目的とし実施した。

開催概要

2022 年度研究助成・成果報告会	
日時	2023 年 6 月 1 日 (木) 16 : 40 ~ 18 : 10 2023 年 6 月 22 日 (木) 15 : 00 ~ 16 : 30
開催方式	ハイブリッド
会場	共通講義棟 2 号館 101 室
参加者	各回 10 名程度 (本学学生・教職員)

<2022 年度第 1 回 SDGs 研究助成・成果報告会>

【日時】2023 年 6 月 1 日（木）16：40～18：10

【会場】共通講義棟 2 号館 101 室及び Zoom によるオンライン開催（ハイブリッド方式）

【報告タイトル、報告者】

第一報告：「食品ロスの有効活用に関する研究」（新田陽子；本学生生活科学部）

第二報告：「太陽光発電と連結する下水処理場におけるエネルギーマネジメントモデルの構築」（中久保豊彦先生；元本学生生活科学部、現大阪大学）

【発表概要】

第一報告

タイトル：食品ロスの有効活用に関する研究

研究者名：新田陽子

概要：食べられるにもかかわらず廃棄されているものの中に、きのこ類の石づきや柄、規格外のものがあげられます。えのきたけは、廃棄される石づき部分をステーキ様に焼くことで再利用される取り組みがなされています。しいたけは、規格外のしいたけと全体の 5%程度廃棄される柄について、過熱蒸煎機によってパウダー化することで、低コストでの加工を実現している会社があります。このように廃棄する部分を適切に加工することにより付加価値のついた食品の開発につながると考えられます。本研究では、きのこ類の廃棄部分の加熱調理により付加価値のついた食品開発のための基礎研究として、ゼリー素材の抽出に取り組みました。熱水加圧抽出法によって得られたきのこ由来抽出物で作成したゼリーを試食したところ、口腔内で融けたため寒天とは異なる食感でした。このことからきのこ由来ゼリー素材は新食感を有するゲル化剤として利用できる可能性が示されました。

第二報告

タイトル：太陽光発電と連結する下水処理場におけるエネルギーマネジメントモデルの構築

研究者名：中久保豊彦

概要：SDGs のゴール 7 内にある、指標 7.2.1 「最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率」への貢献を目指す研究課題です。再生可能エネルギーが大規模に普及した地域では、電力の需給バランスに対する調整役が必要とされ、その調整機能はデマンドレスポンスと称されます。小規模下水処理場に焦点を当て、デマンドレスポンスの担い手としての機能を有するための稼働計画を立案・評価した研究成果を報告します。

<2022 年度第 2 回 SDGs 研究助成・成果報告会>

【日時】 2023 年 6 月 22 日（木） 15：00～16：30

【会場】 共通講義棟 2 号館 101 室及び Zoom によるオンライン開催（ハイブリッド方式）

【報告タイトル、報告者】

第一報告：「乳幼児期の不適切な栄養摂取がもたらす異常と食事における課題」

（市育代、佐藤瑤子；本学生活科学部）

第二報告：「環境にやさしいもの作り～新しい含フッ素ポリマーをめざして」

（矢島知子；本学理学部）

【発表概要】

第一報告

タイトル：乳幼児期の不適切な栄養摂取がもたらす異常と食事における課題

研究者名：市育代、佐藤瑤子

概要：乳幼児は発育が最もさかんな時期であり、不適切な栄養摂取はその後の成長・発育に重大な影響を及ぼします。本研究では、「乳幼児期の不適切な栄養摂取がもたらす異常と食事における課題」に関して、以下の 2 つの研究成果を報告します。三大栄養素である脂質の中には食事から摂取しなければならない必須のものがあります。そこで、1 つめの研究としてこれまで重要視されていなかった脂質に関して、乳幼児期に欠乏するとどのような代謝異常が生じるか、動物実験の成果を中心に発表します。また、乳幼児期は消化のよいもの、薄味のもの、食品の切り方や硬さにも配慮する必要がありますが、離乳食や幼児食におけるテクスチャーや栄養素の実態は、高齢者などの嚥下食などに比べると不明な部分が多くあります。2 つめの研究として、これまで明確にされていなかった幼児の食事において、特に食塩量の実態を明らかにすることで、幼児期における新たな食の問題を提示します。

第二報告

タイトル：環境にやさしいもの作り～新しい含フッ素ポリマーをめざして

研究者名：矢島知子

概要：私たちの生活は様々な化学物質により支えられておりますが、その製造過程で生じる環境負荷がこれまでに問題となってきました。近年では、持続可能な発展を目指した、環境負荷の少ない化学、グリーンケミストリーの必要性が叫ばれています。私たちの研究室では、これまでに様々なフッ素を含む有機化合物の合成に関する研究を推進して参りました。含フッ素有機化合物は、高付加価値な医薬品・機能性材料として私たちの生活に欠かせない物質であり、その合成法の開発は、便利で豊かな生活を支えるために待ち望まれています。私たちは、グリーンケミストリーの観点から、安全な試薬を用いた低エネルギー、低コストで効率的な合成手法に関する研究を行っています。今回の研究では、高速通信時代に待ち望まれる新しい低誘電材料として期待されるポリマーの原料である含フッ素ジアミン化合物の合成について、安価で安全な試薬を用いた新しい合成法を開発しました。本成果報告会では、グリーンケミストリーに基づく私たちのこの成果について報告させていただきます。

2. 2023 年度プロジェクト研究助成

2022 年度から引き続き、個人研究、学内外の研究者との共同研究、企業や他機関との共同研究などを対象とし、本学の SDGs 研究を牽引する研究を発掘し、SDGs に資する研究活動を活性化させることを目的として研究助成を行った。

今年度より対象者を全学教員（特任教員を除く）に拡大し、SDGs 推進研究所の趣旨・目的に沿った研究に対して、1 件当たり 100 万円を上限として募集した。2023 年度は 14 件の応募があり、下記の 5 件が採択された。

採択された課題研究

所属	代表者名	研究課題タイトル	関連する主な SDGs ゴール
基幹研究院 自然科学系	植村 知博	接木境界面のオルガネラ動態を基盤とした収量性・耐病性に優れた植物の作出	2、13
基幹研究院 自然科学系	近藤 敏啓	放射光利用X線技術によるリチウム空気電池の電極反応のオペランド追跡	7
基幹研究院 自然科学系	桑原 拓也	色素増感太陽電池への応用を目指した新規ペントレン色素の開発	7、9、13
基幹研究院 自然科学系	清水 誠	植物性たんぱく質の付加価値向上を目指した大豆たんぱく質の機能性に関する研究	2、3
基幹研究院 人間科学系	脇田 彩	大学等における持続可能な女性研究者支援——交差性と支援者のキャリアに着目して	5、4、8

研究者名： 植村 知博

研究課題名： 接木境界面のオルガネラ動態を基盤とした収量性・耐病性に優れた植物の作出

○成果の内容

2種類の植物をつなぎ合わせる「接木（つぎき）」は、農業的に非常に重要な手法であり、一般的には科が同じ近縁の植物間でのみ可能であると考えられていた。野田口（京都大学）らは、「タバコの茎を介することで、どんな植物の組み合わせでも接木ができること」を発見した（Notaguchi et al. *Science*, 2020）。しかしこの技術の完成と実用には、接木境界面の細胞壁が再構築され、組織再生が十分に果たされる仕組みの理解と改善が鍵となる。本研究課題では、この接木境界面における細胞壁の再構築を実質的に制御する細胞内膜交通を、代表者が構築したモデル植物のオルガネラマーカー群とイメージング技術を用いて分子・細胞レベルで解き明かし、技術の完成を目指した。

研究代表者はこれまでに植物細胞における膜交通の研究に従事してきた。膜交通は、真核生物の細胞内に存在する単膜系オルガネラ間の輸送システムで、細胞機能を維持するための重要な分子基盤である。分泌経路と液胞輸送経路は膜交通システムに制御される主要な輸送経路として知られている（図1）。例えば、細胞壁の合成酵素や細胞壁成分は分泌経路によって細胞外へと運ばれる。また大豆イソフラボン^①は生合成された後に配糖化・アシル化の修飾を受け、大豆イソフラボンを含む機能性分子である植物ポリフェノールは、生合成後に液胞へ運ばれ蓄積されるが、この輸送ステップに膜交通システムが関与する可能性が示唆されている。そこで、特に接木境界面における細胞壁の再構築機構に注目し、これを実質的に制御する細胞内膜交通を、研究代表者が構築したモデル植物シロイヌナズナのオルガネラマーカー群とイメージング技術を用いて分子・細胞レベルで解き明かし、農業分野でブレークスルーとなる拡張された接木技術の確立するための基盤を構築する。

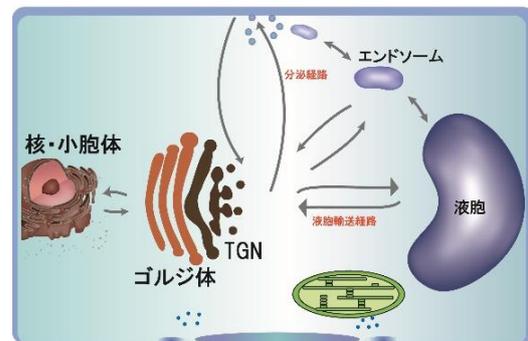


図1 分泌経路と液胞輸送経路

まず、代表者が作出した可視化オルガネラマーカーラインを用いて、細胞壁再構築時のオルガネラ動態について観察する。対象オルガネラとして観察する小胞体（ER）及び液胞を GFP 及び mRFP の蛍光タンパク質で可視化したラインは既に作出されていた。そこで、これらの植物を用いて接木実験をおこない、オルガネラ動態の観察をおこなった。その結果、茎切断後のカルス形成時に液胞膜が断片化している様子が観察された。液胞膜の断片化と接木の関係は明らかになっていないため、今後はその意義について解析していく。また、接木の長時間ライブイメージング撮影手法の検討をおこない、48 時間までは連続して共焦点レーザー顕微鏡で観察できる手法を構築した（図2）

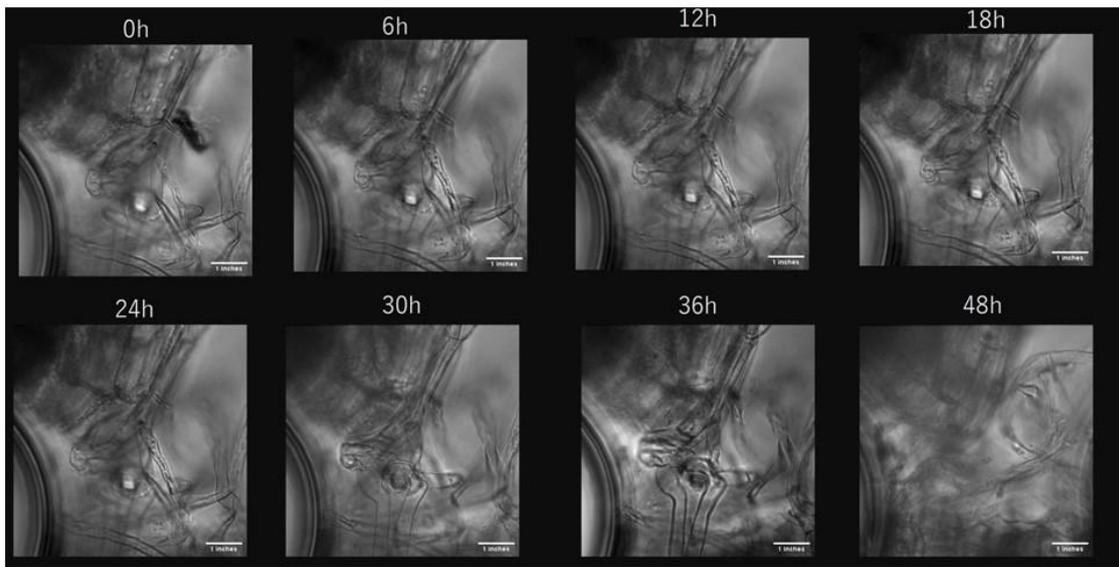


図2 接木の長時間イメージング

農作物への応用に向けて、トマトの液胞輸送経路に注目した研究も推進した。植物の細胞には、液胞という細胞体積の約90%を占める巨大なオルガネラが観察される。液胞は、古くは細胞体積を充填する役割をもつオルガネラと考えられていたが、近年の研究により、液胞がタンパク質や有機酸、抗酸化作用をもつ植物の二次代謝物などの貯蔵を担うことがわかってきた。液胞に蓄積される貯蔵物（イソフラボンなど）は、食品や嗜好品としての植物の栄養価、見た目、機能性などの価値を決定する重要なファクターであるが、液胞機能を利用した作物の高機能化は達成されていない。そこで、トマトで機能する液胞輸送の分子機構を解明するため、トマト形質転換体作出等の実験系を構築した。

これらの研究成果は、SDGs「飢餓をゼロ」と「気候変動に具体的な対策を」に貢献する。

研究者名： 近藤 敏啓

研究課題名： 放射光利用 X 線技術によるリチウム空気電池の電極反応のオペランド追跡

○成果の内容

クリーンな自然エネルギーを、いつでもどこでも地球上の誰もが使えるようにするという SDGs の目標 7 を達成するためには、高容量の蓄電池が必要不可欠である。しかしながら、現行のリチウムイオン電池の容量は限界に達しており、新たな高容量蓄電池の開発が求められている。本研究では、リチウムイオン電池の 10 倍以上の理論容量を持つリチウム空気電池の早期実用化に向けて、課題となっている負極、正極、両電極の電極反応のメカニズムを解明し、課題克服のための指針を得るために、X 線技術によるオペランド追跡を試みた。なお、本成果は現在論文にまとめて発表する予定であることから、ここではデータは表示せず、文章のみで以下にまとめた。

これまでは、リチウム空気電池に限らず、「電池」という箱の中で起こっている負極反応、正極反応については、電池を解体して、電極反応前後での形態変化や生成物・反応物の解析が行われてきた。しかし、電池を解体する過程で形状が変化したり、副反応が起こる可能性を否定できず、真の電極反応については不明な点が多かった。そこで本研究では、放射光利用 X 線技術を利用して、電池を解体せずに電極反応が起こっているその場での電極表面形態の変化や生成物の特定を行うオペランド解析を行った。

リチウム空気電池の負極反応は、放電時に金属リチウムが酸化溶解し、充電時に還元析出する簡単な溶解／析出反応であるが (式(1))、



リチウムはデンドライト状に析出するため、短絡による発火などの安全上の問題やデッドリチウムの形成によるサイクル特性の低さが指摘されていた。しかし、電池の内部ではリチウム負極は集電体とセパレータでサンドイッチされた状態であり、デンドライトが形成するかどうかさえわかっていなかった。本研究の放射光利用 X 線 CT によって、負極の充放電反応が起こるリチウム負極とセパレータ界面の形態を充放電サイクル前後で比較したところ、これまで言われていたデンドライトの形成は見られず、多孔質性のリチウムが形成されることが明らかになった。この多孔質性のリチウムはサイクル数が増えるほど増加し、10 サイクルほどで元々あった全てのリチウムが多孔質性のそれになってしまった。このリチウム負極の形態変化が、リチウム空気電池のサイクル特性の低さの一因であることが、本研究によって明らかとなった。

一方、リチウム空気電池の正極反応は、放電時にリチウムイオンと還元された酸素との反応によって過酸化リチウムが析出し、充電時に過酸化リチウムが酸化溶解するというこちらも析出／溶解反応であるが (式(2))、



反応機構に 2 つの経路があるため複雑であり、しかも反応経路によって反応中間体が異なることがわかっている (後者は一昨年度に我々のオペランド X 線回折実験によって明らかになったものである (M. Aoki and T. Kondo, *et al.*, *J. Phys. Chem. C* **127**, 15051 (2023).))。このような複雑な電極反応のメカニズムを解明するためには、セルを解体せずにオペランド追跡することが必要不可欠である。本研究では、放射光 X 線を 50 μm まで絞って照射し、位置選択的に XRD 測定し、正極における放電反応はセパレータ側ではなく、ガス拡散層側から進むことを明らかにした。

以上、本研究によって明らかとなった負極の形態変化や正極反応のメカニズムは、リチウム空気電池の実用化に向けた今後の開発指針に役立つものと思われる。

研究者名： 桑原 拓也

研究課題名： 色素増感太陽電池への応用を目指した新規ペンタレン色素の開発

○成果の内容

世界的な人口増加のためエネルギー問題は深刻であり、CO₂排出量の増加に伴う気候変動も大きな問題となっている。したがって、優れたエネルギー変換効率を有する太陽電池の開発は持続可能な社会を実現するための最重要課題の一つである。太陽電池の中でも「色素増感太陽電池」は、1) 比較的安価、2) フレキシブル、3) 製造が容易といった特徴から注目を集めてきた。色素増感太陽電池の変換効率は、太陽光を吸収する「色素」の性能に大きく左右され、現状ではルテニウム等の高価かつ資源に限りがある重金属からなる「無機色素」が主に活用されている (図 1 左)。

一方、金属を含まない「有機色素」も開発されており、例えばクマリン系色素などが知られている (図 1 中央)。これらは一般にベンゼンに代表される「芳香族化合物」を主骨格として設計・合成されてきた。一方本研究では、芳香族化合物と対をなす「反芳香族化合物」に着目した。反芳香族化合物は、一般に芳香族化合物と比べ狭い HOMO-LUMO ギャップを有するため、可視光領域に吸収を示す。つまり、反芳香族化合物も色素増感太陽電池の有機色素として利用可能であると期待される。しかしながら、そのような研究は我々の知る限り一切報告されていない。このような背景のもと、本研究は反芳香族化合物であるペンタレン骨格をベースとした新しい有機色素の開発を目指した (図 1 右)。具体的には、当研究室で合成法を開発したジヨードジベンゾペンタレンを出発原料とし、その官能基化法の開発を通して新たなペンタレン色素を合成する。合成した新規ペンタレン色素の光物性を調査することで、これらが色素増感太陽電池の色素として応用可能かを探る。本研究は SDGs の 17 の目標のうち、「7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「13. 気候変動に具体的な対策を」に合致する。

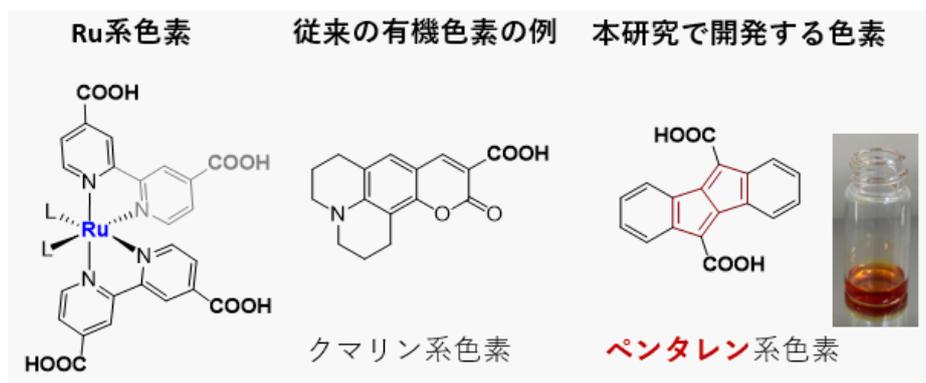


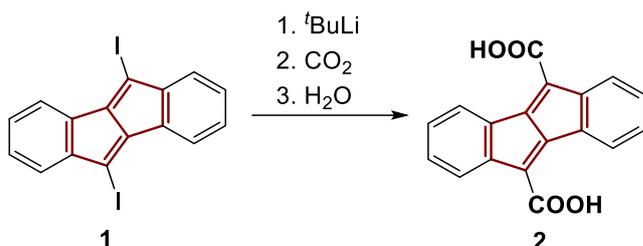
図 1. 色素増感太陽電池での色素の代表例 2 種 (左・中央) と本研究で開発する色素 (右)

本研究では、ジヨードペンタレン **1** を出発原料とし、

- 1) ジリチオ化と続く二酸化炭素との反応によるジカルボキシペンタレン **2** の合成
 - 2) 鈴木カップリングによるジアリールジベンゾペンタレン **3** の合成
- の大きく分けて 2 種類の戦略で新規ペンタレン色素の合成に取り組んだ。

1) ジリチオ化と続く二酸化炭素との反応によるジカルボキシペンタレン **2** の合成

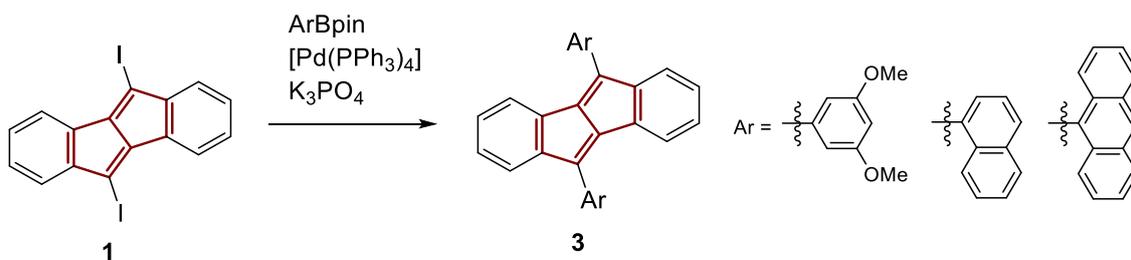
ジヨードペンタレン **1** を THF 中 $t\text{BuLi}$ によりジリチオ化し、その反応溶液に二酸化炭素ガスを作用させることでジカルボキシペンタレン **2** の合成を検討した (スキーム 1)。生成物の $^1\text{H NMR}$ において、単一のペンタレン由来のシグナルが観測されたこと、赤外吸収スペクトルにおいてカルボキシ基の存在が示唆されたことから、目的のジカルボキシペンタレン **2** が生成したと考えている。今後、その生成を支持するための更なるデータ収集 (X 線結晶構造解析など) を検討したい。



Scheme 1. ジカルボキシペンタン **2** の合成

2) 鈴木カップリン反応によるジアリールジベンゾペンタレン **3** の合成

ジヨードペンタレン **1** とアリールボロン酸ピナコールエステルを種々の条件下クロスカップリング反応を試みたところ、パラジウム触媒として $\text{Pd}(\text{PPh}_3)_4$ を、塩基としてリン酸三カリウムを用いたとき、目的のカップリング生成物が中程度の収率で得られた (スキーム 2)。カップリングさせる芳香環の種類としては、3,5-ジメトキシフェニル基に加え、立体障害が生じやすい 1-ナフチル基や 9-アントリル基も導入可能であった。合成した一部の分子に関しては、X 線結晶構造解析によりその分子構造を明らかにすることができた。今後は、 TiO_2 への吸着を可能とするカルボキシ基をもつ芳香環のカップリング反応も検討したい。



Scheme 2. 鈴木カップリングによる種々のジアリールペンタレン **3** の合成

以上、本研究では、ジヨードペンタレンを原料として新規ペンタレン色素の合成に成功した。現在、合成した各種ペンタレン色素の光物性を調査しており、これらが色素増感太陽電池の色素として有用かを検証していく。

研究者名： 清水 誠

研究課題名：

植物性たんぱく質の付加価値向上を目指した大豆たんぱく質の機能性に関する研究

○成果の内容

たんぱく質は生体を構成する必須成分であり、その摂取不足による生体への影響は他の三大栄養素（炭水化物、脂質）より重篤である。人口増加や生活水準の向上等により 2025～2030 年頃にたんぱく質危機（たんぱく質の需要と供給の破綻）、2050 年に食糧危機を迎えると想定されている。現代の重要なたんぱく質供給源である家畜（牛肉、豚肉など）は大量の水を消費し温室効果ガスの排出などが多いなど環境負荷が大きく、たんぱく質供給量と環境問題のミスマッチが問題となっている。大豆はたんぱく質を豊富に含み、環境負荷が低く、さらには脂質代謝改善効果など様々な機能性を有することが知られている。これまで我々は、大豆たんぱく質 β -コングリシニンが抗肥満ホルモン分子 FGF21 の発現を顕著に増加させること、 β -コングリシニンの抗肥満効果の大部分は FGF21 を介することを報告した。一方、FGF21 欠損マウスにおいて、いくつかの代謝パラメーターは β -コングリシニンにより改善する実験結果を得ている。これらの背景から、網羅的な遺伝子発現解析を介して FGF21 以外の β -コングリシニンの標的分子や標的代謝経路の解明を目指した。

β -コングリシニンの新たな標的遺伝子の同定のため、 β -コングリシニンを摂取させたマウスの肝臓を用いた網羅的な遺伝子発現解析を実施した。たんぱく質源として β -コングリシニンもしくはカゼイン（対照群）を含む食餌を 9 週間与え、肝臓を含む各組織を回収した。肝臓より RNA を調製し、リアルタイム PCR を用いた遺伝子発現解析の結果、筆者らの先行研究と同様に、 β -コングリシニンによる抗肥満ホルモン FGF21 の発現の亢進が認められた。肝臓の RNA を用いたトランスクリプトーム解析を行った結果、多くの遺伝子が β -コングリシニンにより増加もしくは低下する結果が得られた。 β -コングリシニンにより、肝臓でどのような代謝経路が変動するかパスウェイ解析を用いて検討した。その結果、 β -コングリシニンで増加する経路として絶食やアミノ酸代謝、低下する経路として脂質代謝を同定した。パスウェイ解析では、これまでに β -コングリシニンで変動することが報告されているものが多かったため、個々の遺伝子に着目することとした。 β -コングリシニンで増加が認められた上位の遺伝子は FGF21 を含む多くの ATF4 の標的遺伝子であった。一方、 β -コングリシニンで低下した遺伝子は、脂質代謝関連の遺伝子に加え、ミネラル代謝関連などの遺伝子が複数存在することを見出した。リアルタイム PCR を用いた検討の結果、複数の遺伝子が β -コングリシニンにより有意に減少することを見出した。FGF21 欠損マウス

を用いた解析の結果、いくつかの遺伝子は FGF21 欠損マウスでは β -コングリシニン摂取による変動が認められないことが示された。

本研究により、大豆たんぱく質 β -コングリシニンの新たな標的候補因子の同定に成功した。これらの因子の機能解析を進めることにより、大豆たんぱく質の新たな機能が解明されることが期待される。世界規模で増加する高齢者の要介護状態を防ぐため、十分なたんぱく質を摂取し、身体機能を高めることが重要である。一方、主なたんぱく質源である畜産物は大量の温室効果ガスや水を使用するため、環境面での問題が生じる。大豆は高たんぱく質食であり、かつ大量の温室効果ガスや水を必要としない。これらの点から、新たな機能性を提示し大豆を含む植物性たんぱく質の付加価値を高めることにより、SDGs の 2 つのゴール（「3：すべての人に健康と福祉を」、「13：気候変動に具体的な対策を」）の達成に貢献することが期待される。

研究者名： 脇田 彩

研究課題名：

大学等における持続可能な女性研究者支援：交差性と支援者のキャリアに着目して

○成果の内容

大学等における女性研究者支援や、それに関わるジェンダー関連専門職の活躍は、女子の高等教育・女性研究者の育成はもちろん、ジェンダー研究・教育を社会全体でのSDGs 推進に活用するために重要であり、SDGs 推進研究所の趣旨に合致する。SDGs Goalsのうち Gender Equality はもちろん、多様な人々を包摂する教育・研究を実現するという点で Quality Education、支援者のキャリアについては Decent Work and Economic Growth にも関わる。本研究は、大学等における女性研究者支援について、(a)交差性および(b) 支援者のキャリアという視点から、(1) 支援をする／される教職員・研究者から見た女性研究者支援の成果と課題および(2) 大学等の組織から見た女性研究者支援の成果と課題を明らかにし、持続可能な女性研究者支援のために必要な条件を解明した。

当初、(1) 支援をする／される教職員・研究者から見た女性研究者支援については主に後述のインタビュー・観察、(2) 大学等の組織から見た女性研究者支援については主に大学における女性研究者支援関連の部署に対する調査票調査を行うことを計画した。しかし、予備的調査により、各大学等の関係組織、実務担当者の位置づけなどが非常に多様であり、また組織の変遷があった大学が多いことが分かり、一律の調査票調査は難しいと判断し、共同研究者からの助言も得て、多くの大学等が採択された「女性研究者研究活動支援事業」の報告書について、文部科学省に対して行政文書開示請求を行った。

(1) 支援をする／される教職員・研究者から見た女性研究者支援については、女性研究者支援の実務に長く携わってきた研究者など4名に対する予備的調査を経て、下表に示す対象者に対するインタビュー調査を行った。また3つの大学・センターにおいて職場環境の観察を行った。

表 調査対象者一覧

対象者	組織	現職・元職	対象者	組織	現職・元職
Aさん	男女共同参画センター	職員	Eさん	大学等	教員*
			Fさん	大学等	教員*
Bさん	大学等	教員**	Gさん	大学等	教員*
Cさん	大学等	職員**	Hさん	大学等	教員*
Dさん	大学等	職員**	Iさん	大学等	職員

* 文部科学省事業コーディネイター ** 文部科学省事業スタッフ

インタビュー調査によって、実際に行った業務、支援者から見た成果と課題、在職中

の支援事業についての考え、職場環境、待遇、支援事業や組織の運営、支援者自身のキャリアと今後の見通し、支援される女性研究者の様子、他大学の実務担当者とのつながりなどが、大学等によってかなり多様であることが明らかになった。

(a) ジェンダー以外の属性との交差性という視点から、支援する実務担当者の多様性について述べると、いわゆるコーディネイターとして中心的に女性研究者支援事業の実務を担当する教職員の職位や待遇、これまでのキャリアは少数のインタビューにもかかわらず多様であり、大学の性質（設置者や学部構成など）や大学における女性研究者支援事業の位置づけによって異なることが見えてきた。他方、共通点としては、(1) 少なくとも入職当初は実務担当者の雇用が不安定であること、(2) 全体を把握し、ほぼ全ての実務に関わる実務担当者の大きな使命感・熱意と実務負担、大学当局等への積極的な働きかけによって女性研究者支援事業が持続していること、(3) 常勤教員の中に女性研究者支援事業に積極的なキーパーソンがいる事例が多いこと、(4) 文部科学省の女性研究者支援事業終了後に組織がかなり縮小し危機を迎えることが挙げられる。

また、(b) 支援者のキャリアという視点から、インタビュー対象者自身の経歴とインタビューで語られたことを整理すると、まず、女性研究者支援事業におけるコーディネイターには研究者としてのキャリアとアイデンティティを持つ人が多く、コーディネイターの指揮のもと働くスタッフのキャリアは多様である。コーディネイターの研究者としてのキャリアは、自然科学系で長く常勤の研究者／教員として働いてきた人、ジェンダー関連の研究を行うかたわらコーディネイターの仕事をしてきた人、常勤の研究者／教員として働く前の人（いわゆるポスドク）など、かなりの幅がある。コーディネイターやスタッフは女性がほとんどである。また、コーディネイターは入職当初、任期付きなど不安定な形で雇用されており、女性ばかりの周縁的な学術専門職だと考えられる。ただし、女性研究者支援事業を存続させるためにコーディネイター1名を安定的に雇用したり、複数名の実務担当者を抱える組織を作ったりと、とくに近年、大学が組織や雇用を見直すケースも見られる。

(2) 大学等の組織から見た女性研究者支援について、文部科学省に対して大学等の中間評価・最終評価報告書の行政文書開示請求を行ったものの、手続きに時間を要し、開示決定等の期限の特例を適用され、開示が大幅に遅れた。2024年4月30日現在、4機関の中間評価報告書のみ開示されている。他文書が開示され次第文書の分析を行うが、4機関の報告書からも実務担当者の雇用や実施事業が多様であることが分かる。

女性研究者支援事業は大学による差異が大きく、これらを類型化し、共通点を明確にするためには、上記行政文書の分析のほか、さらに多くのインタビュー調査が必要だ。しかし、現時点でも、持続可能な女性研究者支援のためには、コーディネイターの継続的・安定的雇用、大学内での事業関連組織の確かな位置づけが必要であること、そのために当面、大学トップの明確な方針や常勤教員の支援、女性研究者支援の必要性についての全学的な理解が必要であることが見えてきた。大学におけるダイバーシティや女性研究者の育成・支援が再び強調される時代にあって、文部科学省による女性研究者支援事業採択機関のこれまでの成果と課題を最大限活用すべきである。

3. SDGs 関連研究成果

(1) 論文一覧

斎藤 悦子

1. 山本咲子, 斎藤悦子, 大竹美登利, 2023, 高齢者による調理の動作構造の解明－国際生活機能分類 (ICF) を用いた動作分析－, 生活経営学研究, 58, 31-38
2. 斎藤悦子, 2024, "ジェンダー統計の現状－性別欄という新たな問題", 日本性差医学・医療学会誌, 1, 1, 35-40

刑部 育子

1. 杉山沙旺美, 刑部育子, 2024, 「天然知能」の視点から捉える保育者の専門性－保育者のひらめきと生まれ続ける新たな実践の検討－, 共創学, 5, 1, 10-22

笠松 千夏

1. 笠松千夏, 2023, 消費者にとって「差がない」基準値測定による Similarity test の改良, 日本官能評価学会誌, 27, 2, 94-101

赤松 利恵

1. 中易萌香, 赤松利恵, 小島唯, 新保みさ, 2023, 単身世帯における調理頻度と主食・主菜・副菜のそろった食事の摂取頻度の検討, 栄養学雑誌, 81, 2, 1-8
2. 西田依小里, 赤松利恵, 頓所希望, 2023, 飲食店において適量注文をする者の特徴", 栄養学雑誌, 81, 2, 16-22
3. 赤松利恵, 渡邊紗矢, 2023, 高度経済成長期の学校給食－東京都の学校給食喫食者と学校栄養士を対象とした調査研究－, 国立歴史民族博物館研究報告, 241, 149-179
4. Nagao-Sato S, Kawasaki Y, Akamatsu R, Fujiwara Y, Omori M, Sugawara M, Yamazaki Y, Matsumoto S, Iwakabe S, 2023, Sensory profile of picky eaters among college female students, *Appetite*, 185, 106518
5. 河寄唯衣, 佐藤清香, 吉井瑛美, 赤松利恵, 2023, 環境保全と健康増進に資する「持続可能で健康な食行動」－項目作成と属性による実施頻度の検討－, 栄養学雑誌, 81, 3, 101-110
6. Sameshima N, Akamatsu R, 2023, A cluster analysis of Japanese consumer perceptions concerning information about the safety of food products, *Food Control*, 149, 109723
7. Sameshima H, Akamatsu R, Hayashi F, Takemi Y, 2023, Estimation of greenhouse gas emissions from Japanese healthy meals with different protein sources, *Frontiers in Sustainable Food Systems*, 7, 1232198

8. 濱下果帆, 赤松利恵, 2023, ゆっくりよく噛んで食べている成人の主食・主菜・副菜をそろえた食事の摂取頻度, 日本健康教育学会誌, 31, 3, 110-116
9. 吉井瑛美, 會退友美, 赤松利恵, 長谷川智子, 福田一彦, 2023, 健康教育教材「けんこうニコニコカード」の開発ー親子における利用可能性の検討ー, 日本健康教育学会誌, 31, 3, 151-162
10. Sameshima N, Akamatsu R, 2023, Influence of school education and advice received at home in the past on current food safety perceptions, *Food Quality and Preference*, 110, 104958.
11. Izawa S, Nakamura-Taira N, Moriishi C, Yoshikawa T, Akamatsu R, Ikeda H, Kubo T., 2024, Protocol for a web-based study on the work environment and daily lifestyle of Japanese employees, *Industrial Health*, 62, 2, 102-109
12. 濱下果帆, 赤松利恵, 2023, 日本語版 Epicurean eating (美食家の食の楽しみ) 尺度作成の検討, 栄養学雑誌, 81, 5, 193-201
13. 大内実結, 赤松利恵, 新保みさ, 小島唯, 2023, 成人における生活習慣病のリスクを高める飲酒量と機能的・伝達的・批判的ヘルスリテラシー, 栄養学雑誌, 81, 5, 202-209
14. 中易萌香, 赤松利恵, 2023, 調理頻度に関わる要因の男女別の検討, 栄養学雑誌, 81, 5, 237-245
15. Harada K, Izawa S, Nakamura-Taira N, Yoshikawa T, Akamatsu R, Ikeda H, Kubo T., 2024, Cross-sectional associations of weekly time, social context, and motivation of exercise with mental health among workers, *International Archives of Occupational and Environmental Health*, 97, 23-33
16. 佐藤清香, 河寄唯衣, 赤松利恵, 谷内ななみ, 2023, 地域在住高齢者の食行動に影響を与えるライフイベントの質的研究, 日本健康教育学会誌, 31, 4, 201-209
17. Kawasaki Y, Nagao-Sato S, Shimpo M, Fujisaki K, Yoshii E, Bohnke J, Akamatsu R, Warschburger P., 2024, Understanding sustainable dietary behaviors in Japanese and German adults: A cross-cultural comparison. *Resources, Conservation & Recycling*, 201, 107330
18. Sameshima N, Akamatsu R, 2024, Japanese consumers' interpretation of food origin information and their preferences for domestic foods, *Nutrition & Food Science*, ahead-of-print
19. Kawasaki, Y., Nagao-Sato, S., Shimpo, M., et al., 2024, Development and validation of the gratitude for food scale for Japanese adults, *Global Health Promotion*, 17579759241235890

植村 知博

1. Rzepecka, N., Ito, Y., Yura, K., Ito, E. and *Uemura, T., 2024, Identification of a novel Golgi-localized putative glycosyltransferase protein in *Arabidopsis thaliana*, *Plant Biotechnology*, 41, 1-10

須藤 紀子

1. 水野怜香, 須藤紀子, 島田郁子, 坪山(笠岡)宜代, 2024, 炊き出しにおける災害時要配慮者対応の可能性: 炊き出し団体へのインタビュー, 日本健康学会誌, 90, 2, 51-64
2. Sato H, Sudo N, Takeda T, Shimada I, Tsuboyama-Kasaoka N, 2023, Revision of "Nutritional Reference Values for Feeding at Evacuation Shelters" and model menus: a qualitative study, *J Am Nutr Assoc*, 42, 2, 157-166
3. Takeda T, Sudo N, Mizuno R, Ikuta E, 2023, Lessons from a meal service training at a nursing home in Japan under post-disaster utility disruption scenarios, *Asian J Diet*, 5, 4, 113-123
4. Takeda T, Sudo N, Tsuboyama-Kasaoka N, Shimada I, Sato K, Shibamura Y, Nagao-Sato S, 2023, Meal plans for meeting the reference values using food items available in shelters, *BMC Nutr*, 9, 73
5. 柴村有紀, 須藤紀子, 2023, 災害時の栄養・食生活支援体制に関するアメリカと日本の比較, 日本栄養士会雑誌, 66, 8, 25-31

長澤 夏子

1. 荒井 直子, 長澤 夏子, 高田 亜弥, 山中 英里, 石川 敦雄, 脇 有紀, 鈴木 健太郎, 柏原 誠一, 2024, 共働き子育てワーカーに対する COVID-19 前後の縦断調査: テレワーク普及に伴う住まいでのリカバリー経験への影響構造の変化, 日本建築学会計画系論文集, 817, 111-122
2. 長澤 夏子, 鈴木 健太郎, 柏原 誠一, 石川 敦雄, 脇 有紀, 荒井 直子, 高田 亜弥, 山中 英里, 2023, 共働き子育てワーカーの住宅でのリカバリー経験とワーク・エンゲイジメント: 住環境・ストレス解消行動が与える影響に関する構造方程式モデリング, 日本建築学会計画系論文集, 814, 881-889
3. 奈良 玲伊, 長澤 夏子, 後藤 真由美, 2023, 特別養護老人ホームにおける転倒・転落の季節毎の特徴と気象データとの関連 ヒヤリハット・事故記録の集計・テキストマイニングを通して, 日本建築学会計画系論文集, 806, 1192-1203

森光 康次郎

1. Kishimoto M, Furukawa T, Hayashi N, Karasawa T, Morimitsu Y, Yabe K, Kushiro M, 2023, Whole agar dish culture extraction method to assess the survival of aflatoxigenic fungi in soil samples, *JSM Mycotoxins*, 73, 1, 1-5

矢島 知子

1. Kanbara T, Ito Y, Yamaguchi S, Yajima T, 2024, Nitroxide-Mediated Controlled Radical Copolymerization of α -Trifluoromethylstyrenes with Styrenes, *Molecules*, 29, 6, 1214.
2. Yamaguchi S, Shida N, Atobe M, Yajima T, 2023, Voltammetric studies on the reduction potentials of perfluoroalkyl halides and their analogous compounds, *Electrochemistry*, 91, 11, 112016
3. Shibata H, Nakayama M, Tagami K, Kanbara T, Yajima T, 2023, Hydroxy- and Hydro-perfluoroalkylation of Styrenes by Controlling the Quenching Cycle of Eosin Y, *Molecules*, 28, 22, 7577.
4. Tagami K, Yajima T, 2023, Halogen-Bond-Promoted Hydroxyperfluoroalkylation of Olefins with Molecular Oxygen under Visible-Light Irradiation, *Asian J. Org. Chem.*, e202300273.
5. Kanbara T, Arase M, Tanaka M, Yamaguchi A, Tagami K, Yajima T, 2023, Amine-catalyzed Synthesis of Fluorine-containing Polymers through Halogen Bonding, *Chem Asian J.*, e202300035

由良 敬

1. Hon-nami K, Hijikata A, Yura K, Bessho Y, 2023, Whole genome analyses for c-type cytochromes associated with respiratory chains in the extreme thermophile, *Thermus thermophilus*, *The Journal of General and Applied Microbiology*, 69, 2, 68-78
2. Tamakoshi M, Hijikata A, Yura K, Oshima K, Toh H, Mitsuoka K, Oshima T, Bessho Y, 2023, Isolation and genomic analysis of a type IV pili-independent *Thermus thermophilus* phage, ϕ MN1 from a Japanese hot spring, *The Journal of General and Applied Microbiology*, 69, 2, 117-124
3. Hijikata A, Oshima T, Yura K, Bessho Y, 2023, ThermusQ: Toward the cell simulation platform for *Thermus thermophilus*, *The Journal of General and Applied Microbiology*, 69, 2, 59-67

4. Murata K, Kataoka K, Sanno R, Satomura K, Ogura A, Asahi T, Yura K, Suzuki T, 2023, Complete mitochondrial genome sequences of two ground crickets, *Dianemobius fascipes nigrofasciatus* and *Polionemobius taprobanensis* (Orthoptera: Grylloidea: trigonidiidae), *Mitochondrial DNA Part B*, 8, 12, 1311-1315
5. Rzepecka N, Ito Y, Yura K, Ito E, Uemura T, 2024, Identification of novel Golgi-localized putative glycosyltransferase protein in *Arabidopsis thaliana*, *Plant Biotechnology*, in press
6. Shibata M, Lin X, Onuchic JN, Yura K, Cheng RR, 2024, Residue coevolution and mutational landscape for OmpR and NarL response regulator subfamilies, *Biophysical Journal*, online

市 育代

1. Arisawa K, Kaneko M, Matsuoka A, Ozawa N, Kawawa R, Ishikawa T, Ichi I, Fujiwara Y, 2023, Piceatannol prevents obesity and fat accumulation caused by estrogen deficiency in female mice by promoting lipolysis, *Nutrients*, 15, 1374
2. Tatsumi K, Ichino T, Isaka N, Sugiyama A, Moriyoshi E, Okazaki Y, Higashi Y, Kajikawa M, Tsuji Y, Fukuzawa H, Toyooka K, Sato M, Ichi I, Shimomura K, Ohta H, Saito K, Yazaki K, 2023, Excretion of triacylglycerol as a matrix lipid facilitating apoplast accumulation of a lipophilic metabolite shikonin, *J Exp Bot*, 74, 104-117
3. Akiyama Y, Katsuki S, Matoba T, Nakano Y, Takase S, Nakashiro S, Yamamoto M, Mukai Y, Inoue S, Oi K, Higo T, Takemoto M, Suematsu N, Eshima K, Miyata K, Usui M, Sadamatsu K, Kadokami T, Hironaga K, Ichi I, Todaka K, Kishimoto J, Tsutsui H, 2023, Association of serum oxysterols with cholesterol metabolism markers and clinical factors in patients with coronary artery disease: A covariance structure analysis, *Nutrients*, 15, 2997
4. Arisawa K, Matsuoka A, Ozawa N, Ishikawa T, Ichi I, Fujiwara Y, 2024, GPER/PKA-Dependent Enhancement of Hormone-Sensitive Lipase Phosphorylation in 3T3-L1 Adipocytes by Piceatannol, *Nutrients*, 16, 38

新實 五穂

1. 新實五穂, 2024, 19世紀フランスにおける男児服とズボン, 日仏女性研究学会『女性空間』, 14, 24-29
2. 新實五穂, 2024, 1900年代のメゾン・ワレにおける服飾デザイン, 日本家政学会『日本家政学会誌』, 75, 3, 1-9

新田 陽子

1. Furuta A, Ikegami M, Yaguchi T, Ito H, Tanaka K, Nishinari K, Nitta Y, 2023, Transparent thermoreversible gels of β -(1 \rightarrow 6)-branched β -(1 \rightarrow 3)-glucan derived from the cauliflower mushroom *Sparassis crispa*, *Food Hydrocoll.*, 142, 108766
2. Nishino M, Noda K, Ishibashi M, Uno Y, Nitta Y, 2023, Expression and purification of ¹⁵N-labeled Fra a 1, a strawberry allergen, to prepare samples for NMR measurements, *Protein Expr. Purif.*, 210, 106296
3. Nishinari K, Peyron MA, Yang N, Gao Z, Zhang K, Fang Y, Zhao M, Yao X, Hu B, Han L, Mleko S, Mleko MT, Nagano T, Nitta Y, Zhang Y, Singh N, Goh Suk Meng A, Pongsawatmanit R, Gamonpilas C, 2023, The role of texture in the palatability and food oral processing, *Food Hydrocoll.*, 147, 109095
4. Nishinari K, Ishihara S, Nakauma M, Funami T, Zhu C, Zhang K, Yang N, Gamonpilas C, Fang Y, Moritaka H, Peyron MA, Nitta Y, Takemasa M, Meng AGS, Singh N, 2024, Rheology of bolus as a wet granular matter – Influence of saliva on rheology of polysaccharide gel beads, *Food Hydrocoll.*, Available online, 109704
5. Kodaira Y, Kasahara Y, Sato A, Oshida H, Morimitsu Y, Nitta Y, 2024, Salty taste enhancement of rosemary water extract in mouse and human, *J. Biol. Macromol.*, 24, 17-25

藤山 真美子

1. 石田泰之, 小林光, 藤山真美子, 持田 灯, 2023, 都市空間内における長波長放射環境の Rapid-Estimation 手法の提案, 日本建築学会技術報告集, 29, 72, 898-903

佐藤 瑤子

1. Sato Y, Fujimoto M, 2023, Effect of increasing the rate of water temperature on the softening of root vegetables in boiling water, *Food Science and Technology Research*, 29, 211-220
2. Arata R, Nagata Y, Sato Y, 2023, Computational fluid dynamics analysis of the effects of total weight and food on the water temperature distribution and flow in a pot during cooking, *Journal of Food Process Engineering*, 46, e14448

雨宮 敏子

1. 飯塚茜吏, 濱田仁美, 雨宮敏子, 荒木潤, 2024, セルロースナノクリスタルによる綿布の消臭加工, *J. Fiber. Sci. Technol.*, in press

2. 雨宮敏子, 2023, 解説 消臭繊維を用いた悪臭除去, *クリーンテクノロジー*, 33, 7, 32-35

野田 響子

1. Nishino M, Noda K, Ishibashi M, Uno Y, Nitta Y, 2023, Expression and purification of ¹⁵N-labeled Fra a 1, a strawberry allergen, to prepare samples for NMR measurements, *Protein Expression and Purification*, 210, 106296

河寄 唯衣

1. Kawasaki Y, Nagao-Sato S, Shimpo M, Fujisaki K, Yoshii E, Boehnke J, Akamatsu R, Warschburger P, 2024, Understanding sustainable dietary behaviors in Japanese and German adults: A cross-cultural comparison, *Resources, Conservation & Recycling*, 107330
2. Kawasaki, Y., Nagao-Sato, S., Shimpo, M., et al., 2024, Development and validation of the gratitude for food scale for Japanese adults, *Global Health Promotion*, 17579759241235890
3. 河寄唯衣, 佐藤清香, 吉井瑛美, 赤松利恵, 2023, 環境保全と健康増進に資する「持続可能で健康な食行動」: 項目作成と属性による実施頻度の検討, *栄養学雑誌*, 81, 3, 101-110
4. 佐藤清香, 河寄唯衣, 赤松利恵, 谷内ななみ, 2023, 地域在住高齢者の食行動に影響を与えるライフイベントの質的研究, *日本健康教育学会誌*, 31, 4, 201-209
5. Nagao-Sato S, Kawasaki Y, Akamatsu R, Fujiwara Y, Omori M, Sugawara M, Yamazaki Y, Matsumoto S, Iwakabe S, 2023, Sensory profile of picky eaters among college female students, *Appetite*, 185, 106518

(2) 著書一覧

斎藤 悦子

1. 斎藤悦子, 2023, 「経営倫理とダイバーシティ」, 『経営倫理入門』, 日本経営倫理学会編, 文眞堂, pp.79-90
2. 斎藤悦子, 2023, 「ダイバーシティ&インクルージョン」, 『実践 人的資本経営』, 小方信幸編, 中央経済社, pp.33-51
3. 伊藤純, 粕谷美砂子, 山本咲子, 吉田仁美, 斎藤悦子, 2023, 「新型コロナ下における家族介護者の働き方と生活資源マネジメントの課題」, 『コロナ禍の労働・生活とジェンダー』, 昭和女子大学女性文化研究所編, 御茶の水書房, pp.97-122
4. 斎藤悦子, 藤原千紗, 2023, 「生活時間一資源としての時間」, 『フェミニスト経済学』, 長田華子, 金井郁, 古沢希代子編, 有斐閣, pp.62-81
5. 斎藤悦子, 2023, 「家事労働の市場化」, 『家族社会学事典』, 日本家族社会学会編, 丸善, pp.351-352
6. 斎藤悦子, 2024, 「生活時間と世帯内交渉」, 『ジェンダー事典』, ジェンダー事典編集委員会編, 丸善, pp.244-245

赤松 利恵

1. 赤松利恵, 林英美, 玉浦有紀, 片桐諒子, 奥原剛, 蛭名玲子, 原木万紀子, 他, 2023, 「Part1 栄養コミュニケーションの基礎, 1. 栄養コミュニケーション, 4. 主体性を重視した栄養コミュニケーション, Part2. 栄養コミュニケーションの活用, 3. 栄養コミュニケーションの方法とツール」, 『管理栄養士・栄養士のための栄養コミュニケーション』, 赤松利恵, 林英美 (編), 医歯薬出版
2. 岩澤美帆, 筒井淳也, 岡田俊, 小平雅基, 細金奈奈, 野村健介, 赤松利恵, 鈴木秀洋, 和久田学, 木原望美, 山口貴史, 小平かやの, 柳橋達彦, 2024, 「V. 栄養・食生活 (単)」, 『日本子ども資料年鑑 2024』, 愛育研究所 (編), 中央出版, pp. 163-188

須藤 紀子

1. 須藤紀子, 2023, 「妊婦・授乳婦・乳児」, 『災害食の事典』, 一般社団法人日本災害食学会監修, 朝倉書店, pp. 82-83
2. 須藤紀子, 2023, 「慢性疾患患者 (高血圧、糖尿病、腎臓病、難病)」, 『災害食の事典』, 一般社団法人日本災害食学会監修, 朝倉書店, pp. 90-92
3. 須藤紀子, 2023, 「教育機関 (大学、養成施設等)」, 『災害食の事典』, 一般社団法人日本災害食学会監修, 朝倉書店, pp. 170-171
4. 須藤紀子, 2023, 「保育所」, 『災害食の事典』, pp. 172-173
5. 須藤紀子, 2023, 「給食施設の BCP」, 『災害食の事典』, p. 174
6. 須藤紀子, 2023, 「行政のマンパワー不足を補う方法①人的支援の協定」, 『災害食

の事典』, pp. 187-188

7. 須藤紀子, 2023, 「教材」, 『災害食の事典』, pp. 211
8. 須藤紀子, 2023, 「スフィア基準」, 『災害食の事典』, pp. 218-219
9. 須藤紀子, 2023, 「アメリカ」, 『災害食の事典』, pp. 223-224
10. 須藤紀子, 2024, 「諸外国の栄養状況と施策」, 『N ブックス六訂公衆栄養学〔第3版〕』, 井上浩一, 小林実夏編著, 建帛社, pp. 103-117
11. 須藤紀子, 2024, 「公衆栄養関連法規と制定の経緯・意義」, 『管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠第10 缶公衆栄養学 2024 年盤公衆栄養活動の実践のための理論と展開』, 特定非営利活動法人日本栄養改善学会監修, 医歯薬出版株式会社, pp. 40-48
12. 須藤紀子, 2024, 「わが国の管理栄養士・栄養士制度と職業倫理」, 『管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠第10 缶公衆栄養学 2024 年盤公衆栄養活動の実践のための理論と展開』, 特定非営利活動法人日本栄養改善学会監修, 医歯薬出版株式会社, pp. 48-52
13. 須藤紀子, 2024, 「災害時の栄養対策」, 『管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠第10 缶公衆栄養学 2024 年盤公衆栄養活動の実践のための理論と展開』, 特定非営利活動法人日本栄養改善学会監修, 医歯薬出版株式会社, pp. 174-176
14. 須藤紀子, 2024, 「諸外国の健康・栄養問題の現状と課題」, 『ウェルネス公衆栄養学 2024 年版』, 医歯薬出版株式会社, pp. 44-50
15. 須藤紀子, 2024, 「諸外国の健康・栄養政策」, 『ウェルネス公衆栄養学 2024 年版』, 医歯薬出版株式会社, pp. 93-103

浜野 隆

1. 浜野隆, 2024, 『子どもの才能を伸ばす 最高の子育て』, ソシム, 256

矢島 知子

1. 矢島知子他多数, 2024, 「11 章 可視光反応による有機フッ素化合物の合成」, 『【CSJ カレントレビュー47】 フッ素の特性が織りなす分子変換・材料化学 フッ素化学の新たな飛躍に向けて』, 化学同人

新實 五穂

1. 新實五穂, 2023, 「異性装」, 『論点・ジェンダー史学』, 山口みどり・弓削尚子・後藤絵美・長志珠絵・石川照子編, ミネルヴァ書房, pp. 50-51

長谷川 直子

1. 日本地理学会（監修）・山本健太・長谷川直子（編著）・宇根寛・平野淳平・矢野桂司・秋山千亜紀・宋苑瑞（著），2023，「地理が分かれば世界がわかる！すごすぎる地理の図鑑」，KADOKAWA，224
2. 長谷川直子・鈴木康弘（編）・宇根 寛・遠藤 宏之・岡本 耕平・平井 史生(著)，2023，「今こそ学ぼう地理の基本 防災編」，山川出版社，224
3. 長谷川直子・山本健太（監修），2023，「現地取材！ 日本の国土と人々の暮らし(1) あたたかい土地の暮らし 沖縄県」，ポプラ社，47
4. 長谷川直子・山本健太・宇根寛（監修），2023，「現地取材！ 日本の国土と人々の暮らし(2) 寒い土地の暮らし 北海道」，ポプラ社，47
5. 長谷川直子・山本健太（監修），2023，「現地取材！ 日本の国土と人々の暮らし(3) 雪国の暮らし 新潟県十日町市・秋田県横手市」，ポプラ社，47
6. 長谷川直子・山本健太・宇根寛（監修），2023，「現地取材！ 日本の国土と人々の暮らし(4) 低い土地の暮らし 岐阜県海津市・千葉県香取市」，ポプラ社，47
7. 長谷川直子・山本健太・宇根寛（監修），2023，「現地取材！ 日本の国土と人々の暮らし(5) 高い土地の暮らし 群馬県嬬恋村・長野県野辺山原」，ポプラ社，47
8. 長谷川直子・山本健太・宇根寛（監修），2023，「現地取材！ 日本の国土と人々の暮らし(6) 山地の暮らし 長野県飯田市」，ポプラ社，47
9. 長谷川直子・山本健太・宇根寛（監修），2023，「現地取材！ 日本の国土と人々の暮らし(7) 火山とシラス台地の暮らし 鹿児島県桜島・笠野原」，ポプラ社，47
10. 長谷川直子・山本健太・宇根寛（監修），2023，「現地取材！ 日本の国土と人々の暮らし(8) 国境の暮らし 長崎県対馬市」，ポプラ社，47
11. 長谷川直子，「ランキングマップ世界地理 ー統計を地図にしてみよう」，月刊地図中心，614/52

河寄 唯衣

1. 藤原葉子，飯島陽子，市育代，河寄唯衣，中村美詠子，西川陽子，泉孝典，市川龍，齋藤裕子，2023，「栄養」，実教出版，pp. 149-153, 156-157

(3) 学会等活動

所属研究者が筆頭又は共同発表者として行った学会発表は、以下の通りであった。

- ・国際学会：招待講演 8 件、口頭発表 10 件、ポスター発表 19 件 計 37 件
- ・国内学会：招待講演 15 件、口頭発表 80 件、ポスター発表 54 件 計 149 件

(4) 獲得した外部資金

所属研究者が研究代表者または分担者として獲得した外部資金は、以下のとおりであった。

- ・ 科研費を獲得しての研究プロジェクト：24 件
- ・ その他の外部資金を獲得しての研究プロジェクト：27 件
- ・ 学内競争的資金を獲得しての研究プロジェクト：2 件

計 53 件

(5) 企業との共同研究

2023 年度は、15 件の共同研究が民間企業と連携して実施された。

(6) 特許

2023 年度は、3 件の特許が取得された。

Ⅲ. 教育部門

1. アバナード寄附講座

アバナード株式会社の寄附講座として開講された「総合コース」「グローバル女性リーダー特論（基礎編）」（後期、火曜 9～10 限、2.0 単位）の授業運営をサポートした。

本授業は、本学が抱える課題の中で、解決に向けて関わりたいと強く思う課題に対し、テクノロジーを活用した解決を実践し、自ら未来を開拓する人材育成を目標とし行われた。

アバナード寄附講座シラバス

回	月日	内容	講師、担当者
1	10/3	アバナード株の紹介、Corporate Citizenship 説明、寄附講座説明、テクノロジーで出来る社会課題解決、目指すカルチャー説明、お互いを知るワーク	アバナード株 小西まさ美、日野紀子、学生スタッフ、SDGs 推進研究所
2	10/10	（学内公開講座）アーティスト思考とソーシャルイノベーション イノベティブな発想をプロのアーティストが創作するプロセスから学ぶ独創的な講義です。今まで考えたこともなかった発想を体験したい方におすすめ。普通を脱却してみませんか？	青山学院大学地球社会共生学部学部長 松永エリック・匡史氏 ※外部取材あり
3	10/17	課題の専門家によるインプット① 食品ロス、環境（プラごみ）についてのワークショップ	SDGs 推進研究所 笠松千夏、河崎唯衣
4	10/24	課題の専門家によるインプット② 防災についてのワークショップ	東京臨海広域防災公園管理センター 澤善裕氏、アバナード株
5	10/31	SDGs のどの社会課題に取り組むか？ 防災、環境（プラごみ）、食ロスチームを決定	アバナード株、学生スタッフ
6	11/7	問題定義（ゴール設定） ローコード講座 30分	アバナード株 日野紀子、馬場拓真、他
7	11/14	アイデア発想 ローコード講座	アバナード株 日野紀子、馬場拓真、他
8	11/21	フィードバックセッション： アーティスト思考とソーシャルイノベーション	青山学院大学地球社会共生学部学部長 松永エリック・匡史氏
9	11/28	アイデア発想 ローコード講座	アバナード株 日野紀子、馬場拓真、他
10	12/5	アバナード社見学・発表・メンター支援 17:15 授業開始 カスタマージャーニー	SDGs 推進研究所 笠松千夏 アバナード株 鈴木淳一、杉本礼彦、他 ※外部取材あり

11	12/12	プロットタイピング ローコード講座	アバナード(株) 馬場拓真、太田さち子、榎本知子、他
12	12/19	プロットタイピング ローコード講座	アバナード(株) 馬場拓真、太田さち子、榎本知子、他
13	1/9	テクノロジーを活用したソリューション作成 ローコード講座	アバナード(株) 馬場拓真、太田さち子、榎本知子、他
14	1/16	テクノロジーを活用したソリューション作成 ローコード講座	アバナード(株) 馬場拓真、太田さち子、榎本知子、他
15	1/23	大学での導入プレゼンテーション	サステナブル社会実装 機構長 太田裕治 SDGs 推進研究所 笠松千夏 アバナード(株) 日野紀子、小西まさ美 ※外部取材あり

業界トップレベルのエンジニアと共にアプリを開発して
お茶大キャンパス内SDGsを解決しよう！

キャンパス内SDGs
3つのテーマ
「防災」「食」「環境」

キーワード
SDGs, 環境, 食, 防災, キャリア
デザイン, アプリ開発, PBL,
グローバル, IT, コンサルティ
ング ChatGPT etc.

一文理不問
Microsoft Power Apps
(ノーコードアプリ) を用いた
アプリ開発は、アバナード社の
トップエンジニアが指導します

「PBL(問題解決型学習)」
「SDGs」
「アプリ開発」
が学べる授業

WITH
AVANADE

総合コース 23A0037
グローバル女性リーダー特論 23S2010

学期：後期
曜日・時間・場所：火曜 9-10時 国際留学生プラザ2F 多目的ホール
科目区分・単位数：基礎講義 2.0単位

定員:30名 (希望者多数の場合は抽選)
受講希望者はMoodleで自己登録を行い、最新情報を確認してください

普通を脱却してみませんか？
今まで考えたこともなかった発想を体験したい方へ
イノベティブな発想をプロのアーティストが
制作するプロセスから学ぶ独自の講義

10.10 火
16:40~18:10
国際交流プラザ2F
多目的ホール

事前申し込みQRコード

当日申込OK

アーティスト思考と
ソーシャルイノベーション

松永エリック・匡史
青山学院大学 地球社会共生学部 学部長
ビジネスコンサルタント
目黒区

プロフィール
幼少期を東京やニューヨークなどで過ごし、15歳から
プロミュージシャンとして活動。映画パクリ音楽展
など様々なイベントに参加。
アクセンチュア、野村総合研究所、日本経済新聞にて、
グローバルチームでプロジェクトマネージャーを務める。
PAC主催のパートナーに任命。その後PACコンサルタ
ンツにてデジタルサービス日本総経理パートナーに就任
し、多岐にわたる企業を支援。エグゼクティブメンター
を数回、創発センター員を務めた。
2015年、青山学院大学 地球社会共生学部 専任に就任。
グローバルイノベーションを推進。学生と社会人の両面と創発の
場「エリックゼミ」において社会課題の解決に貢献。
2022年より地球社会共生学部 学部長。

学内公開セミナー
総合コース 23A0037
グローバル女性リーダー特論 23S2010

OCHA
SDGx
Chosenomachi Clinic
avanade

アバナード寄附講座関連ポスター

2. 国連大学本部大学間連携活動 BIG IDEAS : SDGs に関する対話シリーズ

国連大学 BIG IDEAS 対話シリーズのパートナー大学として、SDGs 達成に貢献している国連機関、国連大学研究所等の代表者や研究者の取組を紹介する下記イベントのうち半数程度に、特任教員が参加した。

2023 年度 BIG IDEAS : SDGs に関する対話シリーズの全体像

日時	テーマ	プレゼンター
4/4 18:00- 19:00	女性の HIV 予防：ジェンダー不平等に科学で対処する	南アフリカ・エイズ研究プログラム・センター カライシャ・アブドゥル・カリム博士・次長
4/26 12:00- 13:00	紛争地域から UNICRI が得た教訓	国連地域間犯罪司法研究所 (UNICRI) アントニア・デ・メオ所長
4/27 18:00- 19:00	変革する世界における人間開発という視点	国連開発計画 (UNDP) ペドロ・コンセイソン人間開発報告書室長
5/19 9:30- 10:30	バイオテクノロジーによる SDGs 達成への貢献	国連大学中南米バイオ技術プログラム (UNU-BIOLAC) プログラムコーディネーター (所長に相当) グスタヴォ・フェルミン博士
5/23 18:00- 19:00	ポストコロナの世界におけるグローバルヘルスと人権	国連大学グローバルヘルス研究所 (UNU-IIGH) ラジャト・コスラ所長
5/26 9:30- 10:30	人々と地球のための新機軸:効果的な多国間主義に関するハイレベル諮問会議の報告書	国連大学政策研究センター (UNU-CPR) デイビッド・パッサレリ所長
6/13 18:00- 19:00	持続可能な開発に貢献する人の移動と日本での移住の役割	国際移住機関 (IOM) 望月大平駐日代表
6/20 18:00- 19:00	若者のための技術革新の活用:大きなアイデアから大きな成功?	国連人口基金 (UNFPA) 駐日事務所 成田詠子所長
7/11 18:00- 19:00	情熱、創造力、揺るぎない献身:若者と造る未来の繁栄と持続可能性	国際機関日本アセアンセンター 平林国彦事務総長
7/19 18:00- 19:00	21 世紀を取り戻す:アフリカの経済構造改革	国連開発計画 (UNDP) アフリカ局チーフエコノミスト レイモンド・ギルピン氏
9/26 18:00- 19:00	SDGs 達成のために現場で具体的な行動を: UNOPS の活動	国連プロジェクト・サービス機関 (UNOPS) 前川佑子 駐日事務所長
10/24 18:00- 19:00	集団に基づく不平等への取り組み:さまざまな角度からの対策	国連大学世界開発経済研究所 UNU-WIDER 研究員 レイチェル・ギッセルキスト氏

11/1 18:00- 19:00	11月のCOP28に何を期待するか	国連大学世界開発経済研究所 UNU-WIDER 研究員 レイチェル・ギッセルキスト氏
12/12 10:30- 12:00	グローバル時代の女性リーダーとは 主催：東京大学現代日本研究センター	欧州女性理事会 (EWOB) エドウィジ・ニュエンス会長 投資家 カロリーネ・ファーベル ガー氏
12/14 18:30- 19:30	西・中央アフリカ地域における UN Women の 役割	国連女性機関 (UN Women) 西・ 中央アフリカ地域事務所 マキシム・ウィナト 地域事務所 副所長
2024年		
1/16 18:00- 19:00	SDGs と強制移動：最後の 1 パーセント	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 伊藤礼樹 駐日代表
1/18 14:00- 15:30	<新年特別イベント> グローバルゼーションはなぜ不平等削減に失 敗したのか	ノーベル経済学賞受賞者 ハーバ ード大学経済学・数学教授 エリック・スターク・マスキン氏
2/27 18:00- 19:00	気候変動に伴った人間の移動 e ラーニング による能力開発	国連大学 環境・人間の安全保障研 究所 (UNU-EHS) ロバート・オクス上級研究員
3/6 18:00- 19:00	グローバルヘルスという概念の推進	スウェーデン 元グローバルヘルス 大使、アンデルス・ノルドストロ ーム氏
3/21 18:00- 19:00	社会変革の手段としての教育：ユネスコの主 要教育課題と地球憲章との相乗効果	地球憲章国際本部 ミリアン・ビレラ事務局長

3. 保育マネジメント研究会との連携教育

国立大学法人お茶の水女子大学保育マネジメント研究会が主催する 2 件のイベントに、本研究所が共催・後援として携わった。

「暮らしの中で楽しむ乳幼児の運動遊び」の教育実践プログラムで使用する【moffn】(フワフワボール) は、企業で余剰となった素材を活用した小さな子どもが安全に安心して使える教材として開発されたものであり、SDGs 目標 3、4、12 に関係する。

また、「第 8 回お茶大こどもフォーラム」では附属幼稚園、こども園、ナーサリーの保育者の方にもご講演いただき、附属学校園との連携教育の機会となった。

共催・後援イベント概要

年月	イベント名	肩書
2023年9月	暮らしの中で楽しむ乳幼児の運動遊び	共催
2024年3月	第8回お茶大こどもフォーラム	後援

4. 2023 年度教育助成

プロジェクト研究助成に応募された研究課題のうち、より教育に関係の深い以下 3 テーマについて教育助成を行った。

教育助成課題

所属	代表者名	研究課題タイトル	関連する主なSDGs ゴール
基幹研究院 人間科学系	石丸 径一郎	大学における LGBTQ&アライの安全な居場所づくりとその効果検討	3、5、10
基幹研究院 人間科学系	刑部 育子	保育・教育実践における SDGs×STEAM 教育研究	4 (4.1、4.2、4.5)、5 (5.1)
基幹研究院 自然科学系	畠田 智	高校生を含めた気候変動対策研究および共同研究による教育効果検証 -紅藻カギケノリのプロモホルム高収率に関する研究を通して-	4、13

研究者名： 石丸径一郎・稲田真子

研究課題名： 大学における LGBTQ&アライの安全な居場所づくりとその効果検討

近年、大学における LGBTQ 当事者への対応が進む中、お茶の水女子大学でも 2020 年よりトランスジェンダー学生の受け入れが開始された。しかし、大学内に LGBTQ センターやアライ団体はまだ見当たらず、LGBTQ 当事者における居場所の効果やアライを対象とした研究も少ない。そこで本研究では、第 1 に、大学内に LGBTQ 当事者やアライの学生が集える安全な居場所作りを行うこと、第 2 に、居場所への参加とメンタルヘルスとの関連を検討すること、を目的とした実践的研究を行った。

研究方法としては、お茶の水女子大学内に「LGBT Tea+lounge」を開設し、そこに参加した居場所参加群と参加していない対照群に質問紙調査を実施した。居場所は 2023 年 6 月下旬から 10 月下旬にかけて週に 1 回数時間開かれ、ハンドメイド体験、テーマトーク、ボードゲームなどの企画を行った。質問紙は居場所参加群には初回参加時、各回終了時、全イベント終了後に、対照群には 3 回行った。質問紙の構成は、主観的幸福感尺度、K6、被受容感・被拒絶感尺度等であった。

分析の結果、居場所参加の有無に関しては、各指標に差が見られなかった。一方、個人内推移について Parker's Tau を算出し検討したところ、参加回数を重ねるにつれて、被受容感得点で大きな変化、被拒絶感得点で適度な変化が見られた。

考察として、居場所では様々な企画を通して参加者同士の自然な交流が見られたこと、記述回答で人との関わりを示すカテゴリーが複数生成されたことから、この企画は安全な居場所としての役割を果たしていたと言える。運営においては、可能な範囲で参加者の意見を取り入れて常により良い居場所の在り方を模索していく姿勢、折に触れて活動の様子や当初の考えを振り返り軌道修正をしていくことが大切だと考えられた。

本研究の限界のひとつには、実施期間の短さ、広報の不足、居場所参加のモチベーションを持続させることが出来なかった可能性などから十分な回答数を集められなかったことが挙げられる。本研究は居場所への参加がメンタルヘルスの改善に寄与するという確固たる結果を得ることはできなかったが、お茶の水女子大学での居場所を求める声に焦点を当て、コミュニティ作りの必要性を再認識できたという点において、一定の価値がある結果を残せたと言えるのではないだろうか。本研究での実践は、今後お茶の水女子大学あるいは他の大学にて居場所を開設する機運が高まったときの参考になり得るだろう。

本研究が扱う LGBTQ やアライに関する人権や安全のテーマは、SDGs の「3 すべての人



に健康と福祉を」、「5 ジェンダー平等を実現しよう」、「10 人や国の不平等をなくそう」に深く関連する。特に、お茶の水女子大学というコミュニティにおいて誰一人取り残さないという取り組み、すべての構成員が関わる SDGs の実践活動を推進する OCHA-SDGs の理念に合致するものである。なお、SDGs 研究所学生委員会メンバーの有志が、実施補助スタッフとして企画運営に関わった。

研究者名： 刑部育子・小沼律子・土谷香菜子・宮里暁美

研究課題名： 保育・教育実践における SDGs×STEAM 教育研究

本研究では、SDGs（持続可能な開発目標）の目標4に焦点をあて、特に STEAM の A（Art アートや Aesthetics 審美性）に関わるところに着目した実践的研究を行った。お茶大こども園における未就学児に対する探究ワークショップとお茶大附属小学校1年生のアートの授業を対象とし、園と小学校の接続カリキュラムに関わる STEAM 教育を通じた参加的創造性について研究を行った。SDGs 目標4は、すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進することである。

具体的には、お茶大こども園における未就学児を対象とした探究ワークショップの実施及び附属小学校のアートの実験的授業の実施、およびその記録の収集によって、乳幼児期、および乳幼児期に続く小学校1年次の多様な素材や自然現象への関わり方と参加的創造性を明らかにし、STEAM 教育の可能性を探ることを目的とした。

その結果以下のことが明らかになった。（1）として、お茶大こども園における実践の結果、（2）としてお茶小1年生授業実践における結果を示す。以下では生活者起点での SDGs の17の目標と STEAM 教育に関連づけて結果を示すこととする。

（1）お茶大こども園における乳幼児の実践

本研究におけるワークショップでは生涯学習の根源となる探究の芽生えを育み、科学的な現象をじっと見て観察し、自ら関わった発見を他者と共有する子どもの姿が観察された。具体的には、子どもたちは風を体感する装置（図1）により、装置に入れる素材の色、材質、形状を配慮し、特に風力と掛け合わせた時に、どのような動きになるか、どのような色が知覚されるかをよく観察し、素材の飛ばし方を創造した。また、子どもたちの間で探究行動が非言語によって伝播し、他の子どもたちにも共有されていたことが記録から明らかになった。このような生涯学習の土台となる探究の学びは、乳幼児期から生まれ、保育者や他の子どもたちとの社会的な関係の中で学びがさらに深まり促されることが明らかになった。以上の結果は SDGs 目標4「すべての人々への、包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」に関わり、特に4.2「2030年までに、すべての子どもが、幼稚園や保育園に通ったりして、小学校にあがるための準備ができるようになる。」に貢献している。

また、本研究では、男女の性差なく、こどもたちがワークショップに参加し、誰もが自分の好む色の素材を手を持って参加することができるよう、研究を計画した。ワークショップを主導した研究者および、参加した保育者はジェンダーバイアスに囚われることなく、子どもたち一人一人が好む色の素材で自由に組み立てるよう素材を準備し、声かけをし、関わった。子どもたちはジェンダーに関わらず、自分が好む色のスカーフで探究活動に没頭し、風力、重力の学びを、体験を通して学ぶことができた。色のジェンダーバイアスは、アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み、偏った意見）として保育、幼児教育現場では、男女が使うものの色分けが存在することがある。本研究のような探究活動においては

特に、誰もが自分が好む色や素材を通して没頭することができる環境を整えることが重要であることも明らかになった。以上の結果は、4.5「2030年までに、教育のなかでの男女の差別をなくす。」に貢献している。



図1 風を体感する装置

(2) お茶小1年生の授業実践

(1) の実践の続きとなるような授業における探究活動を実践し記録した。SDGs（持続可能な開発目標）の目標4に焦点をあて、特にSTEAMのA（Art アートやAesthetics 審美性）に関わるところに着目した実践的研究を行った。

本研究では、小学校1年生における図画工作科でSTEAMに関わる音の探究に関わる教育実践を行った（目標4）。SDGsに関わる廃材やエコロジカルな材料を活用し、教科横断的な図画工作の授業が構想された。教科横断というのがSTEAMに関わっている。

その結果、ある児童は「良い音がする」と自分が思いもよらなかった予想外の音を発見し、他の児童にもその行為が広がったことから、教師は音の探究と、音のデザインの題材化を試みた。その後、この児童は赤い毛糸と竹ひごや土に還る廃材で作ったストローを使った「音の探知機」を作成した。特にこの児童は「赤」という色にこだわったところから探究が進んだ。色は児童のアイデンティティを示し、教師はこの児童が選ぶ色に着目してこの児童の学びを支援した。色のジェンダーバイアスはよく見られるが、教師はその子供自身の好きな色を大事にして実践を進めた（4.5「2030年までに、教育のなかでの男女の差別をなくす」）。図工を専門とする教師ならではの色への着目は、STEAMのA（Art アートやAesthetics 審美性）が探究のプロセスに効果を発揮した好事例である。

本研究では、子どもの生活から教科横断的にデザインした題材開発である。また、扱った材料には廃材や土に還る材料等自然を選ぶなど、ゴミの発生を抑制したり、自然を持続可能な形で活用したりするなど12（つくる責任、つかう責任）や、15（陸の豊かさを守ろう）に寄与すると考えられた。

以上の教育実践研究による成果の一部は質的心理学会 2023「『伏線回収的リフレクション』で生み出される物語 -小学校低学年の図画工作の記録行為から-」で発表した。

以上、本研究では、(1)、(2)により、乳幼児から小学校に至る探究に関わる教育実践を行い、保育・教育実践におけるSDGs×STEAM教育の連続性を明らかにした。

以上

研究者名： 畠田智，植竹紀子

研究課題名：高校生を含めた気候変動対策研究および共同研究による教育効果検証
-紅藻カギケノリのプロモホルム高収率に関する研究を通して-

○成果の内容

【目的】

お茶高 SSH では「紅藻カギケノリの成長環境条件の探索」に関する課題研究が行われているが、高校の実験設備や指導に限界があり、大学との連携で質の高い教育・研究効果が求められている。

そこで本研究では、まず「紅藻カギケノリのプロモホルム高収率条件の探索」に関する研究を大学教員と大学生と高校生との共同で行い、次に、心理測定尺度集を考慮した質問紙調査やインタビューを行い、得られたデータの統計解析や KJ 法分析により共同研究を通じての教育効果を検証する（図1）。

本研究により、近い世代が携わる教育システムを確立し、附属学校園が充実している本校において SDGs 4 「質の高い教育をみんなに」を実現する手法開発を目指す。



図1 本研究の課題

【方法・結果】

2023 年度お茶高 3 年生 3 名は、2 年生の時に大学教員の畠田とともに、実験を行った。一方、2023 年度お茶高 2 年生 3 名は、2 年生の時におもに大学 3 年生 TA とともに、実験を行った。この大学教員が実験に携わった 3 名と、おもに TA が実験に携わった 3 名に、心理測定尺度集を考慮した 1-5 段階で回答できるような 16 の質問項目による質問紙調査と、質問項目を決めたインタビューガイドにより対面での個別半構造化面接というインタビュー調査を行った。

その結果（図2），まず質問紙調査を抜粋すると，例えば，「課題研究に取り込んで，さらに科学に興味を持ちましたか？」，「課題研究に満足しましたか？」，「将来就きたい職業を考えるのに，課題研究での経験が影響しましたか？」などは，教員が担当したほうが有意に高い値となった。一方で，有意差は無かったものの，「研究の内容は理解できましたか？」などは，TA が担当したほうが理解度が低い学生を出さないことに貢献していることが示唆された。

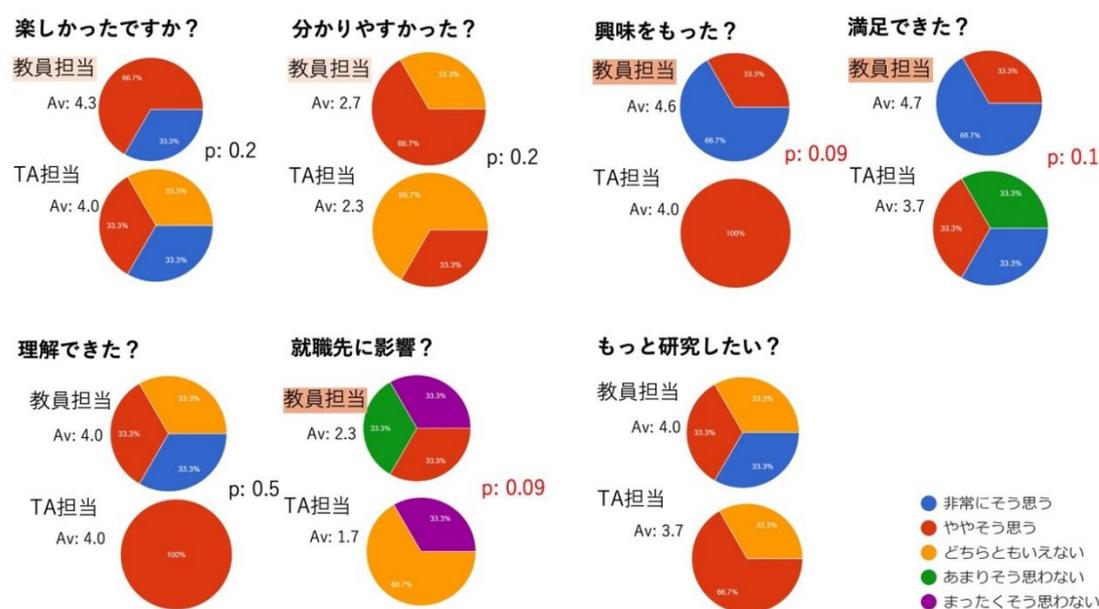


図2 質問紙調査の抜粋

一方で、インタビュー調査の結果、TAの存在意義の重要性を述べる学生が多く、ただし、近くにいていつでも聞ける状況のTAが理想であることの重要性が理解できた。また、大学教員に依頼するのが申し訳ないと思う学生が多く、その前段階においてTAに依頼できることもTAもメリットであることが示唆された。さらに、専門用語を1つ1つ質問するのが烏滸がましく感じていて、気軽に聞けるTAの存在は高校生にとって重要であることが示唆された。KJ法により、得られたインタビューデータを解析し、詳細に大学教員とTAの良い点・悪い点を明らかにし、大学教員のすべきこと、TAが担当すべきこと、両者が関わる必要性があることなどを検討したい。

[まとめ]

本研究では、お茶高2年生が紅藻カギケノリから高収率にブロモホルムを回収するための栽培条件や有用な産地・株に関する研究を行い、年度によって大学教員がお世話した学年と、おもにTAが担当した学年とで、理解度や満足度に関する質問紙調査と個別半構造化面接を実施した。まだ解析途中だが、高校生にとって大学教員とTAは、もちろん両方が必要であるが、それぞれにして欲しいことが異なり、それが理解度や満足度、さらには、よりよい実験結果を得ることに影響を及ぼすことが示唆され、今後、どのような割り振り担当が効果的なのかを検証するための基礎データを得ることができた。

今後は、本研究における大学生TAによる教育効果検証を足掛かりに、附属学校園が揃う本校ならでの、大学生が高校生に、高校生が中学生に、中学生が小学生に、小学生に幼稚園児に、近い世代が教育・研究をアシストすることで、**教育の質の向上システム構築**を実現したい。

IV. 企画調整部門

1. シンポジウム・セミナーの開催

(1) オックスフォード大学講演会：グローバル対話『地球の未来を守る：持続可能な未来のために大学が果たす役割』及び研究者交流会共催

本シンポジウムは、2017年の研究者交流協定締結以降、相互交流を行ってきた英国オックスフォード大学リナカ・カレッジとの協定更新を記念し開催された。2023年4月8日、オックスフォード大学における持続可能な未来を守るための取組みを、Leimu-Brown 学長から紹介いただき、大学間のグローバル連携を推進した。グローバル対話では会場、オンライン合わせて162名の参加があり、多くの質疑応答が行われた。自然と人類が調和した持続可能な未来のために大学が取り組むことの重要性を再確認するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）への理解が向上した。

研究者交流会では本学の研究や研究所の取組の具体的事例を紹介し、今後の連携に繋げるための活発な意見交換および議論を行った。

【グローバル対話】

日時	2023年4月7日（金）14：00～15：40
開催方式	オンライン（Zoom）と会場のハイブリッド開催 【会場】お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201室
登壇者	Nick Leimu-Brown オックスフォード大学リナカ・カレッジ学長
来賓者	Alison Beale オックスフォード大学日本事務所代表 大久保達也 東京大学理事・副学長 富永悌二 東北大学理事・副学長 横田篤 北海道大学理事・副学長
参加者数	会場87名（来賓・学内関係者含む）、オンライン参加75名

【プログラム】

司会 佐藤敦子 お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系准教授

14：00～14：05	開会挨拶 佐々木泰子 お茶の水女子大学長
14：05～14：20	来賓挨拶 Alison Beale オックスフォード大学日本事務所代表 大久保達也 東京大学理事・副学長 富永悌二 東北大学理事・副学長 横田篤 北海道大学理事・副学長
14：20～15：20	Nick Leimu-Brown オックスフォード大学リナカ・カレッジ学長講演 「地球の未来を守る：持続可能な未来のために大学が果たす役割」
15：20～15：35	質疑応答
15：35～15：40	閉会挨拶 斎藤悦子 お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所長

【研究者交流会】

日時	2023年4月7日(金) 16:00~17:00
会場	国際交流留学生プラザ2階 多目的ホール B/C
参加者	<p><オックスフォード大学></p> <p>Nick Leimu-Brown オックスフォード大学リナカ・カレッジ学長 Alison Beale オックスフォード大学日本事務所代表 Mayumi Azuma オックスフォード大学日本事務所代表補佐</p> <p><来賓></p> <p>大久保達也 東京大学理事・副学長 横田篤 北海道大学理事・副学長</p> <p><お茶の水女子大学></p> <p>佐々木泰子 学長 加藤美砂子 理事・副学長 石井クンツ昌子 理事・副学長 赤松利恵 副学長 藤原葉子 前SDGs推進研究所長</p> <p><発表者></p> <p>由良敬 教授(基幹研究院自然科学系、理学部生物学科) 清本正人 教授(基幹研究院自然科学系、湾岸生物教育研究所) 笠松千夏 特任教授(SDGs推進研究所) 大森美香 教授(基幹研究院人間科学系、人間発達教育科学研究所、心理学科)</p> <p><司会></p> <p>佐藤敦子 准教授(基幹研究院自然科学系、理学部生物学科)</p>

(2) 公開セミナー「カカオで学ぶSDGs」開催

【タイトル】お茶の水女子大学SDGs推進研究所公開セミナー「カカオで学ぶSDGs」

【目的】カカオからチョコレートができる工程を知り、生産国や国際取引の実状、児童労働問題、森林破壊等の環境問題などカカオを取り巻く多様な開発・社会課題を学ぶことで、SDGs達成への参画意識を向上させることを目的とし開催した。

【成果】大学、附属学校保護者、企業、行政機関等から115名の参加があった。様々な視点からご講演いただき、カカオを通じてSDGsの認識を深めることとなった。また、今回のセミナーにとどまらず、今後の消費行動を見つめなおし、他の社会課題の解決を志すきっかけとなった。



イベントポスター

【公開セミナー概要】

日時	2024年2月8日（木）9：30～11：30
開催方式	対面
参加者数	115名 （一般77名、学内38名）

【プログラム】

司会 小中 鉄雄 お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所客員教授

9：30～	開会の挨拶 斎藤 悦子	お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所長
9：35～	ご講演 木原 純	株式会社 明治
	佐藤 有希子	特定非営利活動法人 ACE
	堀田 さくら	独立行政法人国際協力機構（JICA）
	佐伯 美紗子	imperfect 株式会社
11：05～	質疑応答	
11：25～	閉会の挨拶 荒木 美奈子	お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所副所長

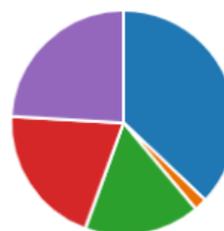
ご登壇者名（ご登壇順）

お名前	肩書
木原 純	株式会社 明治 グローバルカカオ事業本部 カカオマーケティング部 CXS グループ長
佐藤 有希子	特定非営利活動法人 ACE ソーシャルビジネス推進事業チーフ
堀田 さくら	独立行政法人国際協力機構（JICA） ガバナンス・平和構築部 ガバナンスグループ法・司法チーム
佐伯 美紗子	imperfect 株式会社 代表取締役社長

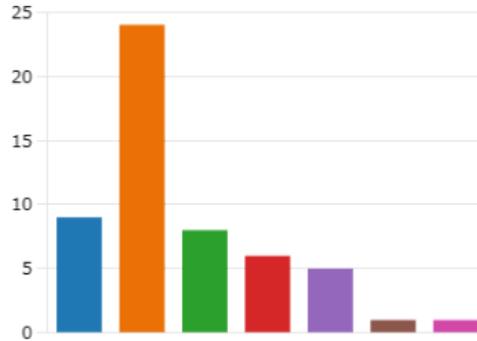
参加者アンケート結果の概要（回答者 54 名/参加者）

1. あなたのご所属を教えてください。

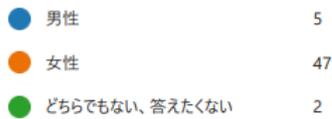
● お茶大（学生）	20
● お茶大（教職員）	1
● お茶大（附属学校園・保護者）	9
● 他大学（学生）	11
● その他	13



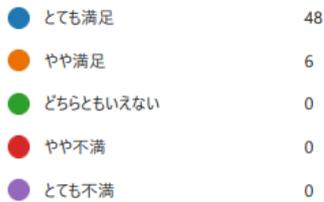
2. あなたのご年齢を年代で教えてください。当てはまるもの一つに○をつけてください。



3. あなたの性別を教えてください。



4. 本日のセミナーにはご満足いただけましたでしょうか？



自由記入欄感想抜粋（1）

年代	満足度	感想
10代	とても満足	チョコレートの試食につられて参加しましたが、様々な課題や取り組みを知ることができました。SDGsの商品は高価なイメージがありましたが、私たちが普段食べているものが安すぎることも現状を生む要因の一つだと考えさせられました。
40代	とても満足	日頃なかなか社会の問題に目を向けられないのですが、自分もよく消費するカカオをテーマに講談いただき、課題を身近なものとして考えることができました。自分のできることから行動し、子供にも共有していきたいと思います。

自由記入欄感想抜粋（２）

年代	満足度	感想
60代	とても満足	身近なチョコレートを通じて、サステイナブルを考える貴重な機会となりました。具体的に試算した目標値を示して頂けると更に実感が湧くと思いました。例えばカカオ農家の低収入により、成人労働力雇用が出来ないとの事ですが、資金があれば現地の労働者を確保できるのでしょうか。現地の各種労働賃金の現状と、カカオやコーヒー栽培者の賃金格差など。
50代	とても満足	とても楽しく有意義なセミナーでした。みんなが大好きなチョコレートだからこそ、SDGs を考える良いきっかけになると思いました。ご講演頂いた内容もみな素晴らしかったです。でも何よりみなさまが情熱を持って諸課題の解決に取り組まれているご様子に感動いたしました。新しいチョコレートの味わい方も教えて頂き、人生得した気分です。ご企画下さった研究所のみなさまとご講演者のみなさま誠にありがとうございました。
30代	やや満足	社会課題としてのカカオに関心があり参加しましたが、セミナーの開催時期（チョコレートに関心の集まるバレンタイン前に開催）やプログラム構成（食としてのチョコレート→社会課題→ビジネスという重めの内容を真ん中に挟む構成）がとてもよく、今後自身がセミナーを開催する際の参考にしたいと思いました。チョコレートそのものについての理解も多少知識が深まりましたし、ビジネスとしての取り組み（カスカラの応用や imperfect のコンセプト）も惹かれるものがありました。個人的にドミニカ共和国に縁があり、同国のカカオは以前はマイナーであったけれども今回取り上げられるまでに至ったことが感慨深かったです。とても懐かしい味がしました。
20代	とても満足	4本立ての講義の中で、カカオの基礎知識からそこを取り巻く問題、解決に向けての取り組みまでの流れをよく理解することができた有意義な2時間だったと感じております。「高価で美味しくないSDGs商品」ではなく、「高価だけど本当に美味しいSDGs商品」を世の中のスタンダードにするべく、食品企業の社員として微力ながら参画していきたいと思えます。
10代	とても満足	児童労働問題という大きい問題に対して、自分は何もできないのではないかと思っていたが、今回の講義を聞き、サステイナブル商品を購入するなど、自分の生活の中に少しでも取り入れることで、その地域の人々を助ける手伝いができることを学んだ。特に Meiji さんがチョコレート以外に洋服なども作成していることは知らなかったもので、こうした活動がより多くの人に知ってもらい、誰でも簡単に児童労働や環境問題解決の役に立つことができるという認識を広めるためにはどうしたら良いのか、考えさせられた。

(3) ポツダム大学「ペトラ=ヴァルシュブルガー教授ご来学記念研究発表会」開催

ポツダム大学ペトラ=ヴァルシュブルガー教授 (Prof. Dr. Petra Warschburger) を招聘し、本学で心理学、栄養科学を専攻する院生による研究発表会を開催した (対面のみ)。参加対象は本学学生・教職員のみとし 11 名が参加した。本学大学院生 4 名 (博士前期課程 3 名、博士後期課程 1 名) が日ごろの研究成果を発表し、ヴァルシュブルガー教授からご講評をいただいた。



イベントポスター

<イベント概要>

【対象】 本学学生・教職員 ※学部学科不問

【日時】 3月7日 (木) 10:00~11:00

【会場】 共通講義棟 2号館 102室 (対面開催)

※事前申込制、入退室自由

【言語】 英語 (通訳なし)

【発表者】

王 燕園 (大学院人間発達科学専攻 心理学コース 博士前期課程 1年)

「東アジアの大学生における感情への気づきおよび感情制御方略が情動的摂食に与える影響」
'An experimental study on the impact of emotional awareness and emotion regulation on emotional eating in East Asian college students'

佐藤 清香 (大学院ライフサイエンス専攻 食品栄養科学領域 博士後期課程 3年)

「高齢者の食行動はいつ始まる? -フレイルに関連する食行動に焦点をあてて-」
'When did older adults start their eating behaviors? - Focusing on the eating behaviors associated with frailty'

濱下 果帆 (大学院ライフサイエンス専攻 食品栄養科学コース 博士前期課程 2年)

「勤労者における『美食家の食の楽しみ』と健康的な食生活に関する研究」
'A Study on "Epicurean Eating Pleasure" and healthy dietary habits among Japanese workers'

西田 依小里 (大学院ライフサイエンス専攻 食品栄養科学コース 博士前期課程 2年)

「飲食店で適量注文する人の特性について」
'Characteristics of those who order the appropriate amount of food in restaurants'

【講評】 ペトラ=ヴァルシュブルガー (Petra Warschburger) 教授

ポツダム大学 カウンセリング心理学講座 患者研修・カウンセリングセンター長

【企画】 河寄唯衣 (SDGs 推進研究所特任リサーチフェロー)

(4) ポツダム大学「ペトラ=ヴァルシュブルガー教授講演会 心理社会的要因が食行動と肥満に及ぼす影響：予防と介入への示唆」開催

ポツダム大学ペトラ=ヴァルシュブルガー教授 (Prof. Dr. Petra Warschburger) による公開講演会をハイブリッドで開催した。2月1日付で研究所HPより情報公開し、3月4日に参加申込を締め切ったところ、会場23名・オンライン53名の計76名の参加者が集まり、盛況のうち閉会した。本学学生・教職員及び一般の参加者が来場し、質疑も多数寄せられた。



<イベント概要>

【対象】 本学学生・教職員、その他一般

【日時】 3月7日 (木) 14:00~15:30

【会場】 共通講義棟2号館102室 (対面・ZOOMハイブリッド開催) ※事前申込制

【言語】 日本語・英語 (同時通訳あり)

【講演者】 ペトラ=ヴァルシュブルガー (Petra Warschburger) 教授

ポツダム大学 カウンセリング心理学講座 患者研修・カウンセリングセンター長

【題目】 「心理社会的要因が食行動と肥満に及ぼす影響： 予防と介入への示唆 」

"The influence of psychosocial factors on eating behavior and obesity: Implications for prevention and intervention"

【成果】

肥満には様々な要因が伴い、一層の広がりや継続的増加を見せている。今日の研究では、そのような多因子病因たる肥満の原因には、心理社会的影響が大きいと示されている。そうした心理社会的要因について概要のご説明と、小児や青少年に対する治療介入の例をご紹介いただき、肥満の予防と介入アプローチについての示唆を示していただいた。

【企画】 河寄唯衣 (SDGs 推進研究所特任リサーチフェロー)



当日の様子 (研究発表会)



当日の様子 (講演会)

参加者アンケート結果の概要（回答者 36 名/参加者）

問 1 あなたのご所属を教えてください。Which is your affiliation?

(人)

学生（本学） Students (Ocha univ.)	12
学生（本学以外） Students (other univ.)	11
教職員（本学） Faculty and staff (Ocha univ.)	3
教職員（本学以外） Faculty and staff (other univ.)	6
その他 Others	4

問 2 あなたのご年齢を年代で教えてください。Please tell us your age in years.

(人)

(人)

10s	2	50s	5
20s	17	60s	3
30s	7	70s 以上 (70s and more)	0
40s	2		

問 3 あなたの性別を教えてください。What is your gender?

(人)

男性 Male	3
女性 Femal	33
どちらでもない、答えたくない Neither	0

問 4 今回ご参加の形式をご選択ください。Did you participate in online or in person?

(人)

オンライン Online (zoom)	19
対面 In person	17

問 5 本日の講演会にはご満足いただけましたか？ 「¥ 8 Were you satisfied with today's public lecture?

(人)

とても満足 Extremely yes	24
やや満足 Moderately yes	12
どちらともいえない Neither	0
やや不満 Moderately no	0
とても不満 Extremely no	0

問6 本講演会のご感想をご記入ください。 Please provide your comments on this public lecture. (You may write in Japanese.)

初等教育からの栄養教育が重要であることがわかった。また、今後は正しいデザインで、それぞれの心理的要因、社会的背景などを分析することが必要であることもわかった。
動画もあり、興味深く拝聴しました。配布資料があるとよかったです。
人の心理状態は食行動に現れやすいということは前々から知っていましたが、小児期の自己制御能力の強さがその後の肥満傾向に影響を与えると言う知見が特に興味深く感じました。
縦断的な研究が多く、説得力のあるお話でした。ありがとうございました。
肥満とネガティブな経験がお互いに影響を及ぼし合っていることが印象的でした。
自身も興味を持っている self-regulation に関するご示唆をいただき、とても参考になりました。
小児の肥満について、親の関わりや食行動による影響というものは今までに聞いたことはありましたが、肥満と心理社会的な要因との関連について、エビデンスを交えながら理解をより深めることができました。また、スティグマ化や小児の肥満予防における親の関わり的重要性については日常生活の中でも感じたことはありましたが、疫学的なことまでは今まで分かっていなかったため、とても勉強になりました。貴重な機会をありがとうございました。
Thank you for giving us the chance to listen such a wonderful presentation. I'm a student studying for obtaining the license of registered dietitian, so I'm interested in the connection humans' psychological situation and impulse of eating (too much). I learned that humans' psychological issues make an endless vicious circle and to overcome negative situations, parental counseling, self-regulation, and behavioral training etc.. are important. I live in Fukuoka and I have few times to participant the lectures by foreign professors, so it was so wonderful precious time. Thank all of you so much.
肥満と心理社会的要因が互いに関連しあって負の循環をうむというのが興味深かった。
食行動への心理的要因は様々な因子が影響を与えることを改めて感じた。栄養士としてこの講演会で学んだことを、現場で応用していけるようにじっくり考えたい。
始めて聞くものにとって、情報量が少し多すぎたと思いました。また、肥満が話の中心で、その要因の一つに社会心理があるような話だったので、タイトルの言っている事と少し異なる印象を受けました。
貴重な機会を設けて下さりありがとうございました。質疑応答の時間が十分に設けられており多くの質問がでたことで理解が深まりました。
講演会のセッティングありがとうございました。同時通訳や、おそらくご説明の速度もゆっくりでスライドもよく拝見できました。

2. 産学連携

(1) OCHA-SDGs 共創コンソーシアム開催（第二回・第三回）

昨年度開催した、第一回「OCHA-SDGs 企業連携コンソーシアム」では、本研究所に期待する多くの意見が得られたため、本年度は、「エシカルでサステナブルな社会実装プログラム」を作成した。連携を希望する民間企業へ個別説明に伺い、「OCHA-SDGs 共創コンソーシアム」と名称変更し、第二回、第三回の開催に至った。

本コンソーシアムの開催趣旨は、SDGs 達成のためのエコシステムを構築し、大学・企業双方の連携について模索すること、各企業でSDGsを牽引する立場から、Z世代主導のSDGs活動について提言いただくことを開催趣旨とした。

第二回開催概要

第二回 OCHA-SDGs 共創コンソーシアム プログラム		
日時	2023年11月16日（木）14:00～16:00	
場所	本館 213 室 第一会議室	
話題提供・講演		
1	附属高校の取組から見るエシカル消費	お茶の水女子大学附属高校 葎内ありさ
2	企業価値向上に資する SDGs 経営～カーボンニュートラル社会への実現に向けた投融資の観点から～	ラザード・ジャパン・アセット マネージメント 福田智美
3	環境・社会・経済の調和と循環型社会の実装	日本工営株式会社 菊池淳子

民間企業 7 社から 15 名が参加した。学生委員を交え、質疑応答や意見交換が行われた。

第三回開催概要

第三回 OCHA-SDGs 共創コンソーシアム プログラム		
日時	2024年2月8日(木) 11:30~13:00	
場所	共通講義棟 2号館 101室	
事例紹介		
1	エシカルでサステナブルな循環型社会への移行に向けて(オンライン)	東京大学未来ビジョン研究センター グローバル・コモンズ・センター 梶川裕矢教授
2	フェアトレードチョコレートのおいしさ評価	SDGs 推進研究所学生委員 伊東和佳菜、有村卯波
3	お茶の水女子大学との連携について～「人財育成」を目的とした取り組み～	株式会社セブン&アイ・ホールディングス サステナビリティ推進部 村上健夫氏

民間企業 8 社より 13 名、本研究所から 10 名が参加した。

(2) 東京ガス株式会社との「地域のレジリエンス力向上及びサステイナブル・キャンパスの実現に向けた包括連携協定」締結

これまで主に食物栄養学科の教員との間で、食育の推進や調理科学の研究等で連携してきた東京ガス株式会社および旧東京ガスネットワーク株式会社と連携し、その一環として施設見学①～④を行った。

施設見学

- ①がすてなーに(東京都江東区豊洲 6-1-1)
- ②豊洲スマートエネルギーセンター(東京都江東区豊洲 6-4)
- ③YANMAR TOKYO(東京都中央区八重洲 2-1-1)、
八重洲地区エネルギーセンター(東京都中央区八重洲 2-2-1)
- ④ガス供給指令センター(東京都港区海岸 1-5-20)

また、近年各地で自然災害が頻発する状況において、地域のレジリエンス力向上を目指す取組についても連携を強化することで合意し、2024年2月28日協定締結に至った。連携事項は以下5項目とした。

- 1) 地域のレジリエンス力向上に関わる共同研究・共同事業に関する事項
- 2) サステイナブル・キャンパスの実現に向けた取組に関する事項
- 3) SDGs 推進に関わる専門的人材の育成に関する事項
- 4) SDGs 推進に係る取組等の発信に関する事項
- 5) その他、本協定の目的を達成するために必要な事項

1) では、本学が有する災害食や健康危機管理、トイレや水等の生活環境整備、避難所におけるジェンダーへの配慮等に関する知見と、東京ガス社が有する非常電源設備等に関する知見を活用し、自治体のレジリエンス力の向上を支援するサービスを共同で開発することで、2024年2月より共同研究を開始した。



東京ガス社と共同開発する自治体支援サービス（イメージ）

(3) 株式会社セブン&アイ・ホールディングスとのワイガヤ会、賢者のレシピ考案、伊藤研修センター見学会

本学と（株）セブン&アイ・ホールディングス（以下、セブン&アイ）とは、2022年9月26日にSDGsに関する包括的連携協力に係る協定を締結した。この協定に基づき、本研究所及びOCHA-SDGs学生委員会では以下の活動を行った。

① ワイガヤ会

協定の連携事項として、教育・人材育成の相互支援が掲げられていることから、セブン&アイのメンバーと学生が自由に議論する「ワイガヤ会」が開催された。2023年度は4月19日（水）、5月12日（金）、6月9日（金）、7月14日（金）、8月10日（木）、9月8日（金）、10月20日（金）、11月17日（金）に開催した。まずは、学生がSDGsに関連する様々な問題について、どんなことを考えているのか、どうなったらいいと思っているのかを聞き、それを実現させるためにはどうしたらいいか考えることに重点を置いてディスカッションを繰り返した。セブン&アイのメンバー、学生委員の共通する課題として、自分たちが取り組んでいる「SDGs推進活動」を社内、学内の人に知ってもらおうというものがあった。活動を社内外に広く知ってもらうために、セブン&アイから東京ビエンナーレへの参加、セブン&アイHP「賢者のレシピ」への



2023年11月17日ワイガヤ会の様子

メニュー提案等の企画が提示された。また、9月以降は、(株)セブン&アイ・フードシステムズ(以下、7FS)の社員もワイガヤ会に加わり、メイン事業のデニーズで行っているmottECO(飲食店でのフードロス削減のため、食べ残しの持ち帰りを促す活動)や、食品リサイクルループ(デニーズ店舗で排出されるコーヒー豆かすを乳牛の飼料とし、その乳牛の生乳を料理に使う取り組み)についての紹介、実施にいたるまでに苦労した点、もっと広めるための課題点の紹介があった。mottECOやフードロス削減についてより深く議論するため、伊藤研修センターでの見学会が提案された。

② 賢者のレシピ考案

セブンプレミアムの運営するレシピサイト「賢者のレシピ」では、「たいせつにつくる、たいせつに食べる」をテーマに、おいしいだけでなく、食材を育てる人も、調理する人も、食べる人もみんながHAPPYになることを目指して、時短、フードロス削減のレシピを掲載している。毎月3品ずつ更新され、料理人のタサン志麻氏考案のレシピや、セブン&アイグループ企業の考案したレシピが掲載されている。2024年1月と2月に、OCHA-SDGs学生委員の考案したレシピが掲載された。



2024年1月・2月に公開されたメニュー(写真)

レシピのコンセプト、味、工程はすべて学生が考案し、事務局はセブン&アイとの連絡の中継点となり、準備を進めた。2024年1月5日に3品、2月1日に3品、合計6品が公開された。

2024年1月・2月に公開されたメニュー

1月公開メニュー	ふわっと出汁香る！白菜とお豆腐のコールスロー風 フライパンで作る！餅っちぎりぱん 包丁いらず、電子レンジで簡単サバゲッティ
2月公開メニュー	大豆衣のポテサラコロッケ アレンジ無限！お手軽ケーキサレ オートミールで一ロピザ風

また、レシピ公開に合わせて、賢者のレシピサイトだけでなく、セブン&アイのサステナビリティ活動を紹介するページにも掲載された。また、学生委員がレシピに込めた想いを紹介しながら賢者のレシピを PR する動画が作成され、3月8日に公開された。学生のインタビューやレシピの調理にも焦点が当てられ、充実した内容となった。



セブン&アイのサステナビリティ活動レポートに掲載された画像

セブン&アイ社のサステナビリティ活動レポート URL :

https://www.7andi.com/sustainability/statement/action/other_20240308_2/index.html



QR コード

③ 伊藤研修センター見学会

環境省令和5年度モデル事業 お茶の水女子大学×セブン&アイ・フードシステムズ連携研究「企業のパートナーシップによる環境推進～食ロス削減：mottECO 事業～」の一環として、2024年2月16日（金）に新横浜にあるセブン&アイ伊藤研修センターを訪問した。当日は、OCHA-SDGs 学生委員9名、事務局員2名、太田機構長の12名が参加した。

講師の7FS 中上氏は、7FS グループ企業の環境活動を熟知するだけでなく、環境カウンセラーとしても活動されており、SDGs や ECO についても詳しい話を聞くことができた。当日は、以下のプログラムに従い、進行された。

参加した学生からは、セブン&アイの取り組みを知るだけでなく、背景にある企業理念や方針を知ることで、自分自身の活動にもつながる考え方を知ることができた、といった感想があった。セブン&アイの取り組み、環境問題、セブン&アイの歴史を学ぶことにより多くの学びを得た。

伊藤研修センター見学会のスケジュール

開始	時間	トピック	内容
10:30	15分	自己紹介	学生、講師含めた全員の自己紹介、 GRP {Goals (目的)、Roles (役割)、Process (工程)} の共有
10:45	75分	7FS の環境の取り組みの紹介	デニーズをはじめとする事業紹介と環境に配慮した取り組み事例の紹介、mottECO 事業の紹介
12:00	60分	食事休憩	施設内食堂利用 食堂の従業員への質問
13:00	60分	地球環境と企業	なぜ、環境問題に取り組まなくてはいけないのか？このままだと地球はどうなるのか？をエコ検定の過去問と絡めて学ぶ
14:00	60分	伊藤研修センター1Fの史料室見学	社是や伊藤雅俊名誉会長の思い、歴史、これからの店舗づくり、未来のサービスなどの展示を見学
15:00	60分	ディスカッション・総括	mottECO を広げるための意見交換 総括 (太田機構長、河寄 RF、鈴木 AA)



講義の様子



食堂のスタッフへのフードロスに関するインタビュー



集合写真

参加した学生の感想（一部）

SDGs に関して、セブン&アイさんが行ってきた事例だけでなく、その背景となる理念や方針といったことまで教えて頂き、普段自分が行っている活動に繋がる考え方を知ることが出来ました。環境問題に対する取り組みをコストではなく投資として捉えるという姿勢や、社会へどう影響するのかを考慮にいたれたアプローチの仕方など、企業ならではの方策を学ぶ貴重な体験になったと感じます。お客さまや取引先、社員に対しても常に誠実であろうとするという心構えは、ともすると一方的に捉えられてしまいがちな SDGs への取り組みを、どう伝え普及させていくのか考える上で非常に重要なのではないかと考えました。SDGs への向き合い方は、その主体の立場や見方によって様々な形があると思うのですが、このように普段とは違う着眼点を学ぶことは、改めて自分自身の在り方を考え直す良い機会になったと思います。

日本の大きな企業として SDGs に貢献する姿勢を学ぶことができました。普段私が考えているような生活者目線とは違った切り口があり、会社の利益も考える必要があるとわかりました。その中で mottECO はそれ自体は利益を生み出さない取り組みで容器を作るお金もかかってしまいます。私は大学の授業でサステナビリティと利益が結びつかないことが問題視されていると学びました。直近の利益にはならなくとも長期的に考えて地球の利益になることも大事ですが、サステナビリティの取り組みが直接利益に繋がるようになることでもっと多くの企業が参加できると考えました。授業や学生委員会の活動を通して自分にできる SDGs について考えてきましたがその答えのひとつが見つかった気がします。まず簡単にできることとしてサステナビリティへの取り組みが利益に直結するような社会を作るように情報を発信したり、取り組んでいる企業を応援することです。小さな事かもしれませんが SDGs への取り組みが評価されることに少しでも貢献できれば良いと思います。

3. 地域連携

(1) OCHA-SDGs 勉強会「私たちのごみはどこに行くんだろう？—文京区の清掃・リサイクルの現状について—」開催

2023年7月13日に2023年度第1回OCHA-SDGs勉強会「私たちのごみはどこに行くんだろう？—文京区の清掃・リサイクルの現状について—」が開催された。この勉強会は学生委員会が企画し、文京お届け講座（※）に申し込むことで実現した。講師の文京区資源環境部リサイクル清掃課リサイクル推進係加藤氏より、文京区の清掃・リサイクルの現状について話を伺った後、参加者のディスカッションを通して、私たちが出すごみとの向き合い方について考えた。

※文京お届け講座：文京区民を中心とする団体・グループの学習会に区の職員等が出向き、区の取り組みや職務に関する専門知識を生かした内容をお話するもの

主催：OCHA-SDGs学生委員会
協力：お茶の水女子大学SDGs推進研究所

2023年度第1回OCHA-SDGs勉強会

私たちのごみは
どこに行くんだろう？
—文京区の清掃・リサイクルの現状について—

2023年7月13日(木) 16:40~18:10

お茶の水女子大学の位置する文京区では、私たちが出すごみはどのように処理されているのでしょうか。文京区資源環境部リサイクル清掃課加藤様にご講演いただき、ごみの関わり方について考えます。

場所：お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ2階多目的ホール
参加形式：対面およびオンライン（Zoomによるリアルタイム配信）
・前半→「文京区の清掃・リサイクルの現状について」
・後半→参加者でごみとの関わり方についてディスカッション、質疑応答

参加対象者：どなたでも（一般の方はZoomのみでの参加になります）
参加費：無料 お申し込みはこちらから→

お問い合わせ：OCHA-SDGs学生委員会幹部（ochasdgsl@gmail.com）

(2) 文京区クールアースフェア出展

2023年8月4日(金) 文京区役所にて、OCHA-SDGs 学生委員会が『クールアースフェア』に出展した。

クールアースフェアは、文京区が例年開催する地球温暖化対策をテーマにしたイベントであり、例年、各参加団体より、環境負荷に配慮した事業の紹介や、一般住民への普及啓発を意図した展示が行われる。

2023年度は、14の企業・団体に加え、区内4大学(お茶の水女子大学、東京大学、東洋大学、文京学院大学)が初めて出展した。本学からはOCHA-SDGs 学生委員会が参加し、学生生活における他大学連携先の東京大学、東洋大学と出展内容について話し合いながら、各大学独自の展示を行った。OCHA-SDGs 学生委員会は、生活者の日常的配慮で削減可能なCO₂(温室効果ガス)排出量についての情報をカードにまとめ模造紙にて発表した。また、来場者による実践例の寄せ書きを受け付けるインタラクティブな展示品「クールアースどけい」を展示したところ、模造紙いっぱいの寄せ書きが集まった。一般市民の生活に裁断のない省エネ行動を喚起する本取組には、学生委員の地域と一体となった環境正義への追求心が窺われる。



文京区 HP に掲載されたイベントポスター



学生委員の作成した展示物

手引きの効果的な使い方

- ① 家の目につく場所に貼る
- ② お財布に挟んで持ち歩く
- ③ できたかどうか振り返る

少しの変化から始めて環境に優しいアクションを心掛けていきましょう！

SDGs 推進研究所とは
「暮らし環境の改善を促すの活動として、環境と暮らしの両立を促す」をミッションとし、学生生活における実践に資するSDGsの推進を目的とする。また、SDGsの推進を目的とする。また、SDGsの推進を目的とする。

OCHA-SDGs 学生委員とは
お茶の水女子大学に在るSDGsへの関心を高めるための活動を行う。また、SDGsの推進を目的とする。また、SDGsの推進を目的とする。

各種SNS
★LINE★ Instagram★ Twitter
お問い合わせはコチラまで
sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所 クールアースアクションポケット手引き

数値は1年あたりのCO₂削減量

衣類乾燥機を使わず自然乾燥させる 32.31kg/年*	プラスチックごみをなるべく減らす 約380kg(にみ11袋あたり)	家族で間隔を空けて入浴する 54.16kg/年*
お湯ではなく水を使って洗濯をする 約183kg/年	ペットボトルの代わりにマイボトルを持ち歩く 約111.96kg/年	家族みんなでの一つの部屋で過ごす 43.92kg/年*
電気ポットの保温機能をオフにする 143.38kg/年*	冷房の設定温度を26度から28度上げる 103.18kg/年*	シャワーの時間を1日1分短縮する 約23kg/年
冷房の使用時間を2時間減らす 33.90kg/年*	テレビの使用時間を1日1時間減らす 19.68kg/年*	冷蔵庫がいっぱいにならないようにする 約18kg/年
ドライヤーの使用時間を減らす 約21.9kg/年	部屋を出るときに電気を消す 13.43kg/年*	食器をお湯ではなく水で洗う 8.38kg/年*
洗濯の仕方を工夫する(※とめぬい・スピードコース) 10.80kg/年*	ゲームをする代わりに外で遊ぶ 約2.1kg/年	食べ物を冷ましてから冷蔵庫に入れる 8.14kg/年*

*カードゲーム「FCN2030」の値を引用

学生委員が作成し会場で配布したCO₂(温室効果ガス)削減に関するパンフレット

(3) 文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会参加

第2回 文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会が行われ、本学からは赤松利恵副学長、藤原葉子名誉教授、笠松千夏特任教授が参加し、学生委員から2件報告を行った。

第2回文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会		
日時	2023年11月22日(水) 16:00~18:40	
場所	文京シビックセンター 5階 区民会議室5C	
司会	日本薬科大学 学長 都築稔	
開会 挨拶	東京大学 理事・副学長 大久保達也	
文京区内各大学と大学生協のサステナビリティ関連取組紹介(各15分)		
	「東京大学のGX推進の取組み」	東京大学 理事・副学長 大久保達也
	「日本女子大学のサステナビリティ取組状況について」	日本女子大学 副学長 宮崎あかね
	「東洋大学におけるSDGs関連の取組み～地域連携・高大連携を中心に～」	東洋大学 副学長/SDGs推進センター長 川口英夫 学生 加曽利峻佑
	「学生から始める大学GX」	東京大学 学生 秋山知也、中谷郁斗、水野那奈子、別木苑果、中野留帆
休憩(5分)		
	「日本薬科大学のサステナビリティ取組状況について」	日本薬科大学 地域連携センター長 井上裕子
	「SGDs達成に向けた中央大学の取組み：学生との連携に着目して」	中央大学 副学長 佐藤信行
	「OCHA-SDGs学生委員会活動紹介」 「Ocha Eco弁当・お茶の水女子大学生協食堂における食品ロス削減の取組」	お茶の水女子大学 学生 森下華、久祢田珠暉
	「東大生協のGXの取組み紹介」	東京大学消費生活協同組合 専務理事 中島達弥
	文京区役所からのお知らせ	環境政策課長 橋本万多良
各団体より感想及び講評など(各2分)		
	その他参加大学：順天堂大学、跡見学園女子大学、東洋大学生協生活協同組合	
閉会		



当日の様子

4. 国際連携

(1) 台北医学大学との国際シンポジウム参加

SDGs 協定を締結している台北医学大学と国際シンポジウムを開催し、本研究所からは藤原葉子名誉教授が座長を務め、赤松利恵副学長、笠松千夏特任教授が口頭発表を行った。

当日は学生 2 名が司会を担当し、約 50 名が参加した。卒業生の Shen Sung 管理栄養士監修グリーンダイエットの弁当が学内で調理され、プログラムの最後で参加者全員に提供された。

Time	Topic	Moderator	Speaker
Registration			
08:30 - 08:30	Registration		
08:30 - 08:40	Welcome Remarks	Lusia Shu-Ying Chang / Professor	
08:40 - 09:00	The Health of the Earth and Ours Through Dietary Change	Yu KAWAMURA / Professor	Yu KAWAMURA / Professor
09:00 - 09:30	GDA	Yoko KAWAMURA / Professor	Yoko KAWAMURA / Professor
09:30 - 09:30	How can I avoid a diet with carbs to lose weight?	Chiharu KAWAMURA / Professor	Chiharu KAWAMURA / Professor
09:30 - 09:30	GDA		
Break			
09:30 - 09:30	Relationship Between Gut Microbiota and Energy Expenditure in Dietary Exclusion for Overweight/Obese People	Yoko KAWAMURA / Professor	Yoko KAWAMURA / Professor
09:30 - 09:30	GDA	Yoko KAWAMURA / Professor	Yoko KAWAMURA / Professor
09:30 - 09:40	Practical Health Issue of Dietary Protein Intake	Yu-Chia Hsu / Associate Professor	Yu-Chia Hsu / Associate Professor
09:40 - 09:40	GDA		
Break			
10:00 - 10:20	Efficient Green-Light Presentation: A Case Study for Reducing the Cost of Study People	Yoko KAWAMURA / Professor	Yoko KAWAMURA / Professor
10:20 - 10:20	GDA	Yoko KAWAMURA / Professor	Yoko KAWAMURA / Professor
10:20 - 10:30	Closing	Rong-Hong Hsieh / Professor	Rong-Hong Hsieh / Professor
10:30 - 10:40	Closing	Rong-Hong Hsieh / Professor	Rong-Hong Hsieh / Professor

Organizers: [Logos]
Co-organizers: [Logos]

イベントポスター



Lusia Shu-Ying Chang 副学長



Rong-Hong Hsieh 学部長と



当日の様子



Sustainable Green Diet

開催概要

テーマ	International Conference on Sustainable Green Diets to Save the World	
日時	2023年10月28日(土) 8:30~12:30	
場所	台北医学大学 総合医学棟 16階 国際会議場	
主催	台北医学大学高齢者栄養研究センター、同栄養医学研究センター、同栄養学科、お茶の水女子大学SDGs推進研究所	
共催	台北医学大学栄養学部、アジア太平洋がんおよび慢性疾患栄養学会	
次第	Welcome Remark	Lusia Shi-Ying Chang/Professor Vice President, Taipei Medical University
	Moderator: Yoko Fujiwara/Professor Emeritus	
	The Health of the Earh and Ous Through Dietary Lifestyle	Rie Akamatsu/Professor Vice President, Nutrition and Food Science, Himan Life and Environmental Science, Ochanomizu University
	How can Umami & Koku contribute to Sustainable Diet	Chinatsu Kasamatsu/Project Professor Institute for SDGs Promotion, Ochanomizu University
	Break	
	Moderator: Jane C-J Chee/Professor	
	Relationship Between Instrumental Analysis and Sensory Evaluation in Texture Evaluation for Commercially Packaged Foods	Seon S-H Lin/Professor School of Nutrition and Health Sciences, Taipei Medical University
	Potential Health Risks of Dietary Pesticide Exposure	Yu-Chen Hou/Associate Professor Chair, School of Food Safety, Taipei Medical University
	Break	
	Moderator: Yue-Hwa Chen/ Professor	
	Efficient Green Latte Preparation: A Convenient Solution for Balancing the Diet of Elderly People	Shen Sung/Dietitian Dietitian's Kitchen, Coordinator of Community-Based Dementia Care Center
	Closing	Rong-Hong Hsieh/Professor Dean, College of Nutrition, Taipei Medical University
	Experiencing the Sustainable Green Diet	

(2) ポツダム大学ペトラ=ヴァルシュブルガー教授講演会
pp.46-48 参照。

(3) 東京大学国際シンポジウム“Signals for Human, Animal and Planetary Health: from Metabolites to Biological Interactions”発表

2024年3月4～8日に東京大学弥生講堂で開催された国際シンポジウム「インスリン様活性調節を介した健康維持戦略の研究拠点形成」に参加した。

本シンポジウムは、東京大学大学院農学生命科学研究科が2021年度日本学術振興会（JSPS）の研究拠点形成事業（Core-to-Core Program）に採択されて以来行っているもので、本学SDGs推進研究所は、食のSDGsを推進する人材育成・教育の面で交流を行っていた。具体的には東京大学農学部 One Earth Guardian プログラムで行われる授業 One Earthology（Ⅰ）～（Ⅲ）の発表会に招待され、食を中心とした社会課題の解決に向けた学生たちと企業の連携に関する実績を共有した。

本国際シンポジウムでは、最初のセッションで、東京大学大久保達也副学長による「Overview of U Tokyo Climate Action」、東京大学中西もも准教授による「“What can we do for the Earth in the next 100 years?” One Earth Guardian Development Program」に続き、本学藤原葉子名誉教授が「Seikatsu-sha-oriented OCHA-SDGs : Introduction of Institute for SDGs Promotion in Ochanomizu University」と題し、本年度の研究所の取組を発表した。2030年以降（Beyond SDGs）について、特に中学生・高校生を巻き込んだSDGs課題解決についてディスカッションが行われた。



当日の様子

5. 附属学校園との連携

(1) フードドライブ

昨年度に引き続き、本学のSDGs推進活動の一環として、10月より附属学校園（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）と協働でフードドライブを実施した。本年度はセブン&アイと同時開催とせず、学生委員と各学校園が個別に連携し、よりSDGs活動を自分ごと化し、フードドライブの認知度をあげることを目的に実施することとした。

本活動により、昨年度と同程度の約 200kg の食品が収集され、NPO 法人セカンドハーベスト・ジャパンに寄付された。2024 年 1 月に開催された振り返りの会では、本学のフードドライブは「おすそ分け」がキーワードになったことや、来年度に向けての反省点が共有された。

実施概要

対象	本学・附属学校園
日時	2023 年 10 月～12 月 ※実施主体（大学・各附属学校園）により異なる
場所	各大学・附属学校園が個別に設定
方法	・回収場所に Box を設置し、児童、生徒、学生、保護者、教職員に食品の寄付を募った ・実施前・実施後に広報活動を行った



大学フードドライブのポスター

(2) 附属学校授業参観・公開研究会参加

附属学校の授業参観を通じて、OCHA-SDGs 学生委員に最先端のエシカル教育を学ぶ機会を提供した。なお、授業参観や学生委員と附属学校園との連携にあたり、基本的な注意事項や、生徒の個人情報保護のために遵守すべき事項が共有された。

参観した附属学校授業の概要

年月	連携先	授業概要	参加人数
2023 年 10 月	附属中学校	公開研究会への参加	2 名
2024 年 2 月	附属高校・小学校	家庭総合授業（小学校訪問授業）	2 名（事務局員のみ）

(3) IoT 家電を使用した授業の支援

本研究所の研究協力員である附属中学校の有友愛子教諭の「サステナブルで豊かな暮らしを創造し、探求する中学校家庭科の授業」について、本研究所の趣旨・目的に合致することから研究費用や授業計画策定の支援をした。中学生の調理実習で肉じゃがを作る際、IoT 家電の調理、従来のガス火調理の 2 種類の方法を比較し、アンケートで中学生がどう感じるかを調査するという計画の中で、授業で使用する IoT 家電の一部を手配した。事前の予備調理にも参加し、授業中に使用する質問紙作成をフォローした。本授業を研究としてまとめるために、研究計画の立案や倫理申請書類作成のサポートも行った。

(4) エシカルラーニングラボへの参加

附属高校、附属中学校、附属小学校の家庭科教諭、附属小学校の栄養教諭、附属幼稚園教諭により行っているエシカルラーニングラボの 3 月定例会に参加した。

3月の定例会では、2月22、23日に行われ、本研究所メンバーも参観した「チョコレートと児童労働」をテーマとした高小連携授業※を受けて、研究所主催で2月8日に行った「カカオで学ぶSDGs」公開セミナーと第3回OCHA-SDGs共創コンソーシアムの内容を共有した。株式会社明治木原純氏の講演ではカカオにこだわった「ザ・チョコレート」4種類を参加者に配り、1種類ずつ、映像と音楽と共にゆっくりと味わい、時間経過とともに感じられる味風味を楽しむ「ビジュアルライズドテイスティング」が紹介されたことを説明した。また、JICA堀田さくら氏より紹介された、堀田氏が芸人チョコレートプラネットと共に出演している「チョコっと知りたーい！チョコレートの裏側」（吉本興行 YouTube チャンネル）、SDGs推進研究所学生委員味覚評価部が自主活動で行った「フェアトレードチョコレートと飲料のペアリング評価」について紹介し、食にまつわるSDGsについて情報交換を行った。

※高小連携授業：高1生が小5生のクラスに行き、授業し、グループでディスカッションを行う内容であった。附属小学校ではこの時期に、フェアトレードチョコレートを使った給食も提供した。

6. アウトリーチ活動

関連するSDGsの目標別に記載した。※重複する項目は、()に記載

目標1に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
1(4)	浜野隆	2023年 5月	発展途上国の貧困問題を解決するために必要な英語教育	啓明学園高等学校	高校生

目標3に関連するアウトリーチ活動(1)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
3(4)	刑部育子	2023年 9月	暮らしの中で楽しむ乳幼児の運動遊び	お茶の水女子大学 保育マネジメント研究会	一般、専門職
3(12)	赤松利恵	2023年 5月	What Is Food Literacy?	Food Literacy International Partnership	一般
3(4)	赤松利恵	2023年 5月	令和5年度 岡山県栄養教諭・学校栄養職員研修会	岡山県教育庁 保健体育課	専門職

目標 3 に関連するアウトリーチ活動 (2)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
3 (12,13)	赤松利恵	2023 年 7 月	德音塾 講座「お茶大 プロフェッショナルレ クチャー」	お茶大女性リ ーダー育成 塾：德音塾	一般
3 (4)	赤松利恵	2023 年 8 月	令和 5 年度 東京都学校 栄養職員経験者 前期 (6 年次) 研修 (校外 研修)	東京都教育庁 地域教育支援 部	専門職
3	赤松利恵	2023 年 9 月	令和 5 年度 地域健康づ くり講習会	千葉県長生健 康福祉センタ ー	専門職
3 (12,13)	赤松利恵	2023 年 10 月	International Conference on Sustainable Green Diets to Save the World	Taipei Medical University	一般
3 (4)	赤松利恵	2023 年 11 月	令和 5 年度 大分市学校 給食研修会	大分市教育委 員会	専門職
3 (4)	赤松利恵	2023 年 11 月	令和 5 年度 学校栄養職 員等研修 (第 1 回)	東京都教育委 員会	
3 (12,13)	赤松利恵	2023 年 12 月	兵庫県立大学 環境人間 学部 25 周年記念事業基 調講演	兵庫県立大学 環境人間学部	一般
3 (4)	赤松利恵	2024 年 1 月	令和 5 年度 食育推進リ ーダー連絡会 (第 2 回)	新宿区教育委 員会	専門職
3 (4)	赤松利恵	2024 年 1 月	令和 5 年度 「学校給食 週間記念行事」講演会	さいたま市教 育委員会	専門職
3 (4)	赤松利恵	2024 年 2 月	令和 5 年度 専門研修 「栄養士」	特別区職員研 修所	専門職
3 (4)	赤松利恵	2024 年 2 月	君津保健所管内栄養士 協議会 研修会	君津保健所管 内栄養士協議 会	専門職

目標 3 に関連するアウトリーチ活動 (3)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
3 (4)	須藤紀子	2023 年 8 月	令和 5 年度 第 1 回管 理者研修会	東大阪市集団 給食研究会	専門職
3 (4)	須藤紀子	2023 年 8 月	令和 5 年度 地域保健関 係職員研修会	岐阜県東濃保 健所・恵那保 健所	専門職
3 (4)	須藤紀子	2023 年 9 月	令和 5 年度 特定給食施 設栄養技術講習会	東京都北区保 健所	専門職
3 (4)	須藤紀子	2023 年 9 月	令和 5 年度 北薩地域集 団給食施設連絡協議会 全体研修会	北薩地域集団 給食施設連絡 協議会	専門職
3 (4)	須藤紀子	2023 年 10 月	2023 年度 課題別研修 「マルチセクターで取 り組む食を通じた栄養 改善 (政策策定者向け ／実務者向け)」 コース 研修	NPO 法人 国 際農民参加型 技術ネットワ ーク	専門職
3 (4)	須藤紀子	2023 年 11 月	令和 5 年度 京都市特定 給食施設等講習会	京都市保健福 祉局	専門職
3 (4)	須藤紀子	2023 年 11 月	給食施設管理者・栄養 士研修会	千葉県野田保 健所	専門職
3 (4)	須藤紀子	2024 年 1 月	令和 5 年度 給食施設管 理者研修会	千葉県君津健 康福祉センタ ー (君津保健 所)	専門職
3 (4)	須藤紀子	2024 年 1 月	令和 5 年度 給食施設ス キルアップ研修会	千葉県市川保 健所 (市川健 康福祉センタ ー)	専門職
3 (4)	須藤紀子	2024 年 1 月	令和 5 年度 兵庫県但馬 圏域給食施設協議会全 体研修会	兵庫県朝来健 康福祉事務所	専門職
3 (4)	須藤紀子	2024 年 1 月	特定給食施設等オンラ イン管理講習会	新宿区保健所	専門職

目標 3 に関連するアウトリーチ活動 (4)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
3 (4)	須藤紀子	2024 年 2 月	令和 5 年度 栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	専門職
3 (4)	須藤紀子	2024 年 2 月	令和 5 年度 江東区給食施設講習会	江東区保健所	専門職
3 (4)	須藤紀子	2024 年 2 月	令和 5 年度 三重県松坂保健所・伊賀保健所合同給食従事者研修会	三重県松坂保健所・伊賀保健所	専門職
3 (4)	須藤紀子	2024 年 3 月	令和 5 年度 豊中市栄養士研修会	豊中市健康医療部コロナ健康支援課	専門職
3 (4,5)	市育代	2023 年 9 月	令和 5 年度 女子中高生の理系進路選択支援プログラム / 理系フロンランナー・シリーズ発掘・育成・強化プログラム / 第 1 回食べ物に関心のある人たち集まれセミナー	お茶の水女子大学 理系女性育成啓発研究所	一般 (女子中学生・保護者)
3 (4)	佐藤瑤子	2023 年 7 月	板橋区小中学校調理講習会, 「給食生産への調理科学の活用」講師	板橋区	区内給食従事者
3 (4)	佐藤瑤子	2024 年 2 月	葛飾区管理技術者講習会, 「給食生産への調理科学の活用」講師	葛飾区	区内給食従事者

目標 4 に関連するアウトリーチ活動 (1)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
4 (3)	刑部育子	2023 年 9 月	暮らしの中で楽しむ乳幼児の運動遊び	お茶の水女子大学 保育マネジメント研究会	一般、専門職
4 (3)	赤松利恵	2023 年 5 月	令和 5 年度 岡山県栄養教諭・学校栄養職員研修会	岡山県教育庁保健体育課	専門職

目標 4 に関連するアウトリーチ活動 (2)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
4 (3)	赤松利恵	2023 年 8 月	令和 5 年度 東京都学校栄養職員経験者 前期 (6 年次) 研修 (校外研修)	東京都教育庁地域教育支援部	専門職
4 (3)	赤松利恵	2023 年 11 月	令和 5 年度 大分市学校給食研修会	大分市教育委員会	専門職
4 (3)	赤松利恵	2023 年 11 月	令和 5 年度 学校栄養職員等研修 (第 1 回)	東京都教育委員会	
4 (3)	赤松利恵	2024 年 1 月	令和 5 年度 食育推進リーダー連絡会 (第 2 回)	新宿区教育委員会	専門職
4 (3)	赤松利恵	2024 年 1 月	令和 5 年度「学校給食週間記念行事」講演会	さいたま市教育委員会	専門職
4 (3)	赤松利恵	2024 年 2 月	令和 5 年度 専門研修「栄養士」	特別区職員研修所	専門職
4 (3)	赤松利恵	2024 年 2 月	君津保健所管内栄養士協議会研修会	君津保健所管内栄養士協議会	専門職
4 (3)	須藤紀子	2023 年 7 月	「南アジア地域・マルチセクターで取り組む栄養改善」コース研修	NPO 法人 国際農民参加型技術ネットワーク	専門職
4 (3)	須藤紀子	2023 年 8 月	令和 5 年度 第 1 回管理者研修会	東大阪市集団給食研究会	専門職
4 (3)	須藤紀子	2023 年 8 月	令和 5 年度 地域保健関係職員研修会	岐阜県東濃保健所・恵那保健所	専門職
4 (3)	須藤紀子	2023 年 9 月	令和 5 年度 北薩地域集団給食施設連絡協議会全体研修会	北薩地域集団給食施設連絡協議会	専門職
4 (3)	須藤紀子	2023 年 9 月	令和 5 年度 特定給食施設栄養技術講習会	東京都北区保健所	専門職
4 (3)	須藤紀子	2023 年 10 月	2023 年度課題別研修「マルチセクターで取り組む食を通じた栄養改善 (政策策定者向け/実務者向け)」コース 研修	NPO 法人 国際農民参加型技術ネットワーク	専門職

目標 4 に関連するアウトリーチ活動 (3)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
4 (3)	須藤紀子	2023 年 11 月	給食施設管理者・栄養士 研修会	千葉県野田保健 所	専門職
4 (3)	須藤紀子	2023 年 11 月	令和 5 年度 京都市特定 給食施設等講習会	京都市保健福祉 局	専門職
4 (3)	須藤紀子	2024 年 1 月	令和 5 年度 給食施設管 理者研修会	千葉県君津健康 福祉センター (君津保健所)	専門職
4 (3)	須藤紀子	2024 年 1 月	令和 5 年度 給食施設ス キルアップ研修会	千葉縣市川保健 所 (市川健康福 祉センター)	専門職
4 (3)	須藤紀子	2024 年 1 月	特定給食施設等オンライ ン管理講習会	新宿区保健所	専門職
4 (3)	須藤紀子	2024 年 1 月	令和 5 年度 兵庫県但馬 圏域給食施設協議会 全 体研修会	兵庫県朝来健康 福祉事務所	専門職
4 (3)	須藤紀子	2024 年 2 月	令和 5 年度 江東区給食 施設講習会	江東区保健所	専門職
4 (3)	須藤紀子	2024 年 2 月	令和 5 年度 三重県松坂 保健所・伊賀保健所合同 給食従事者研修会	三重県松坂保健 所・伊賀保健所	専門職
4 (3)	須藤紀子	2024 年 2 月	令和 5 年度 栄養管理講 習会	東京都多摩府中 保健所	専門職
4 (3)	須藤紀子	2024 年 3 月	令和 5 年度 豊中市栄養 士研修会	豊中市健康医療 部コロナ健康支 援課	専門職
4 (1)	浜野隆	2023 年 5 月	発展途上国の貧困問題を 解決するために必要な英 語教育	啓明学園高等学 校	高校生
4	浜野隆	2023 年 8 月	非認知能力の大切さにつ いて	一般社団法人ダ ヴィンチマスタ ーズ	一般
4	浜野隆	2023 年 9 月	ECD の概念・重要性・ 日本的特質	国際協力機構	専門職

目標 4 に関連するアウトリーチ活動 (4)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
4	浜野隆	2023 年 10 月	Teaching Practice : Collaboration between University and Attached Schools	国際協力機構	専門職
4	浜野隆	2023 年 10 月	日本の就学前教育	国際協力機構	専門職
4	浜野隆	2023 年 11 月	非認知能力の大切さにつ いて	一般社団法人 ダヴィンチマ スターズ	一般
4	浜野隆	2024 年 3 月	非認知能力の重要性	一般社団法人 ダヴィンチマ スターズ	一般
4 (3,5)	市育代	2023 年 9 月	令和 5 年度女子中高生の 理系進路選択支援プログ ラム / 理系フロントラ ンナー・シーズ発掘・育 成・強化プログラム / 第 1 回食べ物に関心のある 人たち集まれセミナー	お茶の水女子 大学 理系女 性育成啓発研 究所	一般 (女子中 学生・保護 者)
4	長谷川直 子	2024 年 3 月	ジオナイト 2024	日本地理学会	小学 4 年生か ら 6 年生
4 (3)	佐藤瑤子	2023 年 7 月	板橋区小中学校調理講習 会, 「給食生産への調理 科学の活用」講師	板橋区	区内給食従事 者
4 (3)	佐藤瑤子	2024 年 2 月	葛飾区管理技術者講習 会, 「給食生産への調理 科学の活用」講師	葛飾区	区内給食従事 者
4	雨宮敏子	2023 年 12 月	特別活動 ハイレベル講 座	鳥取県	一般 (鳥取県 立米子高等学 校全校生徒と 教員)

目標 5 に関連するアウトリーチ活動 (1)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
5 (8)	斎藤悦子	2023 年 3 月～ 2024 年 3 月	福井県男女共同参画 審議会	福井県	一般
5 (8)	斎藤悦子	2023 年 5 月～ 7 月	港区男女平等参画推 進会議	港区	一般
5 (8)	斎藤悦子	2023 年 5 月～ 7 月	独立行政法人女性教 育会館外部評価委員 会	独立行政法人女 性教育会館	専門職
5 (8)	斎藤悦子	2023 年 7 月～ 2024 年 3 月	ジェンダード・イノ ベーション研究所産 学交流会	ジェンダード・ イノベーション 研究所	一般
5 (8)	斎藤悦子	2023 年 8 月	2023 年度 JABES 研究法ワークショップ	日本経営倫理学 会	専門職
5 (8)	斎藤悦子	2023 年 8 月	令和 5 (2023) 年度 とちぎウーマン応援 塾	栃木県	一般
5 (8)	斎藤悦子	2023 年 10 月	富士通スモールリサ ーチラボ全国大会	富士通	専門職
5 (8)	斎藤悦子	2023 年 11 月	R5 ハッピーキャ リア縁カレッジ 講 演	福井県	一般
5 (8,17)	長澤夏子	2023 年 9 月	起業みつかるマーケ ット	三井不動産 × お茶の水女子大 学 &ジェンダ ード・イノベー ション	一般

目標 5 に関連するアウトリーチ活動 (2)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
5 (3,4)	市育代	2023 年 9 月	令和 5 年度 女子中高生の理系進路選択支援プログラム / 理系フロントランナー・シーズ発掘・育成・強化プログラム / 第 1 回食べ物に関心のある人たち集まれセミナー	お茶の水女子大学 理系女性育成啓発研究所	一般 (女子中学生・保護者)
5 (12)	新實五穂	2024 年 1 月	ファッションから考えてみるーファッションとジェンダーー	燕市男女共同参画講座 / 地域セミナー in つばめ	一般

目標 7 に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
7	藤山真美子	2023 年 11 月	一般社団法人日本トイレ協会 第 39 回全国トイレシンポジウム 2023 『公衆トイレからつながる「まち」と「ひと」』	日本トイレ協会	一般、専門職
7	藤山真美子	2023 年 6 月	取材対応「トイレ文化が映し出すもの」	日本経済新聞	一般

目標 8 に関連するアウトリーチ活動 (1)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
8 (5)	斎藤悦子	2023 年 3 月～2024 年 3 月	福井県 男女共同参画審議会	福井県	一般
8 (5)	斎藤悦子	2023 年 5 月～7 月	港区 男女平等参画推進会議	港区	一般
8 (5)	斎藤悦子	2023 年 5 月～7 月	独立行政法人 女性教育会館 外部評価委員会	独立行政法人女性教育会館	専門職

目標 8 に関連するアウトリーチ活動 (2)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
8 (5)	斎藤悦子	2023 年 7 月～2024 年 3 月	ジェンダード・イノベーション研究所 産学交流会	ジェンダード・イノベーション研究所	一般
8 (5)	斎藤悦子	2023 年 8 月	2023 年度 JABES 研究法ワークショップ	日本経営倫理学会	専門職
8 (5)	斎藤悦子	2023 年 8 月	令和 5 (2023) 年度 とちぎウーマン応援塾	栃木県	一般
8 (5)	斎藤悦子	2023 年 10 月	富士通スモールリサーチラボ全国大会	富士通	専門職
8 (5)	斎藤悦子	2023 年 11 月	R5 ハッピーキャリア 縁カレッジ 講演	福井県	一般
8 (9,12)	笠松千夏	2023 年 9 月	日本官能評価学会 第 107 回定例会	(一社) 日本官能評価学会企業部会	一般
8 (9,12)	笠松千夏	2024 年 1 月	日本官能評価学会 第 108 回定例会	(一社) 日本官能評価学会企業部会	一般
8 (9,12)	笠松千夏	2024 年 3 月	日本官能評価学会第 109 回定例会	(一社) 日本官能評価学会企業部会	一般
8 (9,12)	笠松千夏	2023 年 10 月	官能評価初級ワークショップ	(一社) 日本官能評価学会	一般
8 (9,12)	笠松千夏	2023 年 11 月	日本官能評価学会大会	(一社) 日本官能評価学会	一般
8 (9,12)	笠松千夏	2024 年 2-3 月	官能評価実践ワークショップ	(一社) 日本官能評価学会	一般
8	長澤夏子	2023 年 11 月	ワークプレイスセミナー	竹中工務店	専門職
8 (5,17)	長澤夏子	2023 年 9 月	起業みつかるマーケット	三井不動産 × お茶の水女子大学 & ジェンダード・イノベーション	一般

目標 9 に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
9 (8,12)	笠松千夏	2023 年 9 月	日本官能評価学 会第 107 回定例会	(一社) 日本官能 評価学会企業部会	一般
9 (8,12)	笠松千夏	2024 年 1 月	日本官能評価学会 第 108 回定例会	(一社) 日本官能 評価学会企業部会	一般
9 (8,12)	笠松千夏	2023 年 10 月	官能評価初級 ワークショップ	(一社) 日本官能 評価学会	一般
9 (8,12)	笠松千夏	2023 年 11 月	日本官能評価学会大 会	(一社) 日本官能 評価学会	
9 (8,12)	笠松千夏	2024 年 3 月	日本官能評価学会 第 109 回定例会	(一社) 日本官能 評価学会企業部会	一般
9 (8,12)	笠松千夏	2024 年 2-3 月	官能評価実践ワーク ショップ	(一社) 日本官能 評価学会	一般

目標 12 に関連するアウトリーチ活動 (1)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
12 (3)	赤松利恵	2023 年 5 月	What Is Food Literacy?	Food Literacy International Partnership	一般
12 (3,13)	赤松利恵	2023 年 7 月	德音塾 講座「お茶 大プロフェッショナ ルレクチャー」	お茶大女性リーダ ー育成塾：德音塾	一般
12 (3,13)	赤松利恵	2023 年 10 月	International Conference on Sustainable Green Diets to Save the World	Taipei Medical University	一般
12 (3,13)	赤松利恵	2023 年 12 月	兵庫県立大学環境人 間学部 25 周年記念事 業基調講演	兵庫県立大学環境 人間学部	一般
12 (3)	笠松千夏	2023 年 5 月	日本官能評価学会 第 106 回定例会	(一社) 日本官能 評価学会企業部会	一般
12 (3)	笠松千夏	2023 年 7 月	日本官能評価学会 第 5 回拡大講演会	(一社) 日本官能 評価学会企業部会	一般

目標 12 に関連するアウトリーチ活動（2）

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
12 (3)	笠松千夏	2023 年 9 月	日本官能評価学会 第 107 回定例会	(一社) 日本官 能評価学会企業 部会	一般
12 (3)	笠松千夏	2023 年 10 月	官能評価初級ワーク ショップ	(一社) 日本官 能評価学会	一般
12 (3)	笠松千夏	2023 年 11 月	日本官能評価学会大 会	(一社) 日本官 能評価学会	
12 (3)	笠松千夏	2024 年 1 月	日本官能評価学会 第 108 回定例会	(一社) 日本官 能評価学会企業 部会	一般
12 (3)	笠松千夏	2024 年 2-3 月	官能評価実践ワーク ショップ	(一社) 日本官 能評価学会	一般
12 (3)	笠松千夏	2024 年 3 月	日本官能評価学会 第 109 回定例会	(一社) 日本官 能評価学会企業 部会	一般
12 (3)	新實五穂	2024 年 1 月	ファッションから考 えてみる—ファッシ ョンとジェンダー—	燕市男女共同参 画講座/地域セ ミナーin つばめ	一般

目標 13 に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
13 (3,12)	赤松利恵	2023 年 7 月	德音塾 講座「お茶大 プロフェッショナルレ クチャー」	お茶大女性リー ダー育成塾：微 音塾	一般
13 (3,12)	赤松利恵	2023 年 10 月	International Conference on Sustainable Green Diets to Save the World	Taipei Medical University	一般
13 (3,12)	赤松利恵	2023 年 12 月	兵庫県立大学 環境人間 学部 25 周年記念事業 基調講演	兵庫県立大学環 境人間学部	一般

目標 17 に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
17 (5,8)	長澤夏子	2023 年 9 月	起業みつかる マーケット	三井不動産 × お茶の 水女子大学 & ジェンダ ード・イノベーション	一般

7. 学内 SDGs 推進活動

(1) THE インパクトランキングエントリー

THE インパクトランキングは、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が主催する、大学の社会貢献の取り組みを国連の SDGs の枠組みを使って可視化するランキングである。令和 5 年 6 月に公表されたランキング結果において、本学の総合順位は「1001+位 (全体 1705 大学エントリー)」となった。

ゴール別の順位では、Goal3 は「801-1000 位 (全体 1218 大学エントリー)」、Goal 4 は「1001+位 (全体 1304 大学エントリー)」、Goal 5 は「201-300 位 (全体 1081 大学エントリー)」、SDG17 は「1001+位 (全体エントリー1625 大学)」にそれぞれランクインした。なお、SDG5 については、国内の大学で第 1 位となる成果を上げた。

大学として初めてのエントリーとなった昨年に引き続き、本年度はエントリー項目を昨年度の 4 項目から大幅に増やして臨んだ。本年度エントリーした項目は以下に挙げる 9 項目である。結果は 2024 年 6 月に発表予定である。

本年度エントリーした目標

	Goal 3	すべての人に健康と福祉を
	Goal 4	質の高い教育をみんなに
	Goal 5	ジェンダー平等を実現しよう
	Goal 6	安全な水とトイレを世界中に
	Goal 7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに
	Goal 8	働きがいも 経済成長も
	Goal 11	住み続けられるまちづくりを
	Goal 12	つくる責任 つかう責任
	Goal 17	パートナーシップで目標を達成しよう

(2) SDGs 学内認知度初期値設定のための調査 (SDGs 認知度調査)

学内の SDGs 認知度初期値の取得のため、学生及び教職員を対象に、質問紙調査を実施した。SDGs 認知度の他、SDGs 達成への参画意識や生活行動についても調査した。学生向け認知度調査は、昨年度開始した調査を継続したもので、2023 年度新入生も対象とした。結果の詳細は巻末資料を参照。

実施概要

対象者	学生	教職員
実施時期	2023 年 2 月～6 月	2023 年 12 月～2024 年 1 月
有効回答者数	424 名	152 名
認知度※	95.5%	88.2%

※教示「あなたは、SDGs について知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。」に対し、肯定的回答 (3: 名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための 17 のゴールがあることを知っている～5: 上記 3 に加えて、17 のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている) を選択した者の割合。

(3) 学内公開講座「本物のダシを味わうことは教養である in Tokyo」開催

2023 年 11 月 1 日 (水)、学内公開講座「本物のダシを味わうことは教養である in Tokyo」をプラザにて開催した。申し込み受付開始からすぐに参加者が集まり、約 1 週間で定員に達した。

当日は、NPO 法人日本料理アカデミーに所属する京都の一流料理人が集結し、ダシの講義と引き方実演、5 軒の料亭のダシの味くらべを通して、日本料理そのものが持続可能な食を目指す SDGs であることを学んだ。参加者は 70 名だった。

当日の様子や料理人、参加した学生へのインタビューを含めた動画を作成し、本研究所ホームページで公開した。



イベントのポスター



作成した動画のサムネイル

(4) OCHA-SDGs 学生委員会代替わり（幹部交代式）

2023年4月1日（金）、OCHA-SDGs 学生委員会幹部交代式が共通講義棟1号館101室で開催された。2023年度初の定例会の場を活用し、2023年3月に開催されたOCHA-SDGs Action Award 授賞式を兼ね行った。2022年度学生委員会幹部と2023年度総務（旧幹部）メンバーが互いに代替わりの挨拶を行い、学生委員総勢による寄せ書き色紙を2022年度委員長にプレゼントした。2022年度藤原前研究所長、2023年度斎藤研究所長からは学生委員会活動に対する奨励の言葉をいただいた。また、OCHA-SDGs Action Award 授賞式として、学生委員による投票で決まった「グランプリ賞」「準グランプリ賞」、「藤原所長賞」に対し、藤原前所長から各班長へ賞状が手渡された。



幹部交代式 集合写真

V. 学生委員の活動

2022年度に発足した OCHA-SDGs 学生委員会は、4月の幹部交代式を経て、2023年度の活動をスタートさせた。昨年度組織化された Education for Sustainable Development (ESD) 班、食班、環境班及び広報部に、味覚評価部や他大学連携班といった新たなプロジェクトベースの組織が加わり、活発に活動した。

1. お茶の水女子大学消費生活協同組合食堂部における OchaEco 弁当販売及び夕食テイクアウト

お茶の水女子大学消費生活協同組合食堂部（以下、生協食堂）と本研究所研究員である赤松利恵副学長が協働し、食品ロス削減のため OchaEco 弁当の販売を行った。OchaEco 弁当は、昼食の売れ残りをお弁当に詰めて、時間を限定して販売するものである。本取組は研究の一環として行い、研究所の構成員が指導する学生委員が広報活動やデータ収集・解析等を担当した。来年度中に結果をまとめ、学術論文として投稿を予定している。



OchaEco 弁当周知のポスター

2. お茶の水女子大学消費生活協同組合購買部にて昆虫食の委託販売

OCHA-SDGs 学生委員会（食班）の企画により、お茶の水女子大学消費生活協同組合（以下、生協購買部）にてコオロギパウダーを使った商品を期間限定で販売した。ムーンショット型農林水産研究開発事業支援企画を通し昆虫食を推進する由良敬教授（本研究所研究員）の指導のもと、生協購買部と連携し開催した。未来の食の選択肢の1つにコオロギ食を提案することを狙い、コオロギパウダーの入った生活者に身近なスナック菓子を委託販売した。本企画は本学学生、教職員、保護者から大きな反響があり、準備した各種100個は販売期間前半のうちに売り切れ、追加発注が必要となる等好評を博した。

開催概要

期間	6月12日（月）～23日（金）の月曜日～金曜日（平日のみ）
時間帯	10：30～17：00
場所	生協購買部（1階）
取り扱い商品 ※	C.TRIA プロテインバー ココナッツ・ビターチョコ（たんぱく質15.6g）¥175/本 C.TRIA コーンスナック うま塩・たこ焼き ¥98/袋 （株式会社グリラス 提供）

※甲殻類アレルギー所有者に対しては摂取を控えるよう注意喚起した。

本限定販売に伴い、OCHA-SDGs 学生委員会食班が販促動画を制作し、事務局が研究所 SNS を通じた広報活動を行った。動画は附属高校の家庭科の授業でも紹介され、附属高校生及び保護者の購入にも繋がった。



作成した動画のサムネイル（本研究所公式 YouTube より）

3. OCHA-SDGs 勉強会「私たちのごみはどこに行くんだろう？—文京区の清掃・リサイクルの現状について—」開催

p.55 参照。

4. クールアースフェア出展

p.56 参照。

5. ラブ・プラスチック参加

OCHA-SDGs 学生委員がラブ＝プラスチックワークショップに参加した。

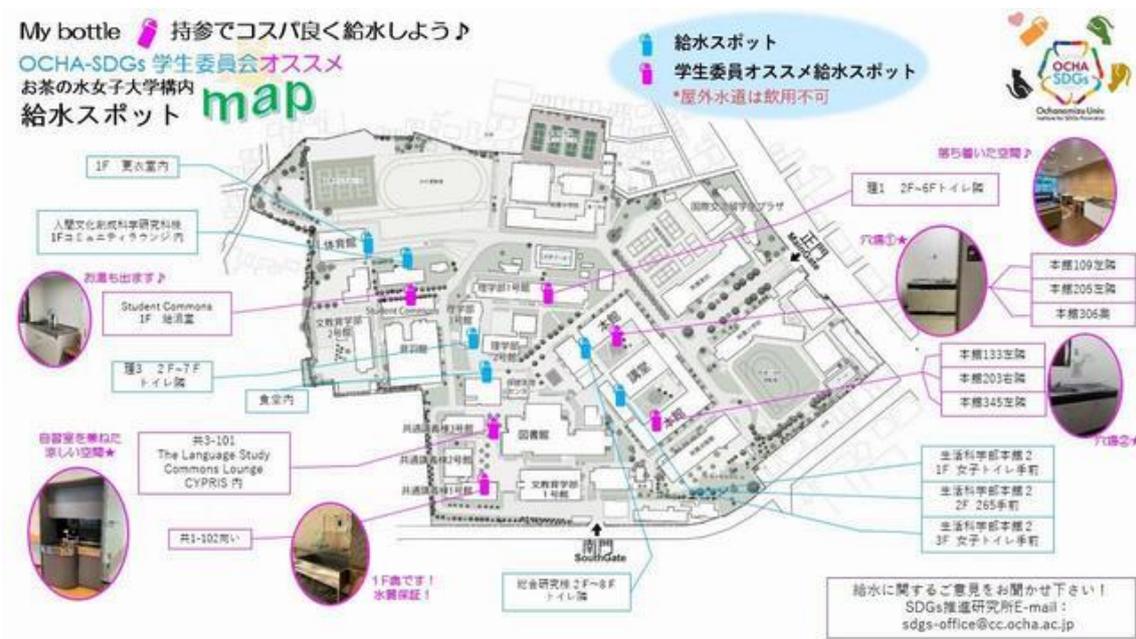
ラブ＝プラスチックワークショップは、東京都（文京区・千代田区・台東区・中央区）を舞台にした国際芸術祭「東京ビエンナーレ 2023」における「超分別ゴミ箱 2023 プロジェクト」の一環である。都立工芸高校の生徒及び藤幡正樹先生（アーティスト、東京藝術大学名誉教授）の協働活動として、8月19（土）、20（日）に都立工芸高校にて開催された。2023年のプラスチックの使用状況を記録・収集し、それらを最終的にモニュメント作品にすることを目的とした。OCHA-SDGs 学生委員は、一般家庭のプラスチックゴミ1つ1つに触れ、色や触感を踏まえて分別を行った。ゴミをゴミとしてではなくアートの部品として考えることで、ゴミの量が増加する消費社会において昨今いっそう求められるリユース・リサイクルの視点を養った。



イベントポスター

6. 給水マップ制作

安心して使用できる水道水設備のありかを示す給水マップを OCHA-SDGs 学生委員会と本研究所事務局アカデミック・アシスタントが作成し、2023年8月29日より研究所ホームページにて公開した。構内全ての水飲み場を視察し、屋内で比較的衛生面に心配のない給水所 29カ所（青枠）を選定した。その中で居心地よく過ごせる 10カ所を推奨スポットとして表記している（紅枠）。天然資源である水道水での水分補給を促進することで、プラスチック容器を用いた飲料の購入に頼らないマイボトル利用を推奨している。また、気候変動の影響で激化する猛暑から健康を守る観点として、熱中症や脱水症対策に向けたこまめな水分補給の啓発が企図されている。酷暑の中、テキストやPCに加え飲料を持ち運ぶ肉体的負担に疲弊する学生の声を代表し、水分補給の場を確保したいとの有志の学生委員と脱プラ運動に共鳴した環境班が協働し立案した。



作成された給水マップ



研究所 Instagram 及び Ochat における広報画像

作成したマップを学内オンラインプラットフォーム **Ochat** で周知したところ、**2500** 以上のユーザー（本学学生・教職員）が閲覧可能なチャンネルにおいて、通常平均以上の前向きなスタンプリアクションが得られた。（「さすがプロ」：45 ユーザー、「ありがとうございます」：38 ユーザー、「拍手」：31 ユーザー）

本給水マップにて情報を列挙するにあたり、屋外と屋内一部の給水所は錆び・温度、スペースの汚れ等の問題から除外した。学生・教職員とも所属により日ごろ使用する建物が限られるため、本給水マップにより、課外活動時や休日を含むあらゆる時間帯に、給水所が分け隔てなく活用されることが期待される。

7. 夏季活動報告会

2023年9月11～13日、オンラインにて、OCHA-SDGs 学生委員の夏季活動報告会が行われた。学生委員が夏休み中に、地元等で体感したSDGsを1日4～5名がパワーポイントで発表し、その後、参加者が3グループに分かれ、発表した内容について議論した。福島県会津地方の若者が行っている地方活性化につながる祭り、鎌倉市が慶應義塾大学と行っているサーキュラーエコノミーの取組、愛知県名古屋市のイオンモールの環境保全、旅行先ホテルのアメニティについてなど、学生委員同士で様々な気づきを共有した。

8. 徽音祭出展

2023年11月11日（土）及び12日（日）本館124室にて、OCHA-SDGs 学生委員会と徽音祭実行委員がSDGsをテーマに合同出展した。ESD班が毎月制作したOCHA-SDGsカレンダー、環境班が夏に仕上げた学内水道水マップの掲示をはじめ、OCHA-SDGs 学生委員による数々のアイデアが持ち寄られた以下の催し物を行った。

<ワークショップ>

- ・蜜蝋ラップづくり
- ・キャンパス内SDGsクイズラリーと景品の配布

<販売>

- ・アップサイクルで出来た雑貨とアクセサリ商品（sobolon等提供）
- ・規格外果物を使用したグラノーラ（我楽田工房提供）
- ・コオロギスナック（株式会社グリラス提供）

蜜蝋ラップのワークショップは多くの子ども達と保護者が参加し、順番待ちが出るほど盛況であった。キャンパス内SDGsクイズラリーでは、貧困や飢餓、ジェンダーを含むあらゆる格差や、健康問題、自然破壊等の実情についてクイズを出題し、終えた参加者には景品を渡す等、多様な来場者とのコミュニケーションが活発に行われた。販売したアップサイクル商品は倫理的な消費（エシカル消費）を広めたいという有志の学生委員が「エシカルな暮らしLAB」から調達した。我楽田工房は2022年度に食班が取材活動を行った縁からグラノーラを買い取り販売した。コオロギスナックは2023年6月のコオロギフェア

が盛況であったことから、同様の委託販売を依頼し再販した。このほか、ウォータースタンド株式会社から無償貸与されたウォーターサーバー（冷水・常温対応）一台を用い、来場者にコップ一杯ずつ水を提供した。シールアンケートへの協力を依頼したところ、回答者の大半が職場や学校、その他日常生活における水分補給の一選択肢に身近な給水機の利用を期待すると分かり、学内でのニーズと世間の声を照応した。

9. フードドライブ開催

イベントの概要は pp.60-61 参照。今年度は、各附属学校園におけるフードドライブの広報活動や、フードドライブを題材とした教育に OCHA-SDGs 学生委員が協力した。また、大学フードドライブの実施にあたり、企画・運営・広報の実働を担った。

学生委員による附属学校園の広報活動、教育等への参画内容の一例

幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時に回収時間・回収品などについてポスターを用いて説明 ・保護者と協働して収集された食品の集計作業
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生を対象にフードドライブ勉強会の開催
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実施主体である委員会活動への参加 ・目的・姿勢の共有、ポスター作成・修正、ボックス設置・回収
高校	<ul style="list-style-type: none"> ・フードドライブに関する学習動画（学生委員作成）の提供



学生委員が作成した動画のサムネイル

10. お茶の水女子大学消費生活協同組合とプラントベースドフードメニュー開発・販売

OCHA-SDGs 学生委員会（食班）メンバーが、Ochas（本学公式サークル）と連携しプラントベースドフードメニューを3品試作した。お茶の水女子大学消費生活協同組合（以下、生協）矢暮専務理事へ提案した結果、ランチメニューとして採用され、2023年12月～1月に数量限定販売が実施された。

メニューの選定にあたっては、学生委員会と Ochas のメンバーによる素案と、夏休みに学内で実施した生協食堂昼食営業についてのアンケート結果を参考にしました。本学学生をはじめ、附属高校生、教職員も含む学内者約 350 名の回答が集まり、結果を矢葺専務理事へ共有した。学生委員と

Ochas メンバーによる候補 3 品の試作過程では、11 月

に 3 回、生協の承諾のもと食堂キッチンを利用し、各回で調理したものを矢葺専務理事に試食いただいた。さらに別日には、実際に食堂スタッフが試作したものを学生が試食し、更なる要望をフィードバックした。量や価格、味（調味料）の調節について最後まで相談し、最終的に以下の 3 品が生協食堂で提供された。（昼食営業時間 10：30～13：30 のみ）



取組のポスター（学生委員作成）

販売期間とメニュー名

販売期間	メニュー
2023年12月18日（月）～ 22日（金）	・ライスミルクのかぼちゃスープ（25食限定/1日） ・ソイリーボールの甘酢炒め（40食限定/1日）
2024年1月29日（月）～31日（水）	・ほっこりぼかぼか しょうが香るソイミートの水餃子スープ（15食限定/1日）

両期間とも購入者アンケートも行ったところ、回答者の 83%が今後もプラントベースドフードメニューを期待していることが示された。

11. OCHA-SDGs カレンダーの制作

OCHA-SDGs 学生委員会 ESD 班がその月の国際デーを紹介する「OCHA-SDGs カレンダー」を毎月発行し、学内 SNS「Ochat」でのオンライン配信または附属図書館掲示板での掲示（紙媒体）を行った。また、附属学校園にメール送付または紙媒体でお渡しし、各附属学校園内で児童生徒の目につくところに掲示いただいた。9 月には附属中学校から挿絵の提供があり、OCHA-SDGs カレンダーを中学校と大学が連携し作成した。国際デーの解説文は担当の学生委員が集めた情報から執筆している。2023 年 1 月から 12 月のデータを揃え、2024 年 3 月には 2024 年度版 OCHA-SDGs 卓上カレンダーを作成した。国連の

定める国際デーを学生委員の目と頭で選び文章でまとめた本カレンダーは、来年度以降のOCHA-SDGs 学生委員会の教育に関するアクティビティを支える品となっている。



OCHA-SDGs カレンダーの一部（2023年5～7月分・学生委員作成）

12. LGBTQ 居場所づくりのサポート

本研究所から教育助成を行った石丸徑一郎教授指導の指導学生の卒業研究に、学生委員会が実施補助スタッフとして関わった（pp.34-35 参照）。具体的には、研究対象として居場所イベントへの参加、学生委員内外での広報活動等に貢献した。居場所イベントへ参加することで、参加した学生委員自身も、LGBTQ+への関心を深めることができ、有意義な機会となったとの声があがった。

13. OCHA-SDGs 学生委員会・お茶大版気候市民会議 ステッカー等作成

OCHA-SDGs 学生委員会とお茶大版気候市民会議が協働し、節電ステッカーを作成した。『お茶大版気候市民会議』は、昨年度の三菱UFJ 環境財団による授業である（2022 年度事業報告書参照）。授業を通じた最終的な提言内容が学生懇談会で学長などに報告された結果、提言の 1 つであった節電ステッカーについて、制作と学内での掲示が承諾された。併せて OCHA-SDGs 学生委員会が作成していた水道水マップと給湯室ポスターについても、学内での掲示が了承された。（給水マップについては p80-81. 6. 給水マップ制作参照）



作成したステッカー（2種）と給湯室ポスター

VI. 広報

1. 学内広報

(1) 学報 GAZETTE

2023年7月号の本学学報 GAZETTE にて OCHA-SDGs 学生委員会が特集された。『学生のアクティビティ』(pp.6-7) にて、本学生委員会の概要と活動内容が記載されると共に、企画戦略課広報担当による取材を通した 2023 年度総務メンバー7名(委員長、副委員長2名、広報部長、ESD 班長、環境班長、食班長)の本研究所学生委員会に込める想いが紹介されている。

学生のアクティビティ

インタビューを
しました!

**お茶の水女子大学
SDGs 推進研究所
学生委員会**
(通称「OCHA-SDGs 学生委員会」)

本学のSDGs推進研究所は、サステイナブル社会実現機構に属する組織で、学生委員会はその実践活動を担います。初代委員長1名から始まり2年目となる現在は約40名で構成され、7名の総務部メンバーを中心にすべての学生委員がESD(Education for Sustainable Development) 班、食班、環境班のいずれかに所属して活動しています。企画には携わらず、私たちの活動について情報を得ることができる「スタディグループ」という組織にも、多数学生が在籍しています。企業や他大学、附属学校園とも連携しながら、企画の立案から運営、広報まで学生が主体となって行い、「生活者視点」のSDGs推進活動を目指しています。

OCHA-SDGs 学生委員会の魅力や特徴を教えてください。

「人と「実践」です。実践はそれぞれ異なる専門・活動をしている学生

研究会の様子

が集まって多岐的なアイデアを出し、SDGs 推進研究所の先生方にアドバイスを頂いて企画をブラッシュアップしています。また、大学での学びはやはり実践が少なくなってしまう中で、自分たちがやりたいことを具体的な行動として実践に移すことができるのは大きな特長です。そして、SDGsのゴール17にも「パートナーシップで目標を達成しよう」とあるように、大学生ととコラボした学内でのイベント、附属学校園と連携した取り組み、他大学との共催の取り組みなど、各所と連携しながら色々な取組を行っています。

活動で心に残っていることはありますか。

実は、私たちの活動が本格的にスタートしてから、まだ半年ほどしか経っていません。でもこの短い期間で、数多くの刺激があり、たくさんの経験させてもらっています。まず、学生委員の企画力や意欲が非常に高く、互いに活発な議論を交わっています。また、企業様のSDGs推進事業の見学を通し、それらの活動から学ばせている人々の存在や、彼らから受ける刺激、思いも存じなかった学生主体の企画も実行する上で、企画が実現するなど困難を克服することもありますが、それでも、活動を進めるにつれて、人々に「SDGs」の存在や意義を知ってもらえるのではないかと、遠く離れたかや未来の人々の生活が豊かになるのではないかとという思いが強くなっていきます。

今後はどのような活動を行う予定ですか。

より一人一人が積極的にゴール達成に向けていけるような取り組みを展開していきます。地域社会との連携を密にすることで「誰一人取り残さない社会」につなげます。また学生委員内での勉強会も開催が期待したいと考えています。私たちがSDGsについて学びを深めることで、大学を卒業して社会に出てからも、主体的に社会の問題を解決する人間に成長する機会となるよう願っています。

新メンバー募集中のことですが、どのような方に仲間入りしてもらいたいですか?

SDGsに関心のある方はもちろん、企画を立てることや、組織の一員として活動することを経験してみたい方も学生委員になっていただきたいです。学生委員会は協賛として完成されているだけでなく、今も成長中です。ぜひ私たちと一緒に、明るく楽しく、より良い組織を目指して活動しましょう!

実は...私たちの普段の行動がSDGsにつながっている?!

私たちの日常生活は持続可能な社会の構築と密接に結びついています。日々の生活の中で、SDGsの目標を達成するために、私たちができることはたくさんあります。OCHA-SDGs学生委員会の3つの班に分かれて、どんなことが自分からできるか考えてみましょう!

- ESD 班** SDGsについて学びたいこと・実践したいことを意識して学びたい方
- 食** フードロスを減らすために、食べ残さず食べきれないものを分けたり、手紙取りを実施する
- 環境** ペットボトルをリサイクルするためにマイボトルを持ち歩く、レジ袋を削減するためにマイバッグを持ち歩く

1人が300を減らさずとも100人が1ずつ、1000人が1ずつ削減を積み重ねると社会を大きく変えられます!

OCHA-SDGs 学生委員会メンバー

OCHA-SDGs アクションアワード表彰式後

現在進行中の企画 (2023年4月時点)

- ～ESD班～
 - 「OCHA-SDGs カンパニー」の作成
 - 勉強会「持続可能なOCHA-SDGs」
 - 初年度メンバーのSDGs実践発表
- ～環境班～
 - リサイクル委員会(文芸部)の開催
 - フューチャーサーブ導入に向けたアクション
 - 空気にする調査
- ～食班～
 - 学生食企画
 - 新食文化部会企画
 - 食育実践
- ～その他～
 - フィードバック(食・環境)
 - フードドライブ(食・環境)
 - マイボトルデザインコンテスト(環境)

お茶大 SDGs 推進研究所 SNS

ホームページ Instagram Twitter

▼お問い合わせ先: 総務課 広報担当 佐藤 千穂
sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

学報 GAZETTE7月号 特集ページ

(2) 大学案内小冊子

大学案内小冊子 2024 にて研究所の概要を掲載するにあたり、2023 年版と同様に、本文と挿入画像を提供した。

研究

従来の学問領域を越えた研究活動の場

お茶の水女子大学には10の研究があります。ジェンダー・イノベーション研究所、コンピテンシー育成開発研究所、SDGs推進研究所は、2022年度に新設されました。日本の持続的な発展を志向し、目指すべき社会を見据えつつ、研究により創出される価値を社会に積極的に発信しています。



ジェンダー・イノベーション研究所

ジェンダー・イノベーションとは、生物学的(セックス)及び文化・社会的(ジェンダー)な性差と他の属性等と交差する視点を考慮して研究を行うことでイノベーションを創出し、社会実装へつなげようという概念です。



文部科学省「情報ひろば」展示(2023年1月~2月)

本研究所は、「研究」による課題の可視化、「イノベーション」による研究成果を具現化したモノ(製品)やコト(サービスの検討と創出、「社会発信」)によるイノベーションの提供という3つの部門の活動から、多様な幸せ(Well-being)を実現できる社会の構築に寄与します。

コンピテンシー育成開発研究所

社会において高い成果をあげる人に観察される特性をコンピテンシーといいます。

本研究所は、コンピテンシーベースの教育と研究の推進に向けて、大きく分けて2つの活動を行っています。1つは、教学マネジメント組織として、本学学生のコンピテンシーの向上を図ること、もう1つは、研究機関として、幼児期から大学期までのコンピテンシーに関する研究と成果の発信を行うことです。これらの取り組みによって、本学のみならず、全国の他機関の教育改革に貢献することを目指します。



SDGs推進研究所

本研究所は生活科学・生活環境学・ジェンダーなどを研究テーマとする教員で組織され、食品ロスや食糧問題、資源のリサイクル、消費者教育などを中心に、生活者を起点とした持続可能な社会の実現を目指す研究を推進します。これらのテーマについて、大学や大学院で研究・教育するだけでなく、ナーサリーから幼小中高まで同一キャンパスにある本学の特色を生かし、幼少期から大学までのSDGs一貫教育プログラムの開発も目指しています。また、本研究所は本学のSDGs実践活動を統合する拠点として、他大学や企業、自治体等との連携調整を担う機関でもあり、共同研究やインターンシップなどを通してSDGs活動推進に貢献していきます。特色ある取組として、大学と附属学校園によるフードドライブ活動のほか、OCHA-SDGs学生委員(研究所の学生組織)による勉強会や環境調査なども実施しています。



機構・研究所

グローバル女性リーダー育成研究機構	グローバルリーダーシップ研究所
	ジェンダー研究所
	ジェンダー・イノベーション研究所
ヒューマンライフイノベーション開発研究機構	ヒューマンライフサイエンス研究所
	人間発達教育科学研究所
	コンピテンシー育成開発研究所
総合知開発研究機構	理系女性育成啓発研究所
	サイエンス&エデュケーション研究所
サステイナブル社会実装機構	SDGs推進研究所
	湾岸生物教育研究所

大学案内小冊子 2024 (日本語版)

Research

A place for research that transcends conventional academic disciplines

Ochanomizu University has 10 research institutes. The Institute for Gendered Innovations, the Institute for Competency Development, and the Institute for SDGs Promotion were established in the academic year 2022. Ochanomizu University actively communicates information about the value that our research creates on behalf of society.

Institute for Gendered Innovations (IGI)

The idea of gendered innovations promotes the in-depth analysis of sex, gender, and the intersectional differences between these and other attributes, and incorporating them into research and production developments. The social implementation of gendered innovations through research outcomes and developed products may lead to the realization of a society that can achieve various forms of well-being.



Exhibit at the MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology) Information Plaza (January-February, 2023)

The three divisions of IGI – research, innovation, and public relations – interact with each other to promote Gendered Innovations. The research division will examine various issues related to Gendered Innovations. The innovation division will create products and services that apply research results. The public relations division will disseminate information regarding these innovative creations.

Institute for Competency Development

The traits demonstrated by high achievers within society are called competencies.

This institute engages in two broad areas of activity for the advancement of competency-based education and research: activities as an academic management organization to improve the competencies of our students, and activities as a research institute to conduct and communicate research concerning competencies spanning early childhood to university education. Through these efforts, the Institute aims to contribute to educational reform at the University and at other institutions nationwide.



Institute for SDGs Promotion

This research institute focuses on food loss and food issues, resource recycling, consumer education, and other issues to advance research aimed at achieving a sustainable society that begins with consumers. Going beyond research and education on these themes in the University and graduate schools, the Institute seeks to take advantage of Ochanomizu University's unique nature as a campus that encompasses affiliated schools to develop integrated SDGs education programs that span from early childhood to university education. As a base for integrating the University's activities for putting the SDGs into practice, the Institute is also in charge of coordinating collaboration with other universities, companies, government bodies, and other partners, and will contribute to the promotion of SDGs-related activities through joint research and internships. Unique initiatives of the Institute include food drives held with affiliated schools as well as study sessions and environmental surveys conducted by the Institute's OCHA-SDGs Student Committee.



Research organizations and research institutes

Research organizations	Research institutes
Research Organization for the Promotion of Global Women's Leadership	Institute for Global Leadership (IGL)
	Institute for Gender Studies (IGS)
	Institute for Gendered Innovations (IGI)
Research Organization for Human Life Innovation and Development	Institute for Human Life Science
	Institute for Education and Human Development
	Institute for Competency Development
Research Organization for the Development of Comprehensive Knowledge	Institute for Women's Education in Science, Technology, Engineering, Arts, and Mathematics (STEAM)
	Institute for Science & Education
Organization for Social Implementation of Sustainability	Institute for SDGs Promotion
	Institute for Marine and Coastal Research

大学案内小冊子 2024 (英語版)

2 学外広報

媒体	内容
東京ケーブルネットワーク 『Let's! SDGs!!』 Vol.16	学生委員会のコオロギフェア 徽音祭出展の様子について
株式会社セブン&アイ・ホールディングス ホームページ	賢者のレシピの取り組みについて (pp.52-53 参照)

【資料】

- ①国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所規則
- ②国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 戦略会議規則
- ③お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所パンフレット
- ④各種イベント・案内ポスター
- ⑤2022 年度学生対象 SDGs 認知度調査 最終報告書
- ⑥2023 年度教職員対象 SDGs 認知度調査 最終報告書

○国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所規則

令和4年3月29日

制定

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学サステイナブル社会実装機構規則第4条第2項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所（以下「研究所」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 研究所は、サステイナブル社会実装機構に附属する研究所として、持続可能な開発目標（以下「SDGs」という。）に関する総合的、国際的な研究及び教育並びに学内外において SDGs 活動実践を行い、国際研究拠点を構築するとともに、SDGs の実現に貢献することを目的とする。

(研究及び業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) SDGs に関する基礎及び応用研究
- (2) SDGs に関する教育及び啓発に関する業務
- (3) SDGs 実践活動に関する国内及び国際連携に関する業務
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 研究所は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 研究所長
 - (2) 研究員
 - (3) その他学長が必要と認めた職員
- 2 研究所に、次に掲げる者を加えることができる。

- (1) 副研究所長
- (2) 教員
- (3) プロジェクト管理者
- (4) 特任職員
- (5) 客員教員
- (6) 客員研究員
- (7) 研究協力員

(研究所長)

第5条 研究所長は、基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員である教授のうちから学長が任命する。

- 2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。
- 3 研究所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副研究所長)

第6条 副研究所長は、本学の専任又は特任の教員のうちから、研究所長が指名する。

2 副研究所長は、研究所長から指定された業務を掌理する。

3 副研究所長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 副研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(プロジェクト管理者)

第7条 プロジェクト管理者は、本学の専任又は特任の教員のうちから、研究所長が指名する。

2 プロジェクト管理者は、研究所長の指示のもと、研究所の推進するプロジェクトを統括する。

3 プロジェクト管理者の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 プロジェクト管理者が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第8条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に従事する。

2 研究員は、本学専任の教員のうちから、学長が任命する。

3 研究員の任期は2年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第9条 客員研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第10条 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第11条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、SDGs推進研究所運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

- (2) 副研究所長
 - (3) 第4条第1項第2号に掲げる教員
 - (4) 第4条第1項第3号に掲げる研究員
 - (5) その他所長が必要と認めた者
- 3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。
- 4 運営会議の構成員は、第2条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。
- 5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 6 本条に定めるもののほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第12条 研究所の事務は、研究・産学連携課が行う。

(雑則)

第13条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

○国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 戦略会議規則

令和 5 年 7 月 19 日

制定

(設置)

第 1 条 国立大学法人お茶の水女子大学(以下「本学」という。)に、持続可能な開発目標(以下「SDGs」という。)に関する活動の全学的な推進を目的として、国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 戦略会議(以下「会議」という。)を置く。

(審議事項)

第 2 条 会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) SDGs 達成に向けた本学の基本方針の策定及び統括に関する事項
- (2) SDGs 達成に係る本学の推進状況の把握に関する事項
- (3) その他会議が定める事項

(組織)

第 3 条 会議は、次に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長(第 4 号に該当する者を除く。)
- (3) 副学長(事務総括)
- (4) サステイナブル社会実装機構長
- (5) その他学長が必要と認めた者

(議長)

第 4 条 会議に議長を置き、学長をもって充てる。

- 2 議長は、会議を主宰する。
- 3 議長にやむを得ない事故があるときは、議長が指名した者がその職務を代理する。

(会議の開催)

第 5 条 会議は、議長が必要と認めたときに開催する。

(会議の招集)

第 6 条 構成員の 3 分の 1 以上の要求があるときは、議長は、会議を招集する。

(会議の成立等)

第 7 条 会議の成立には、構成員の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。

- 2 会議の議事は他の特別の規定がない場合は、出席者の過半数によりこれを決する。

(構成員以外の者の出席)

第 8 条 議長が必要と認めるときは、会議に構成員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事務)

第 9 条 会議の事務は、研究・産学連携課が行う。

(雑則)

第 10 条 この規則に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、会議が別に定める。

附 則

この規則は、令和 5 年 7 月 19 日から施行する。

Seikatsu-sha-oriented "OCHA-SDGs"

Seikatsu-sha: subjects who are creatively involved in enriching their lives

Small daily efforts by each *seikatsu-sha* are indispensable to make a social movement toward a sustainable future.

With our promotion activities named "OCHA-SDGs", we contribute to create a sustainable future.

Institute for SDGs Promotion Official SNS

Institute's official website:
<https://www.cf.ocha.ac.jp/sdgs/index.html>



Instagram Twitter

The composition of the institute and the goals of each section

➤ Research Section

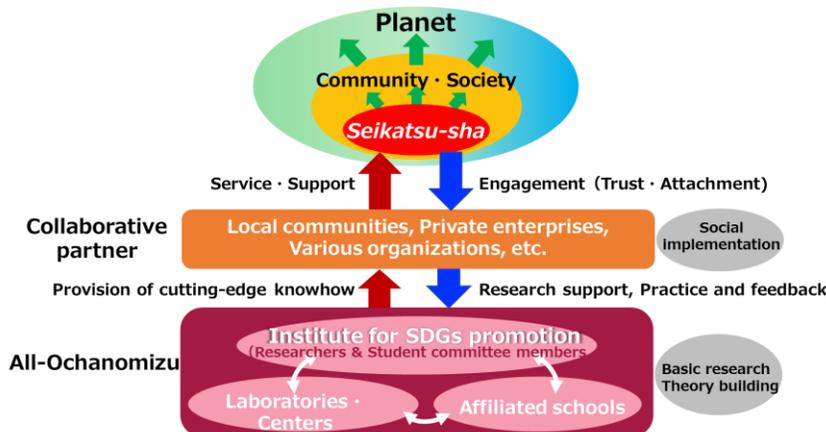
Composed of faculty members on campus, we promote "seikatsu-sha-oriented" research focused on people's comfort and sense of well-being to create a sustainable society. In addition, we aim to function as a platform where experts and researchers from different fields can collaborate.

➤ Planning and Coordination Section

We build partnerships both inside and outside of the campus that are indispensable for implementing our achievements in society, coordinate joint research among researchers from different fields, conduct research with companies, and arrange and support SDGs promotion activities through collaboration with affiliated schools.

➤ Education Section

Through the research data achieved by the research division and SDGs promotion activities, we provide SDG-related educational and research programs according to the developmental stage of students.



Our Engagements

- The kick-off symposium of the Institute for SDGs Promotion
- On-campus Food Drive
- Conclusion of the comprehensive partnership agreement related to SDGs with College of Nutrition, Taipei Medical University (TMU)
- Conclusion of the comprehensive partnership agreements related to SDGs with private companies
- Tour of a food bank in Tokyo
- Class Visit to Junior High School's Home Economics/Social Studies
- Corporate Collaboration Consortium
- OCHA-SDGs Official Character Recruitment
- OCHA-SDGs Action Award



Student Committee Members

Regular Study Session

OCHA-SDGs Student Committee

Consisting of the ESD Team, Food Team, and Environment Team, we lead the University's SDGs activities by holding regular study sessions, environmental surveys of campus, information dissemination via SNS, and exchanges with other universities.



Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

お茶の水女子大学
SDGs推進研究所



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。

SDGs推進研究所とは

設立以来「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」をミッションと掲げ、女子の高等教育と高度人材の輩出に貢献してきたお茶の水女子大学の理念はSDGsの目指す理念と合致するものです。持続可能な未来の構築に向けて世界的な動きが加速する今、SDGs推進研究所は、本学の特色である生活科学を中心とした研究実績を社会に実装するための統合拠点となると同時に、高い問題意識・率先した行動力を持つ未来のサステナビリティリーダーとなる人材の育成に努めます。

研究所の特色

➤ 生活科学を中心に他分野の研究者との協働

生活科学は多様な学術分野からなる複合領域であり、異分野の研究者が協働して取り組みやすいという利点に加え、学内で行われている環境、教育、海洋、情報などのSDGsに関連した多様な研究、さらには文理融合型の共同研究にサステナブルな視点を取り入れ、新たな課題解決にチャレンジすることが可能です。

➤ 生活者起点のSDGsの研究推進

お茶の水女子大学では前身の家政学部時代から一貫して「人間らしい豊かで健康な生活」「様々な価値観を持った人々や社会との共生」「環境問題と人間生活の調和」等、地に足の着いた生活者の視点から研究に取り組んできました。SDGsの実現には長期的な視点のもと、生活者一人一人が足元から着実に推進していくことが重要であるとの考えから「生活者」をキーワードに据え研究・推進活動を行っています。(OCHA-SDGs)

➤ 大学と附属学校園が一体となった推進活動

同キャンパス内にあるナーサリー、幼稚園、小中高の附属学校園と連携を深め、各世代における未来の消費リーダーの問題意識や行動力を高める教育プログラムを提案・実行すると共に、生徒・児童の未来に対する価値観や危機感を共有しSDGs推進活動と研究に活用します。

SDGsとは

持続可能な未来の構築を目指し、環境・貧困・ジェンダー等に関する様々な社会問題を2030年までに解決するべく国連によって定められた全世界的取り組みです。17のゴールと169のターゲットが定められています。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

生活者起点の“OCHA-SDGs”

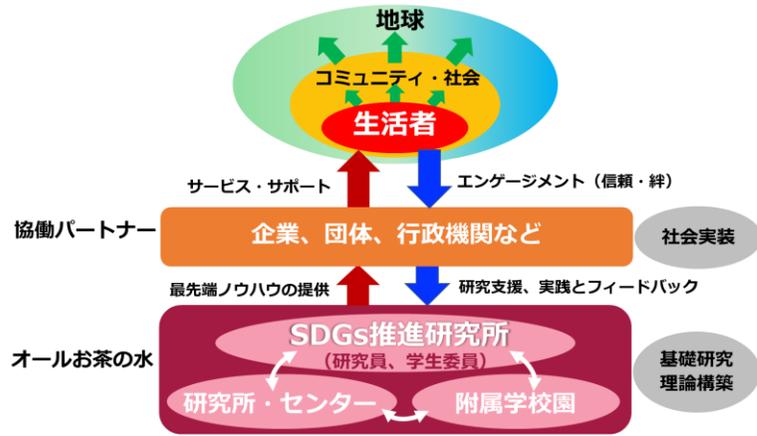
生活者一人一人の行動がコミュニティを動かし、社会全体のムーブメントとなると、お茶の水女子大学で行うSDGs推進活動を“OCHA-SDGs”と名付け、サステナブルな未来の構築に貢献します。

お茶の水女子大学SDGs推進研究所
公式SNS

当研究所HP:
<https://www.cf.ocha.ac.jp/sdgs/index.html>



Instagram Twitter



研究所の構成と各部門の目標

- **研究部門**
学内の教員から構成され、人びとのwell-beingに配慮した持続可能な環境作りのための「生活者起点の」研究を推進していきます。
又、異分野の専門家が協働して研究を行えるプラットフォームとして機能することを目指します。
- **企画・調整部門**
生活者起点のSDGs研究を着実に推進し、社会に実装していくために欠かせない学内外のパートナーシップの構築に努め、学内の研究者の共同研究の調整、企業等との共同研究や外部資金の獲得、学生や附属学校園との連携を通じたSDGs推進活動を支援し発信する役割を担います。
- **教育部門**
研究部門の研究の成果や学生を中心としたSDGs推進活動を通して、子供から大人までの発達段階に応じたサステナブル教育を企画・実施し、SDGs関連カリキュラムの開発を行います。

取り組み (例)

- 設立記念キックオフシンポジウムの開催
- キャンパス内フードドライブ活動の実施
- 台北医科大学とSDGsに関する覚書(MOU)に署名、共同国際シンポジウムの開催
- 民間企業とのSDGsに関する包括的連携協力に係る協定締結
- 都内フードバンク見学
- 附属中学校授業訪問(家庭科/社会科)
- 企業連携コンソーシアムの開催
- OCHA-SDGs公式キャラクター募集
- OCHA-SDGsアクションアワード



OCHA-SDGs 学生委員

本学のSDGs活動のリーダー
ESD班・食班・環境班、広報班から構成され、定期的な勉強会・環境調査・情報発信、学外交流を行います。
研究所と連携し、学内のSDGs活動を盛り上げます！



初代学生委員メンバー



毎週行っている勉強会



Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

Institute for
SDGs Promotion



We support the
Sustainable Development Goals

About Us

Ochanomizu University's primordial mission, to "be a place where all women who are motivated to learn can realize their earnest dreams.", completely matches the principle of the Sustainable Development Goals (SDGs).
As the global movement toward a sustainable future accelerates, we will serve as an integrated base for implementing our university's research achievements centered on the human life sciences into society. At the same time, we will develop human resources who will become future sustainability leaders with a high awareness of issues and the ability to take initiative.

Characteristics of the Institute

- **Collaboration with researchers from various fields**
Human life sciences is a multidisciplinary field in which researchers from different fields can easily collaborate. We make the most of this advantage to tackle social issues by incorporating a sustainable perspective into various SDG-related research conducted on campus, along with our accumulated and ongoing interdisciplinary research.
- **Promoting seikatsu-sha-oriented SDG research**
The Faculty of Human Life and Environmental Sciences has continuously conducted consumer-oriented research with the considerations of the meaning of a full, healthy, and humane way to live, ways to live together with people and societies with different values, balancing the richness of human life with environmental concerns. We will pursue a sustainable society by conducting further research from the perspectives of *seikatsu-sha*. (OCHA-SDGs)
Seikatsu-sha: subjects who are actively involved in enriching their lives
- **Promotion activities collaborating with the affiliated schools**
By raising the awareness of students by providing our SDG-related educational programs, we aim to develop future consumer leaders who will move society forward actively to achieve the SDG goals. Also, we will share the values and sense of crisis for the future of students in each generation and utilize them for further SDG research.

What is the SDGs?

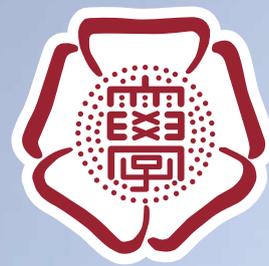
The abbreviation "SDGs" stands for the Sustainable Development Goals. They consist of 17 goals and 169 targets that were set by the United Nations to solve global social issues and achieve a sustainable world by 2030.



お茶の水女子大学
Ochanomizu University



グローバル対話



「地球の未来を守る：

持続可能な未来のために大学が果たす役割」



本講演会では、本学とリネカーカレッジとの交流の一環として、オックスフォード大学における持続可能な未来を守るための取組みをご紹介します。

Nick Leimu-Brown

オックスフォード大学
リネカーカレッジ学長

オックスフォード大学で博士号取得後、マンチェスター大学講師、オックスフォード大学講師などを経て、現職。紛争地域での森林の保護などについてのプロジェクトを国際連合で担当。

2023
4/7

Fri

14:00 ~ 15:40

オンライン (Zoom) と会場のハイブリッド開催
会場：お茶の水女子大学 共通講義棟 2号館 201 室
※学外参加者はオンラインのみとなります。



詳細はこちら



申込はこちら

参加費無料

事前申込制

日英同時通訳付

主催：お茶の水女子大学

共催：SDGs 推進研究所, グローバル協力センター

問合せ先：info-cwed@cc.ocha.ac.jp

参加登録：右のQRコードあるいは

<https://www.cf.ocha.ac.jp/cwed/> からお申込みください。

申込締切：4月5日 (水) 17:00



Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

お茶の水女子大学SDGs推進研究所

令和5年度

SDGs研究助成・成果報告会

令和4年度に実施したSDGs研究助成の成果報告会を開催します。

本学学生・教職員の皆様、**奮ってご参加ください!**

第1回

6月1日(木) 16:40~18:10



食品ロスの有効活用に関する研究

新田 陽子

(基幹研究院 自然科学系 准教授)



SDGs研究報告会(第1回)
オンライン参加申し込みフォーム

太陽光発電と連結する下水処理場における
エネルギーマネジメントモデルの構築

中久保 豊彦

(大阪大学大学院 工学研究科 准教授)



第2回

6月22日(木) 15:00~16:30



乳幼児期の不適切な栄養摂取がもたらす
異常と食事における課題

市 育代

(基幹研究院 自然科学系 准教授)

佐藤 瑤子

(基幹研究院 自然科学系 講師)



SDGs研究報告会(第2回)
オンライン参加申し込みフォーム

環境にやさしいもの作り
~新しい含フッ素ポリマーをめざして

矢島 知子

(基幹研究院 自然科学系 教授)



開催場所：共通講義棟2号館101

ZOOMによるオンライン視聴可

→お申し込みは上記QRコードよりお願いします!



私たちは持続可能な開発目標
(SDGs)を支援しています

お問い合わせ：SDGs推進研究所事務局

Email: sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

令和5年度のSDGs研究助成【締切：6月19日16:00】については、研究所HPをご覧ください

昆虫っぽくない昆虫食!?

期間限定!!

6/12~23 月~金
10:30~17:00 生協1F

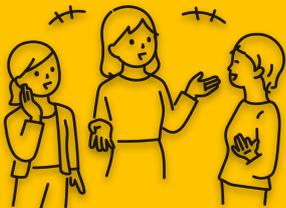
店頭ではココでしか買えない!!

なぜ昆虫食?!

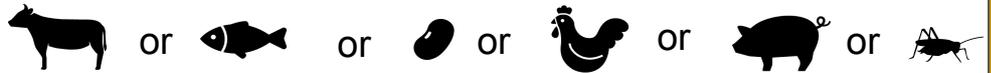
タンパク質危機が来たとしても、来ないとしても...

選択肢が増える▶▶食の豊かさにつながる

“コオロギが食の選択肢の1つになる社会”を目指しています



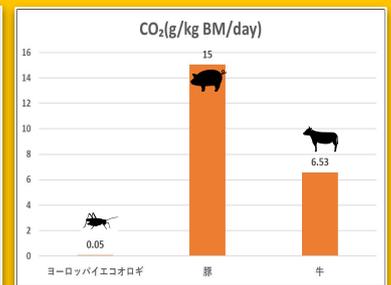
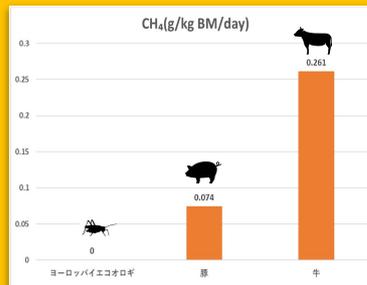
Which do we have for lunch? We can choose...



環境によいタンパク質って?!

コオロギは豚や牛などと比べ、
温室効果ガス排出量がはるかに少なく、
温暖化対策につながります。

右図: D. G. A. B. Oonincx, J. V. Itterbeeck, M. J. W. Heetkamp, H. V. D. Brand, J. J. A. V. Loon, A. V. Huis. (2010) An Exploration on Greenhouse Gas and Ammonia Production by Insect Species Suitable for Animal or Human Consumption. Entomophagy and Environment. 5.12



タンパク質
15.6g

どんな商品があるの?!

◎おやつにどうぞ! **C.TRIA プロテインバー** ¥175/本

ココナッツの風味
ほどよい甘さ!

ココナッツ



パフたっぷり
ザクザク食感!

ビターチョコ



◎友達とシェアしよう! **C.TRIA コーンスナック** ¥98/袋

口どけがよく、
甘しょっぱい!

うま塩



パンチのあるソースが
やみつきに!

たこ焼き



商品:株式会社グリラス ※甲殻類アレルギーの方はお控えください





主催：OCHA-SDGs学生委員会
協力：お茶の水女子大学SDGs推進研究所



2023年度第1回OCHA-SDGs勉強会

私たちのごみは どこに行くんだらう？

—文京区の清掃・リサイクルの現状について—



2023年 7月13日(木) 16:40~18:10

お茶の水女子大学の位置する文京区では、私たちが出すごみはどのように処理されているのでしょうか。文京区資源環境部リサイクル清掃課加藤様にご講演いただき、ごみとの関わり方について考えます。

場所：お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ2階多目的ホール

参加形式：対面およびオンライン（Zoomによるリアルタイム配信）

- ・前半→「文京区の清掃・リサイクルの現状について」
- ・後半→参加者でごみとの関わり方についてディスカッション、質疑応答

参加対象者：どなたでも（一般の方はZoomのみでの参加になります）

参加費：無料

お申し込みはこちらから→



お問合せ：OCHA-SDGs学生委員会幹部（ochasdgs1@gmail.com）

業界トップレベルのエンジニアと共にアプリを開発して お茶大キャンパス内SDGsを解決しよう！

キャンパス内SDGs
3つのテーマ

「防災」「食」「環境」

—文理不問—

Microsoft Power Apps

(ノーコードアプリ)を用いた
アプリ開発は、アバナード社の
トップエンジニアが指導します

—キーワード—

SDGs,環境,食,防災,キャリア
デザイン,アプリ開発, PBL,
グローバル, IT, コンサルティ
ング ChatGPT etc.

「PBL(問題解決型学習)」

「SDGs」

「アプリ開発」
が学べる授業

WITH

AVANADE

— 総合コース 23A0037 —

—グローバル女性リーダー特論 23S2010—

学期：後期

曜日・時限・場所：火曜 9-10限 国際留学生プラザ2F 多目的ホール

科目区分・単位数：基礎講義 2.0単位

定員:30名 (希望者多数の場合は抽選)

受講希望者はMoodleで自己登録を行い、新着情報を確認してください

普通を脱却してみませんか？

今まで考えたこともなかった発想を体験したい方へ

イノベティブな発想をプロのアーティストが
創作するプロセスから学ぶ独創的な講義

10.10 (火)

16:40~18:10

国際交流プラザ2F
多目的ホール

事前申し込みQRコード



当日申込OK

アーティスト思考と「エリックゼミ」



松永エリック・匡史

青山学院大学 地球社会共生学部 学部長
ビジネスコンサルタント
音楽家

プロフィール

幼少期を南米やニューヨークなどで過ごし、15歳からプロミュージシャンとして活動、米国バークリー音楽院でJAZZギターを学ぶ。

アクセンチュア、野村総合研究所、日本IBMを経て、デロイト トーマツ コンサルティングにてメディアセクターAPAC統括パートナーに就任。その後PwCコンサルティングにてデジタルサービス日本統括パートナーに就任し、デジタル事業を立ち上げ、エクスペリエンスセンターを設立、初代センター長を務めた。

2019年、青山学院大学 地球社会共生学部 教授に就任アーティスト思考を提唱。学生と社会人の共感と創造の場「エリックゼミ」において社会課題の解決に挑む。

2023年より地球社会共生学部 学部長。

学内公開セミナー

総合コース 23A0037

グローバル女性リーダー特論 23S2010



Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion



avanade

本物のダシを味わうことは教養である in Tokyo

国際交流留学生プラザで料亭のダシ体験

京料理を頂点とする日本料理の味わいはダシのおいしさにあります。また日本料理はそれぞれのものが持続可能な食をめざすSDGsでもあります。伝統的な鰹・昆布ダシの洗練されたおいしさの感動を次世代に伝えるため、京都の料亭の本物のダシの味わいを体験してもらうプロジェクトを企画しました。



例年関西の大学で行われている様子

主催：
お茶の水女子大学SDGs推進研究所
NPO法人日本料理アカデミー

- 日時：令和5年11月1日（水） 14:00～16:00
場所：お茶の水女子大学（国際交流留学生プラザ2階 多目的ホール）
参加費：無料（80名の事前申し込みを受け付けます）
応募対象：お茶の水女子大学の学生（学部生、大学院生）、教職員
応募方法：こちらのQRコードからお申し込み下さい ⇒



先着順、定員に達し次第締め切りとさせていただきます

プログラム内容：

1. 「ダシを知る」—料理人によるダシの味わいに関する短い講義（15分）
2. 「ダシを味わう」—料理人による料亭のダシの引き方実演と試食

京都を代表する5軒の料亭の料理人がそれぞれダシを引き、ダシの味の比較、調理した吸い物の試食、質疑応答や意見交換を行います

問い合わせ先：お茶の水女子大学SDGs推進研究所 sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

フー ド ド ラ イ ブ

フードドライブとは、家庭にある食品を持ち寄り、フードバンク等に届ける活動です。今回集められた食品はセカンドハーベストジャパンを通じて必要な方々に届きます。食品をボックスまでお持ちください。

お持ちいただきたい食品

米、乾麺、レトルト食品、缶詰、お菓子、穀物、調味料

*ご注意

未開封、包装・外装が破壊されていない、賞味期限が明記されていて2ヶ月以上先である、瓶詰めの商品でない、常温保存がである

2023. 12/4~15

BOX設置場所

図書館 1F (10:00~14:00)

生協 2F (10:30~13:30)

お問い合わせ：sdgs-office@cc.ocha.ac.jp



お茶の水女子大学SDGs推進研究所

公開セミナー

カカオで学ぶ

SDGs



Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

チョコレートの原料カカオの実態について、知っていますか？
カカオからチョコレートができる工程を辿りながら、生産国や国際取引の
実状と、児童労働問題、森林破壊等の環境問題など、カカオを取り巻く
多様な開発・社会課題を学ぶセミナーを開催します。
「サステナブル・カカオ」について考えてみましょう。



CACAO × SDGs



2024

2/8 (THU)

🕒 9:30-11:30

お茶の水女子大学

共通講義棟2号館 102室

チョコレートの試食をご用意しております
乳,大豆アレルギーをお持ちの方は試食をお控え下さい

SPEAKERS

株式会社 明治 グローバルカカオ事業本部
カカオマーケティング部
CXSグループ長

木原 純 氏

imperfect 株式会社 代表取締役社長

佐伯 美紗子 氏

特定非営利活動法人 ACE
ソーシャルビジネス推進事業チーム

佐藤 有希子 氏

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
ガバナンス・平和構築部

ガバナンスグループ 法・司法チーム

堀田 さくら 氏

お問合せ：SDGs推進研究所事務局
sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

主催：お茶の水女子大学SDGs推進研究所
後援：JICA、株式会社 明治
協力：お茶の水女子大学グローバル協力センター

参加費無料
先着100名様



お申込みはこちら

ポツダム大学

ペトラ=ヴァルシュブルガー教授 ご来学記念

研究発表会



心理学・栄養科学専攻の学生が行う研究発表に対して、
Warschburger教授が講評し、議論を深めます

発表者

◆王 燕園

(大学院人間発達科学専攻 心理学コース 博士前期課程 1年)

An experimental study on the impact of emotional awareness and emotion regulation on emotional eating in East Asian college students

◆佐藤 清香

(大学院ライフサイエンス専攻 食品栄養科学領域 博士後期課程 3年)

When did older adults start their eating behaviors? - Focusing on the eating behaviors associated with frailty

◆濱下 果帆

(大学院ライフサイエンス専攻 食品栄養科学コース 博士前期課程 2年)

A Study on "Epicurean Eating Pleasure" and healthy dietary habits among Japanese workers

◆西田 依小里

(大学院ライフサイエンス専攻 食品栄養科学コース 博士前期課程 2年)

Characteristics of those who order the appropriate amount of food in restaurants



ポツダム大学カウンセリング心理学講座
患者研修・カウンセリングセンター長

小児期や青年期の生活習慣病や摂食障害に対する心理的アプローチを専門とする。予防・治療プログラムの開発やランダム化比較試験による検証研究の経験多数。

近年では上記に加え、COVID-19の長期的影響や高齢者の食品選択に関する研究や、日独国際共同研究もおこなっている。

2024年3月7日 (木) 10:00~11:00

お茶の水女子大学 共通講義棟2号館102室

- ✓ 対面開催
- ✓ 言語：英語（同時通訳なし）
- ✓ 学内者ならどなたでも歓迎
- ✓ 右のQRコードよりお申し込みください

入退室自由



【主催】お茶の水女子大学SDGs推進研究所

<https://www.cf.ocha.ac.jp/sdgs/sdgs-office@cc.ocha.ac.jp>

ポツダム大学

ペトラ=ヴァルシュブルガー教授講演会



心理社会的要因が食行動と肥満に及ぼす影響： 予防と介入への示唆

The influence of psychosocial factors on eating behavior and obesity:
Implications for prevention and intervention

本講演では、肥満の原因となる心理社会的要因について簡単な概要に触れた上で、小児や青少年に対する治療介入の例をもとに、ヴァルシュブルガー教授から、予防と介入アプローチに向けた示唆をいただきます。



ポツダム大学カウンセリング心理学講座
患者研修・カウンセリングセンター長

小児期や青年期の生活習慣病や摂食障害に対する心理的アプローチを専門とする。
予防・治療プログラムの開発や、ランダム化比較試験による検証研究の経験多数。

近年では上記に加え、COVID-19の長期的影響や、高齢者の食品選択に関する研究、日独国際共同研究もおこなっている。

2024年3月7日（木） 14：00-15：30

お茶の水女子大学 共通講義棟2号館102室
ZOOM接続可（対面・オンラインハイブリッド開催）

◆言語：日本語、英語（同時通訳あり）

◆事前予約・登録制（参加費無料）

右のQRコードよりお申し込みください



【主催】お茶の水女子大学SDGs推進研究所

<https://www.cf.ocha.ac.jp/sdgs/>

sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所

2022 年度 SDGs 認知度調査

—最終報告書—

2024.3.31

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
TEL & FAX : 03-5978-2568

【目次】

1 調査の概要	P.3
2 調査結果	
(1) 対象者の特徴	P.6
(2) SDGs 認知度	P.7
(3) SDGs に対する関心	P.8
(4) SDGs 各目標に関する知識・態度・行動	P.10
(5) SDGs 達成に向けた行動の実施状況	P.13
(6) SDGs に関してお茶大に求めること	P.32
3 参考資料	
1) 調査質問紙（お茶大生対象）	P.35
2) 調査質問紙（一般女性対象）	P.48

1. 調査の概要

【序論】

SDGs 推進研究所では、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）の達成に向けた実践活動を統合する拠点として、生活者を起点とした SDGs 教育・研究プログラムを企画実行し、地域社会・民間企業・各種機関と連携し、社会全体で SDGs の達成を推進していくための人材養成を行っている。その一環として、本研究調査では、本学学生（学部生・大学院生）を含む女子青年における SDGs の認知度及び SDGs に関する知識・態度・行動に関する質問紙調査を実施する。収集したデータから、SDGs の知識・態度・行動との関連を検討し、得られた結果を本学学生と一般女子青年との間で比較する。さらに、得られた調査結果を基礎資料とし、SDGs 推進研究所のミッションである、SDGs 推進に資する教育プログラムの開発を目指す。

本研究が女子青年の SDGs に関する知識・態度・行動に焦点を当てる意義として、次の 2 つが挙げられる。第一に、大学生を含む若年者の SDGs に関する意識の高さである。我が国における若年者は他の世代と異なり、学生時代から SDGs に関する学修を行っている。実際に、2021 年に民間で行われた調査では、10 代が、SDGs の認知率が最も高かった（1）。SDGs に示される社会課題解決のための行動や習慣については先行研究が少ないため、本研究で若年女性における SDGs の知識・態度と生活行動との関連を検討することで、全世代に波及可能な教育プログラム作成のための基礎資料を得ることができる。第二に、わが国のジェンダー平等の実施状況が低いことである。SDGs の目標 5 に掲げられているジェンダー平等の実現は、わが国では他の先進国と比較して大きく遅れている。2022 年 7 月に公表された「The Global Gender Gap Report 2022」では、日本のジェンダーギャップは 146 カ国中 116 位と先進国の中でも非常に低かった（2）。従って、我が国で SDGs 推進活動を展開するために、上記世代に該当する女子青年を対象として、SDGs に対する知識・態度・行動についてデータを収集・分析し、社会課題解決のためのプログラム開発に必要なエビデンスを提供することを目的とした本研究は、学術的かつ社会的な意義を有するものと考えられる。

【目的】

女子青年における SDGs に関する知識・態度・行動との関連を明らかにするために、オンライン質問紙調査（無記名自記式）による横断研究を実施すること。

【方法】

（1）研究デザイン：横断研究

本学学生を対象とした【調査 1】、一般女子青年を対象とした【調査 2】から構成される無記名自記式質問紙調査

(2) 調査の対象者

【調査 1】 本学の学部生（1～4 年生）、大学院生（博士前期課程 1～2 年生、博士後期課程 1～3 年生）合計約 2,700 名

【調査 2】 調査会社（株式会社アスマーク）にモニター登録している女子青年約 500 名（18～25 歳）

(3) 調査実施期間

【調査 1】 2023 年 2 月 1 日～6 月 30 日※2023 年度新入生も調査対象とした

【調査 2】 2023 年 2 月 8 日～13 日

(4) 調査内容

質問項目リスト参照

質問項目リスト (調査 1・2)

セクション	No	内容	質問項目数	【調査 1】 本学学生	【調査 2】調査 会社モニター
A	1	本学への所属	1	○	
A	2	学籍番号の上 5 桁(入学年度・所属学部・学科)	1	○	
A	3	年齢	1	○	○
A	4	母国語	1	○	
A	5	居住形態	1	○	○
A	6	居住地(都道府県)	1		○
A	7	婚姻状況	1		○
A	8	職業	1		○
A	9	生活のゆとり感	1	○	○
A	10	学生生活充実度	1	○	
A	11	2022 年度後期の登校日数	1	○	
B	1	SDGs の知識	1	○	○
B	2	SDGs への全般的な関心	1	○	○
B	3	SDGs に関心を持ったきっかけ	1	○	○
B	4	SDGs 各目標への知識	17	○	○
B	5	SDGs 各目標への関心	17	○	○
B	6	SDGs 各目標と自分の生活との関連	17	○	○
C	1	SDGs 実践行動の全般的な実践状況	4	○	○
C	2	SDGs に関する生活行動	6	○	○
C	3	夏季の冷房設定室温	1	○	○
C	4	SDGs に関する食行動	10	○	○(9)
C	5	朝食摂取状況	1	○	○
C	6	SDGs の目標達成のための主体的な活動の実践状況	12	○	○
C	7	男女の役割にとらわれない行動	1	○	○
C	8	いじめや不登校の経験	1	○	
D	9	本学の SDGs に対する自由意見	1	○	
D	10	SDGs の実現のために自分ができること	1		○
E		IMC 質問	1	○	○
N/A		ダミー質問	5	○	○
		total	105	102	98

2. 調査結果

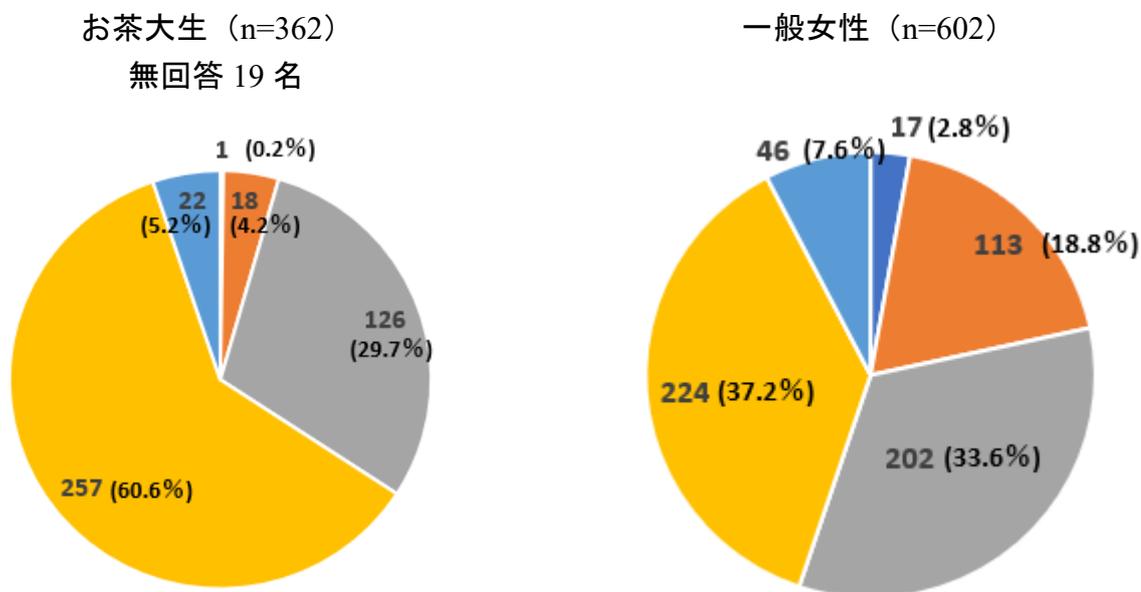
(1) 対象者の特徴

	お茶大		一般		p ^a
	n/平均	%/SD	n/平均	%/SD	
合計 (人)	424	100	602	100	
性別 (人)					
女性	424	100	602	100	-
年齢 (歳)	21.3	3.2	21.9	2.3	0.002
居住形態 (人)					
一人暮らし	234	55.2	141	23.4	
実家暮らし (お茶大)	90	21.2	-	-	-
寮暮らし (お茶大)	98	23.1	-	-	-
同居者あり (一般)	-	-	461	76.6	
無回答	2	0.5	0	0	
暮らし向き (1: 全くゆとりがない～ 5: ゆとりがある)	3.5	1.09	2.9	1.14	<0.001
職業 (一般のみ回答・人)					
会社・団体の経営者・役員			14	2.3	
会社員 (契約社員/派遣社員含む)			138	22.9	
公務員			16	2.7	
自営業・自由業			10	1.7	
専業主婦			12	2	-
パート・アルバイト			68	11.3	
学生			307	51	
無職/リタイア			32	5.3	
その他			5	0.8	

^at 検定

(2) SDGs 認知度

「あなたは、SDGs について知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。」



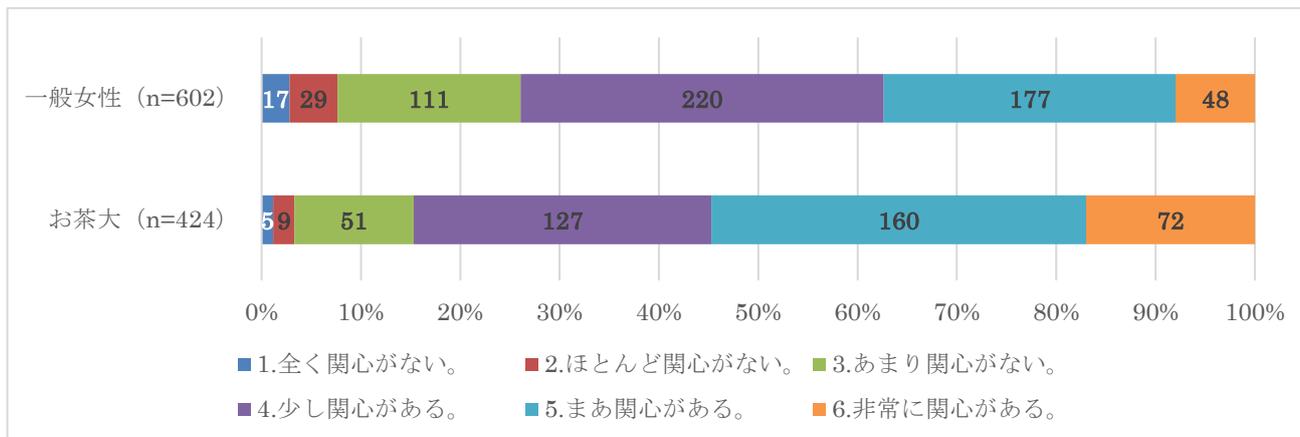
- 1. 名前を聞いたことがない。
- 2. 名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- 3. 名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための17のゴールがあることを知っている。
- 4. 上記3に加えて、17のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。
- 5. 上記3に加えて、17のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

SDGs 認知度（上記項目で3～5 と回答した者の割合）は、

お茶大生：95.5%、一般女性：77.7%であった

(3) SDGs に対する関心

あなたは、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) にどの程度関心がありますか。

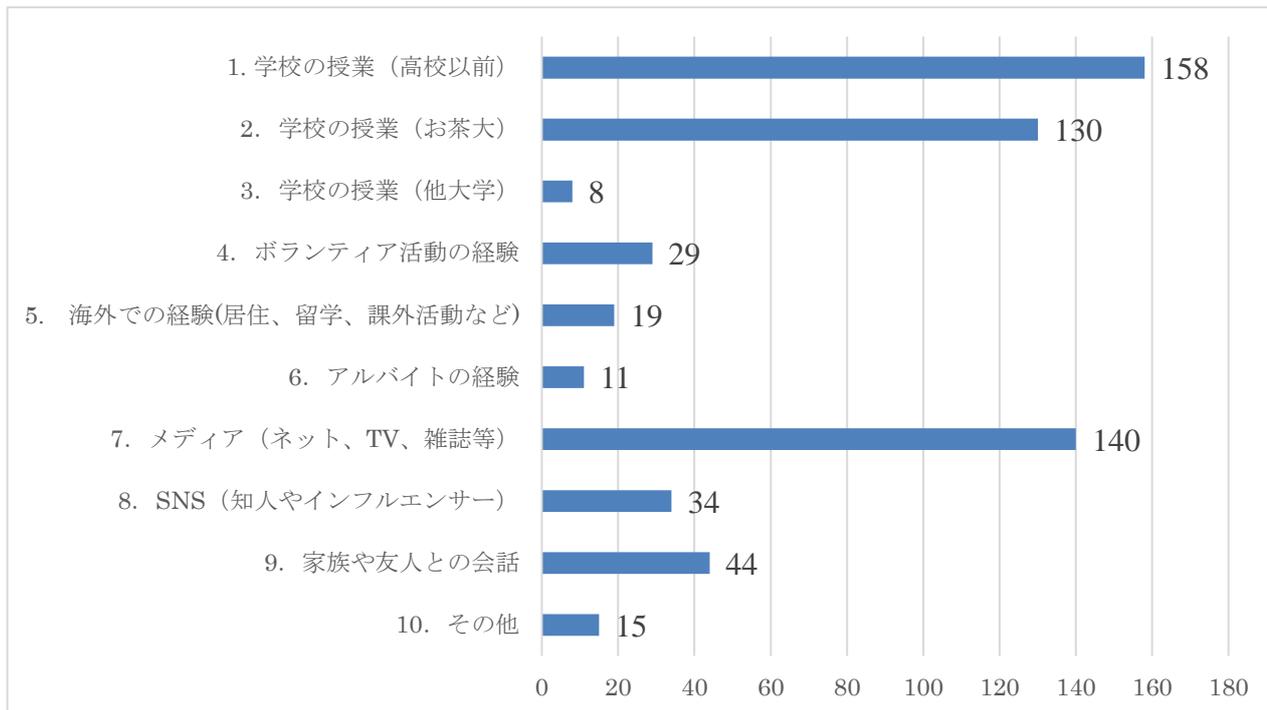


カイ二乗検定, *p<0.001

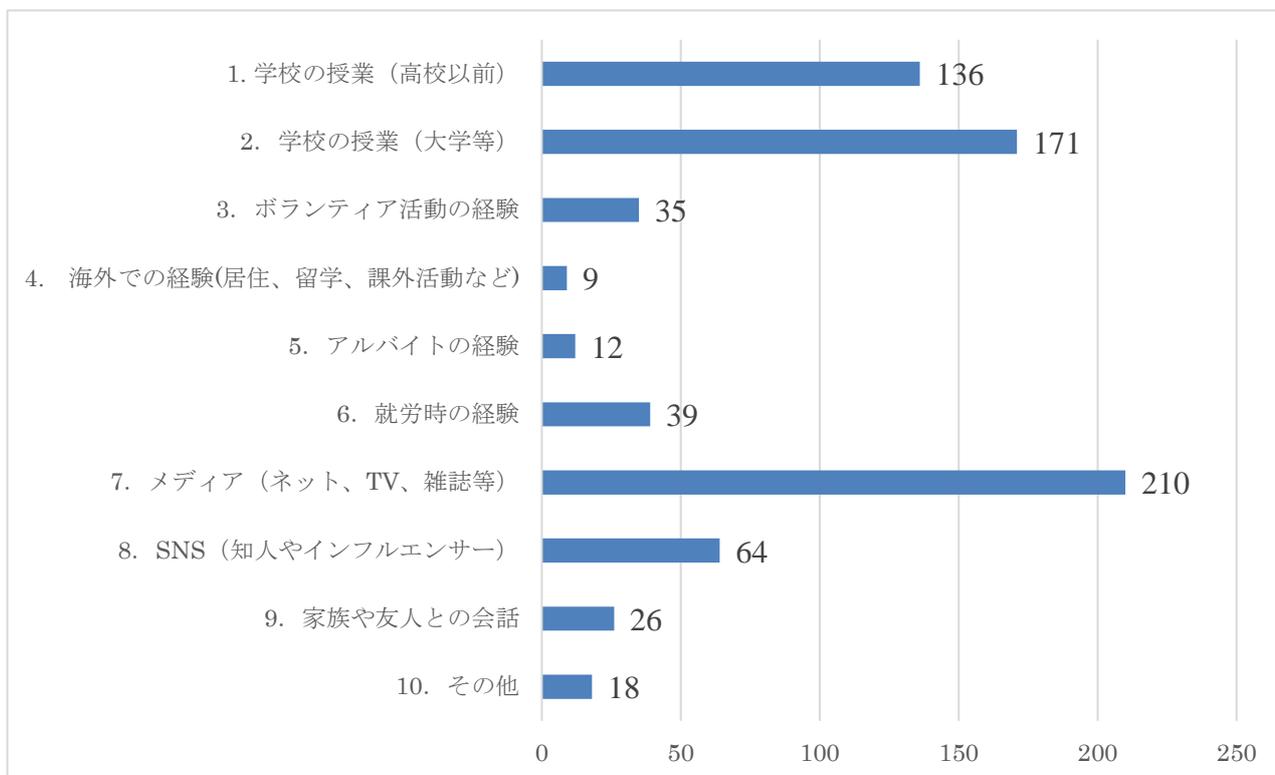
SDG 関心度 (上記項目で 4~6 と回答した者の割合) は、
 お茶大生 : 84.7%、一般女性 : 73.9%であった

あなたが、SDGs に興味・関心を持ったきっかけは何ですか。(複数選択可)

① お茶大生 (n=356)



② 一般女性 (n=602)

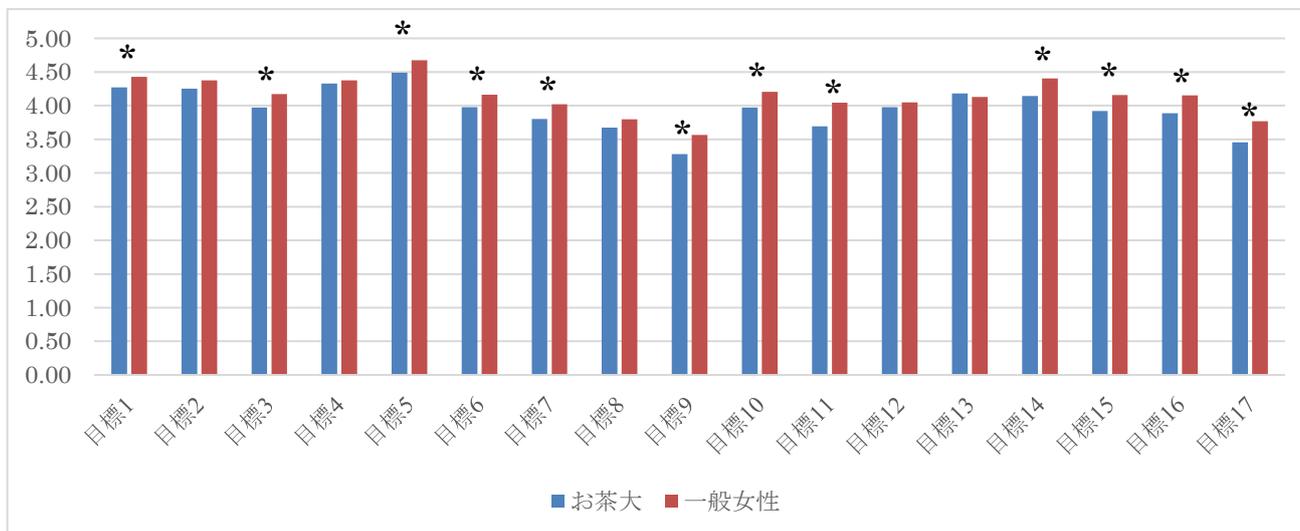


(4) SDGs 各目標に関する知識・態度・行動

①各目標に関する知識

「あなたは、SDGs の 17 つの目標の内容について、どの程度知っていますか。」

1 : 全く知らない～6 : 非常によく知っている の 6 件法で回答



*p<0.05, t 検定

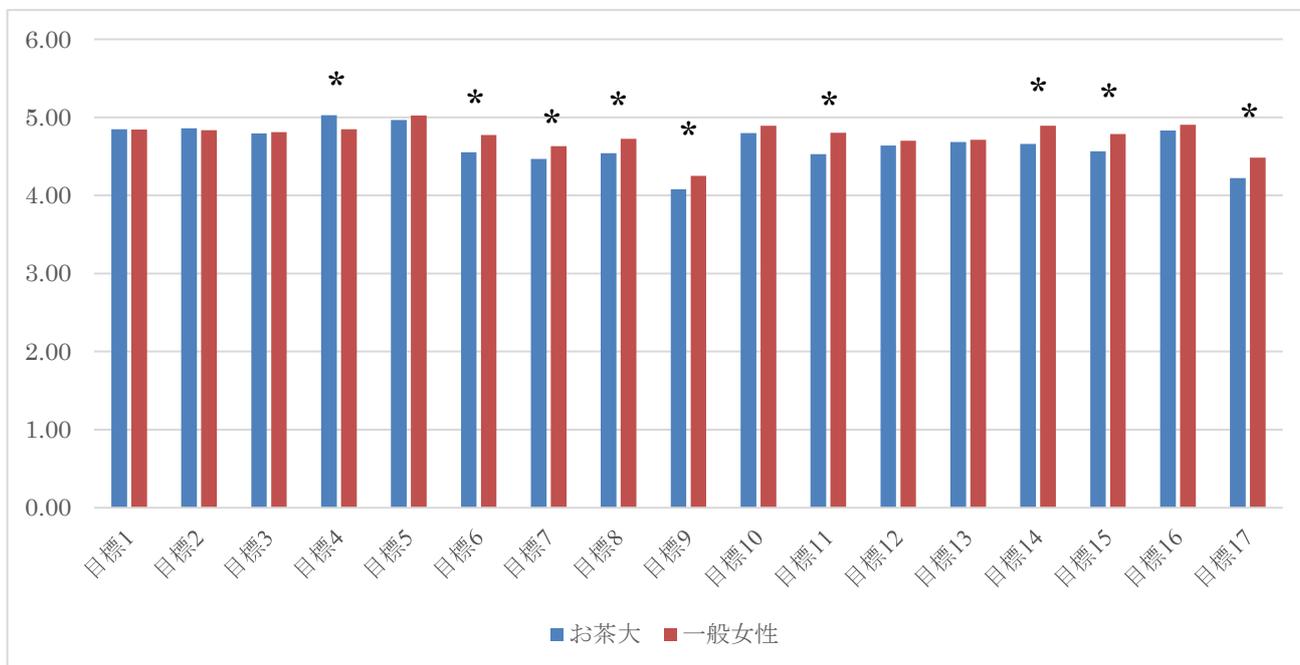
高得点/低得点を獲得した目標

順位	お茶大				一般女性			
	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 5	4.7	目標 9	3.3	目標 5	4.7	目標 9	3.6
2	目標 4	4.4	目標 17	3.5	目標 1	4.4	目標 17	3.8
3	目標 1	4.4	目標 8	3.7	目標 14	4.4	目標 8	3.8

②各目標に対する態度（関心の強さ）

「あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。」

1：全く関心がない～6：非常に関心がある の6件法で回答



*p<0.05, t 検定

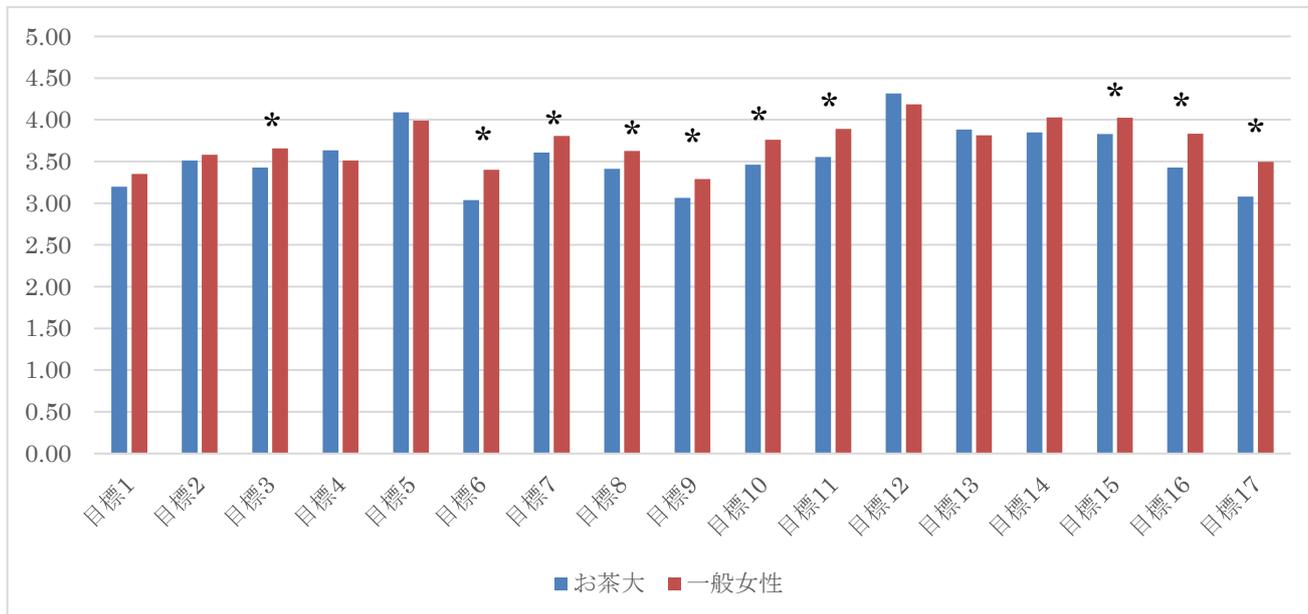
高得点/低得点を獲得した目標

順位	お茶大				一般女性			
	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 4	5.0	目標 9	4.1	目標 5	5.0	目標 9	4.2
2	目標 5	5.0	目標 17	4.2	目標 16	4.9	目標 17	4.5
3	目標 2	4.9	目標 7	4.5	目標 14	4.9	目標 7	4.6

③各目標と自分の行動との関わり

「あなた自身の行動は、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。」

1：全く影響しない～6：非常に強く影響する の6件法で回答



*p<0.05, t 検定

高得点/低得点を獲得した目標

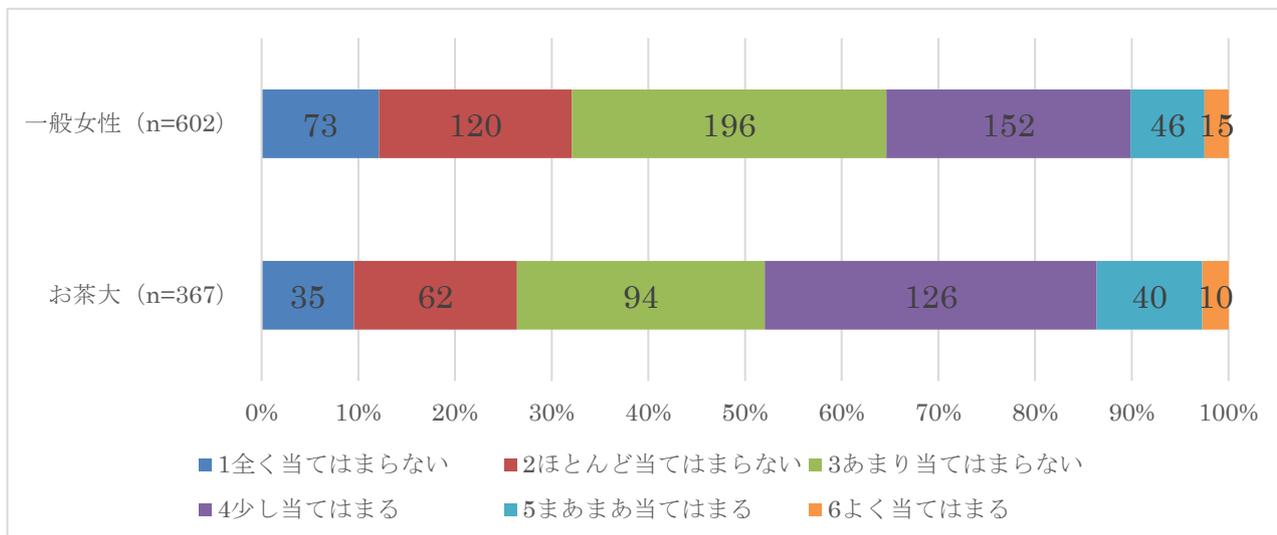
順位	お茶大				一般女性			
	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 12	4.3	目標 6	3.0	目標 12	4.2	目標 9	3.3
2	目標 5	4.1	目標 9	3.1	目標 14	4.0	目標 1	3.4
3	目標 13	3.9	目標 17	3.1	目標 15	4.0	目標 6	3.4

(5) SDGs 達成に向けた行動の実施状況

①SDGs 達成のための行動全般

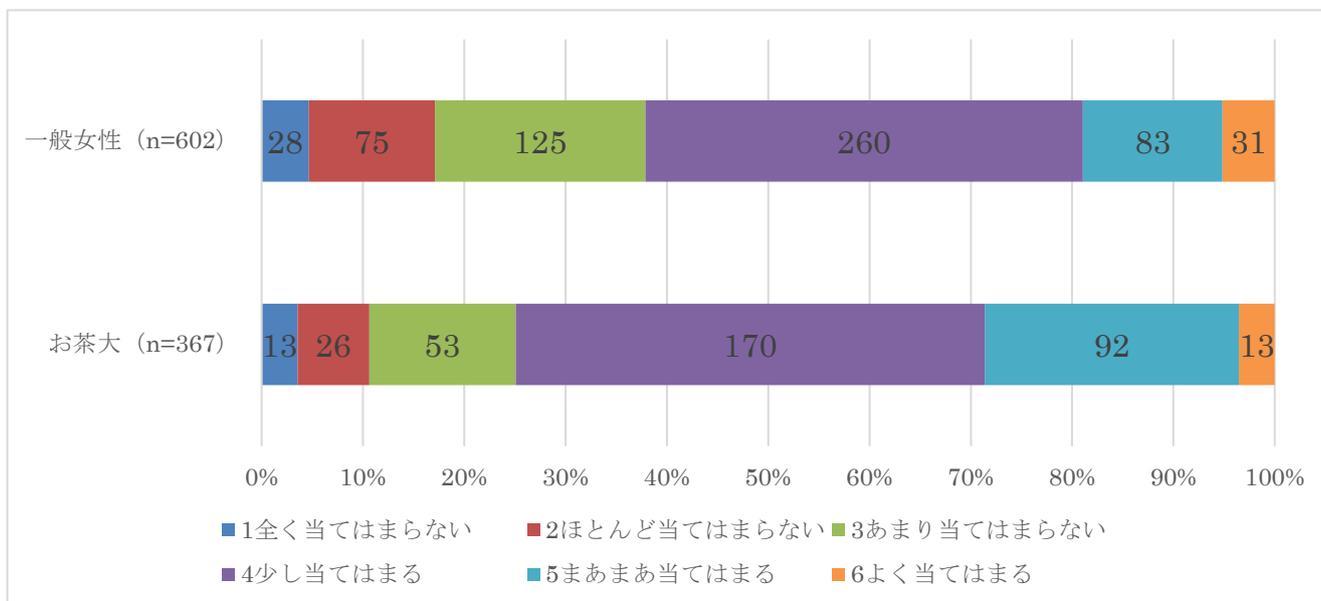
「次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いもの一つを選択してください。」

私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている



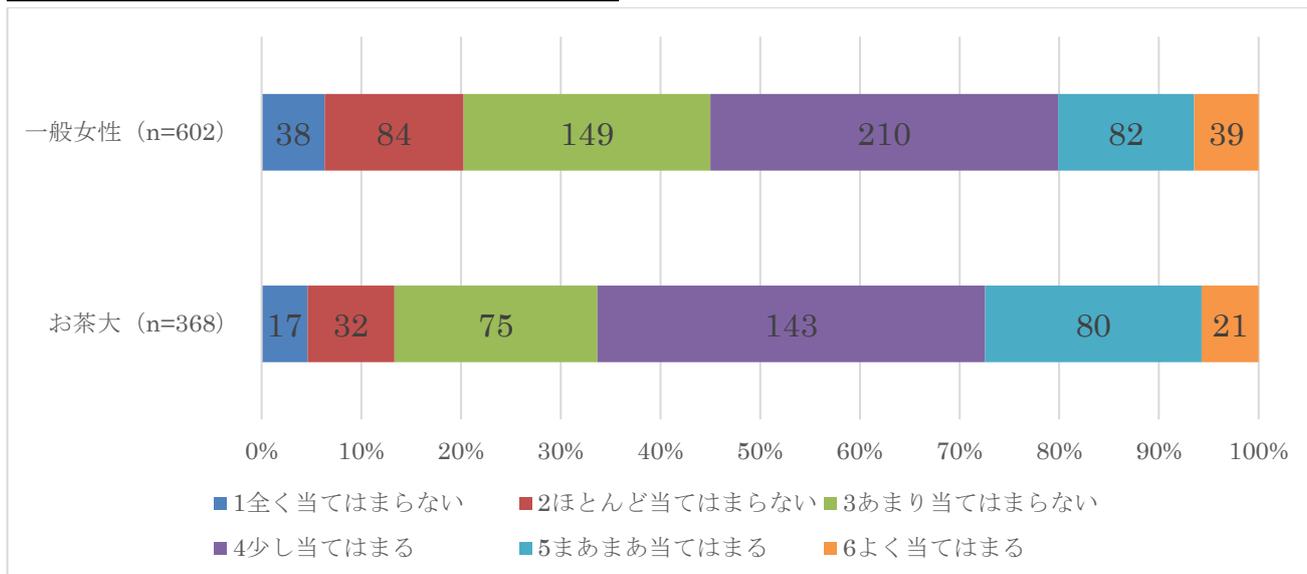
カイ二乗検定, $p=0.009$

私は、環境に配慮した生活行動をとっている



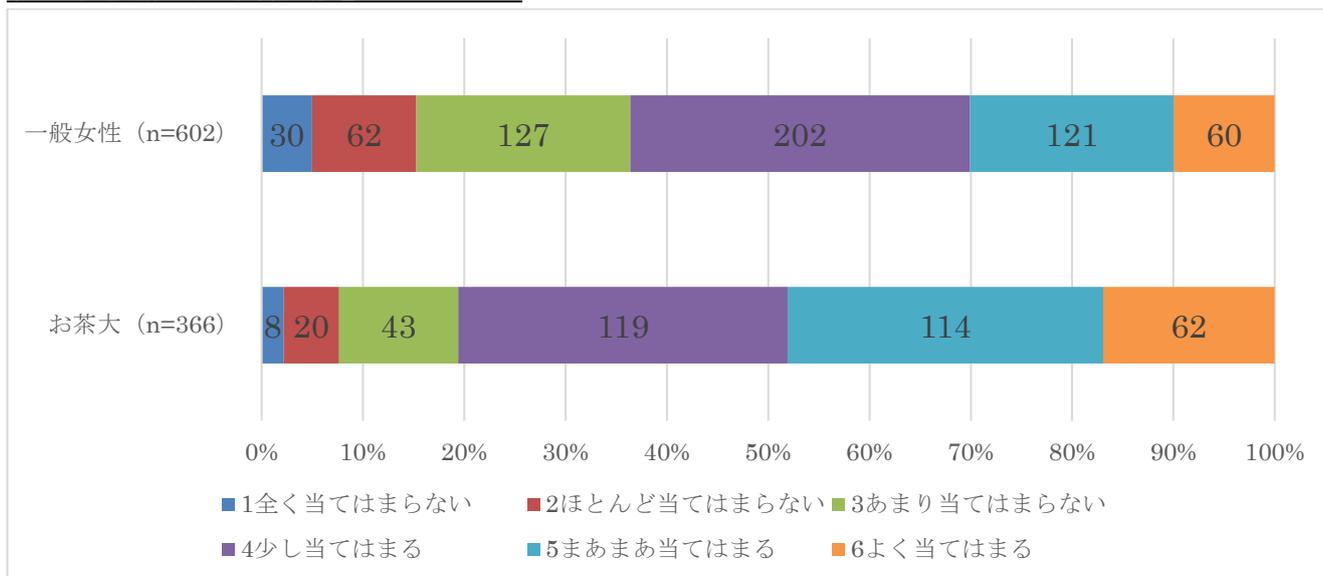
カイ二乗検定, $p<0.001$

私は、環境に配慮した食行動をとっている



カイ二乗検定, p=0.002

私は、健康的な食行動をとっている

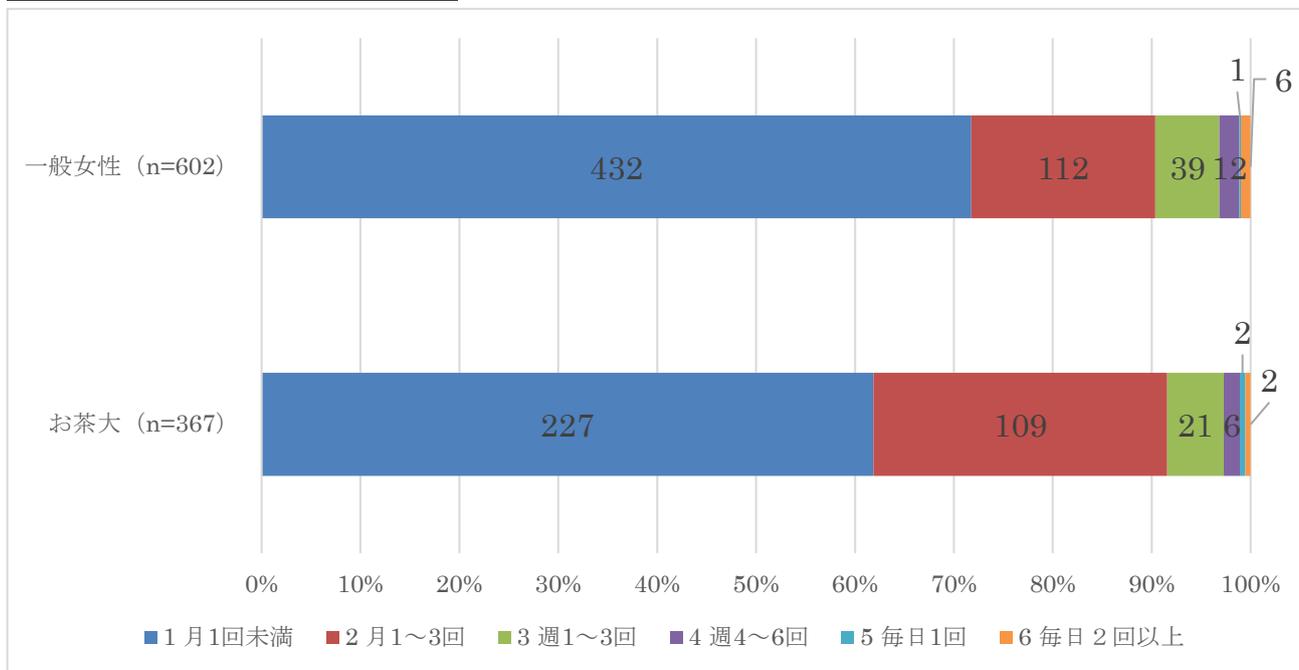


カイ二乗検定, p<0.001

②SDGs 達成のための生活行動

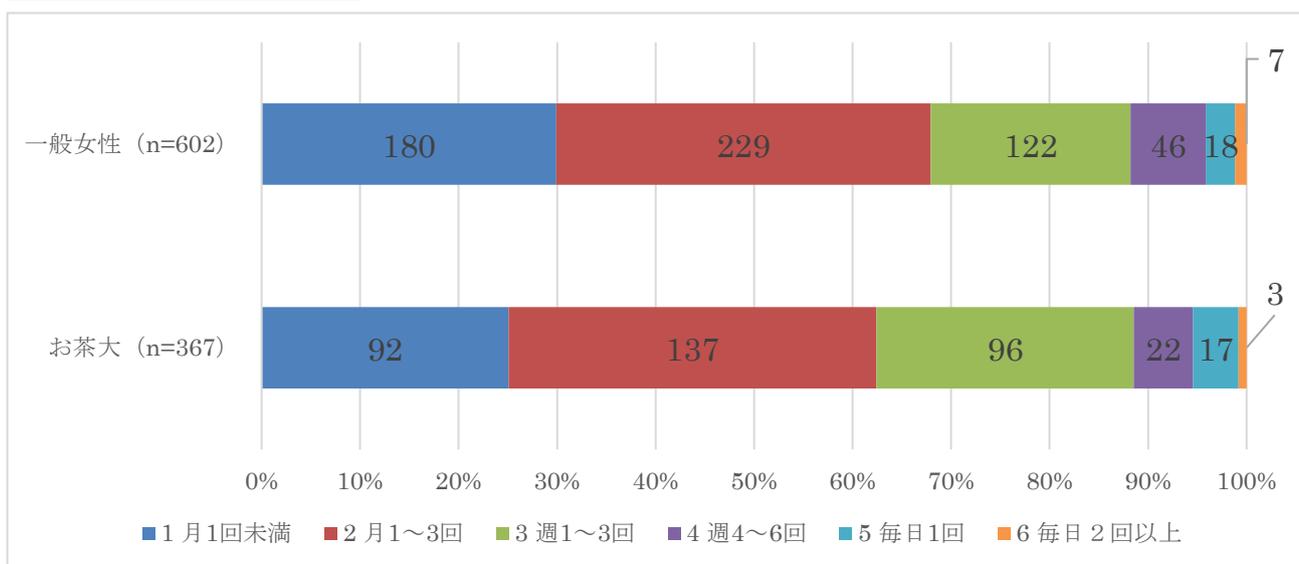
「あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。」

買い物の際にレジ袋を購入する



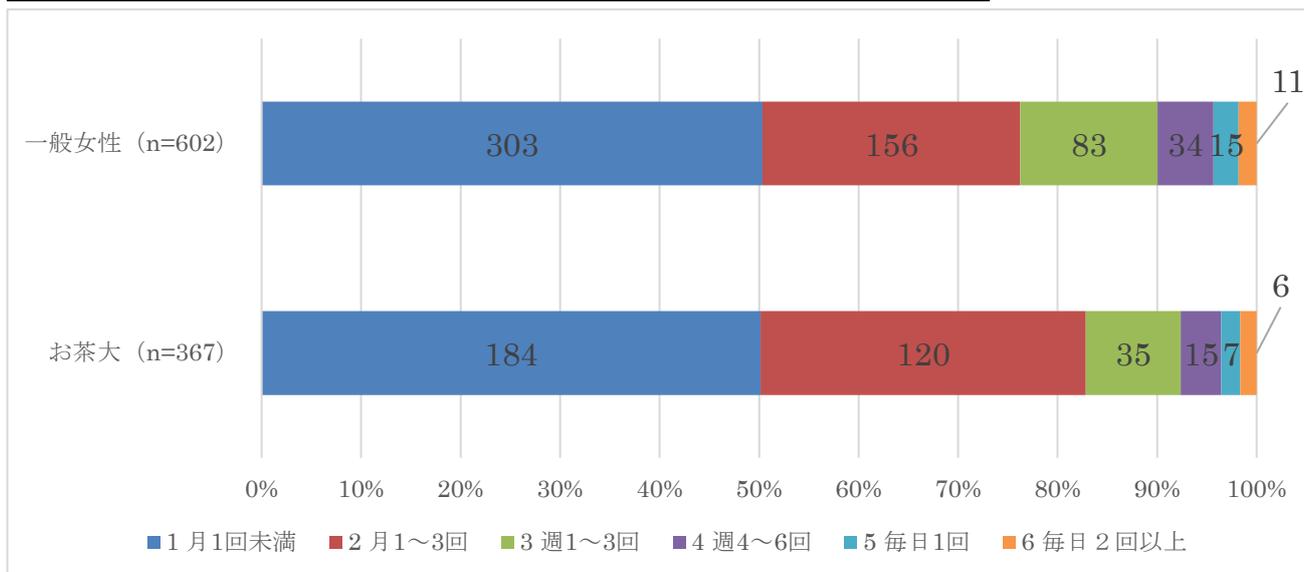
カイ二乗検定, $p=0.004$

ペットボトルを購入する



カイ二乗検定, $p=0.141$

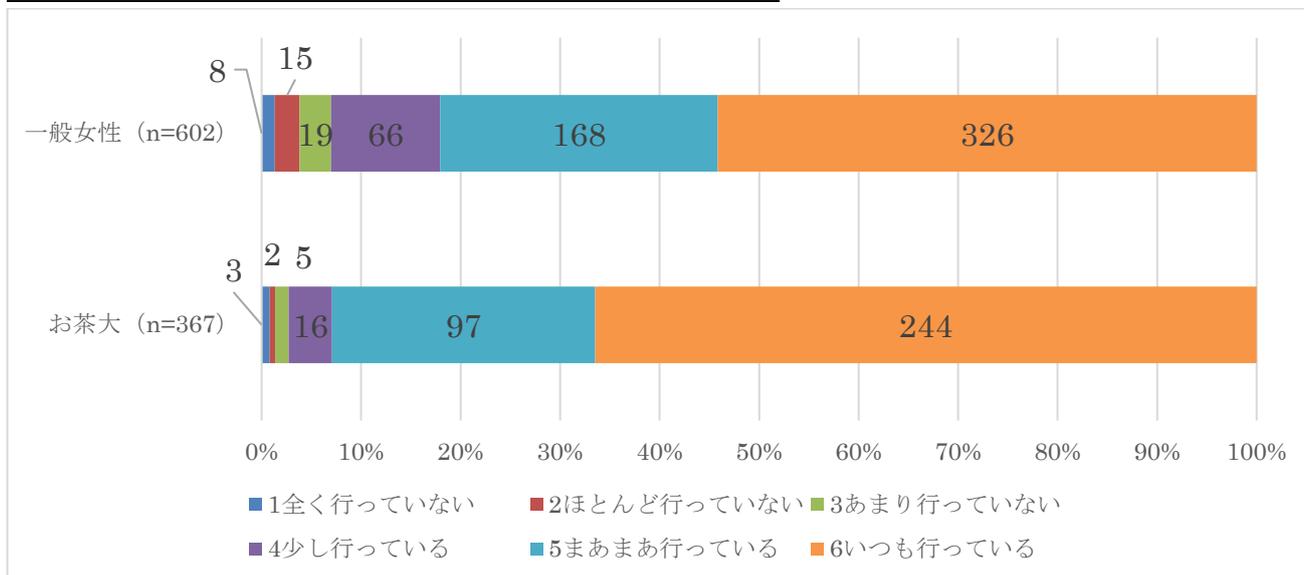
エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する



(FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。)

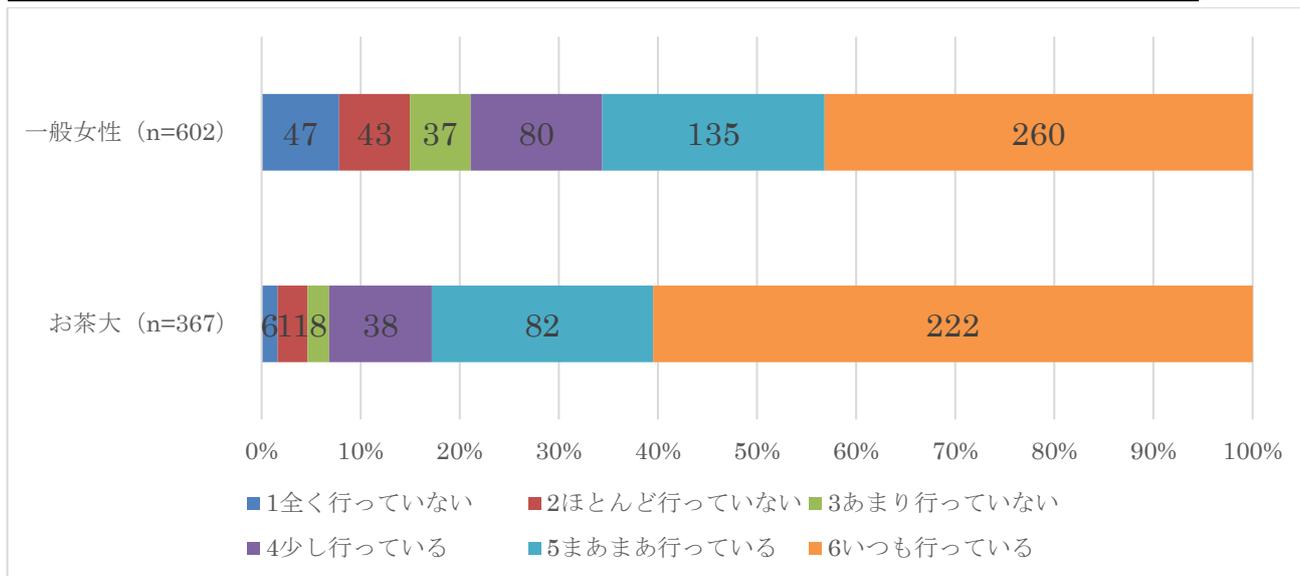
カイ二乗検定, $p=0.128$

地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する



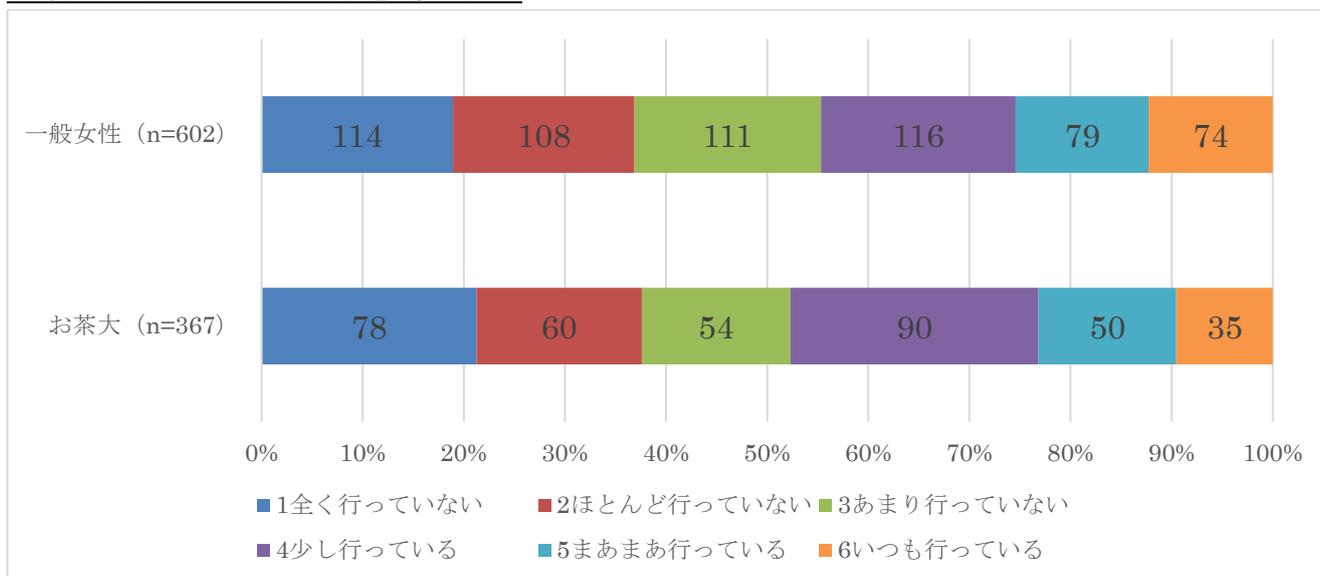
カイ二乗検定, $p<0.001$

移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う（自家用車やタクシーを使わない）



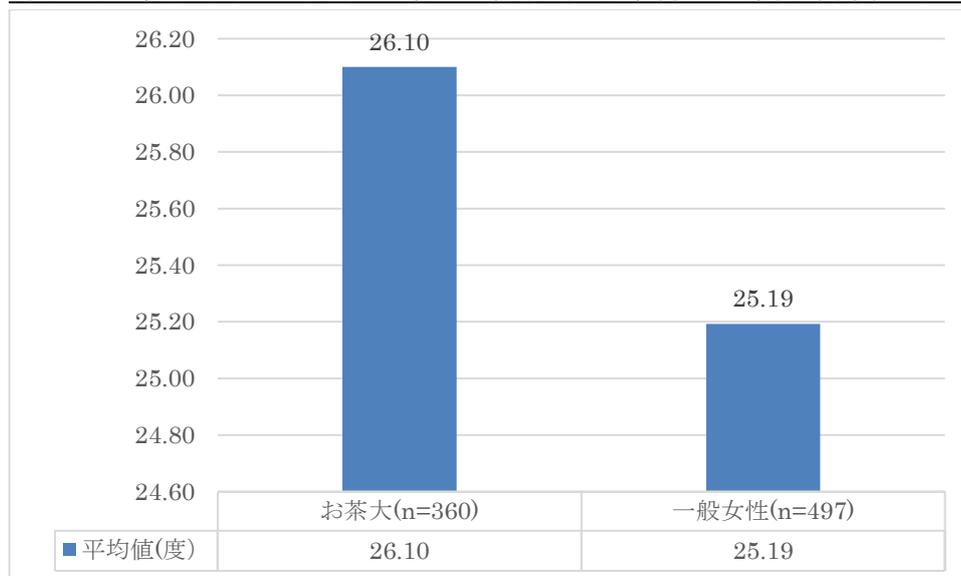
カイ二乗検定, $p < 0.001$

古着や古本などの中古品を購入する



カイ二乗検定, $p = 0.196$

あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？

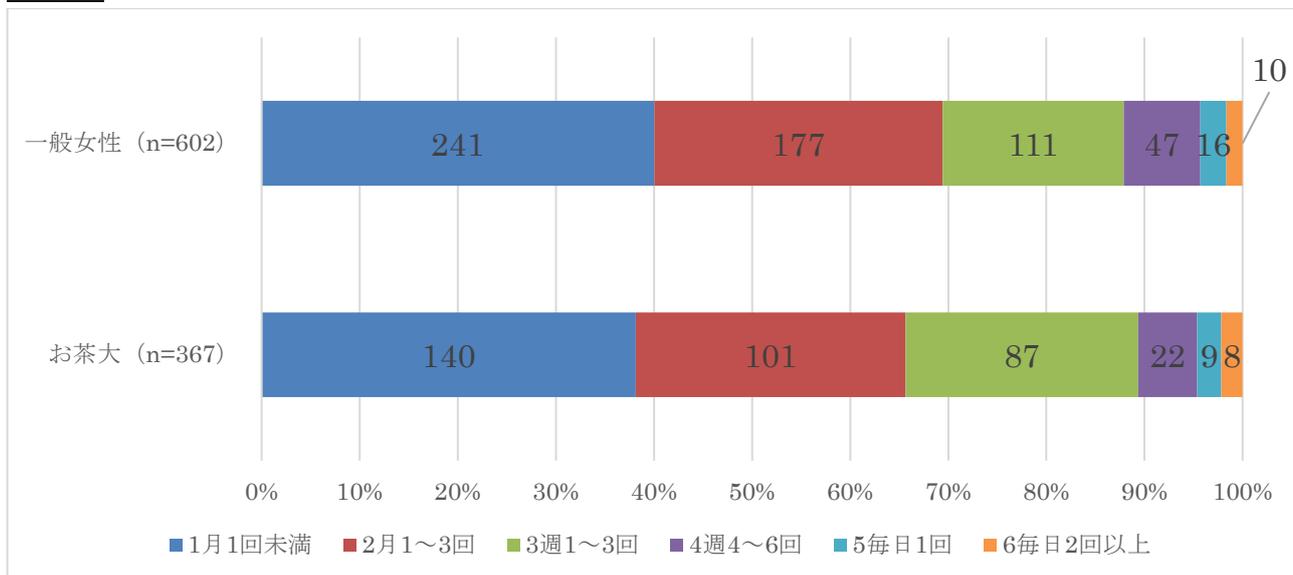


t 検定、 $p < 0.001$

「自室に冷房がある」と回答した者に対し質問した。

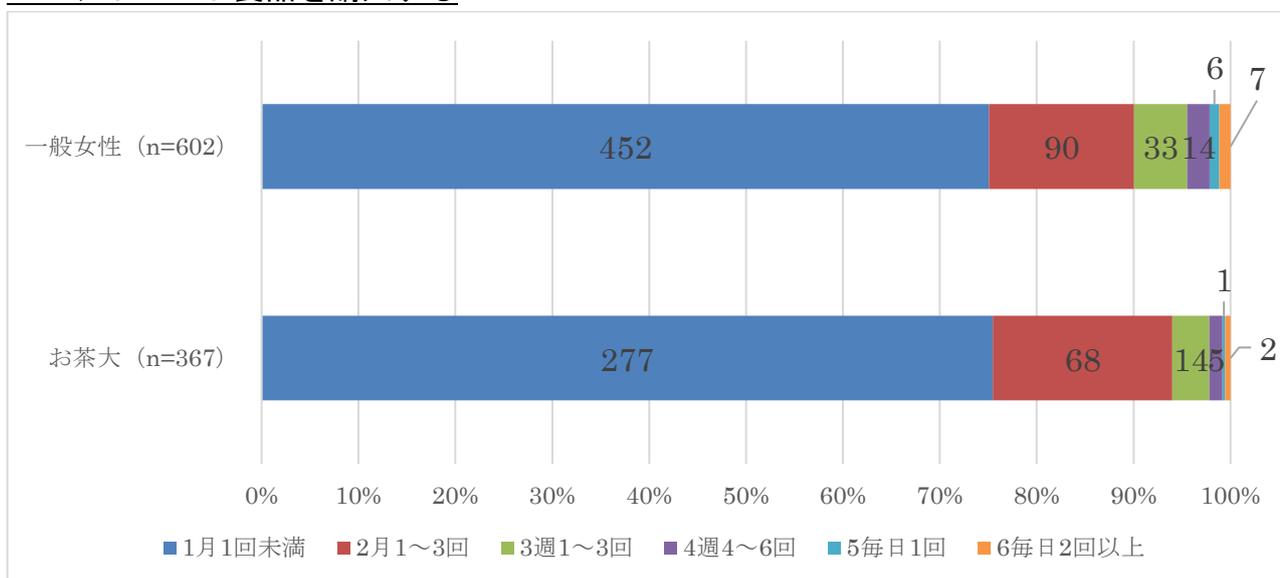
③SDGs 達成のための食行動

地産地消に配慮した食品を購入・注文する（例：国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等）



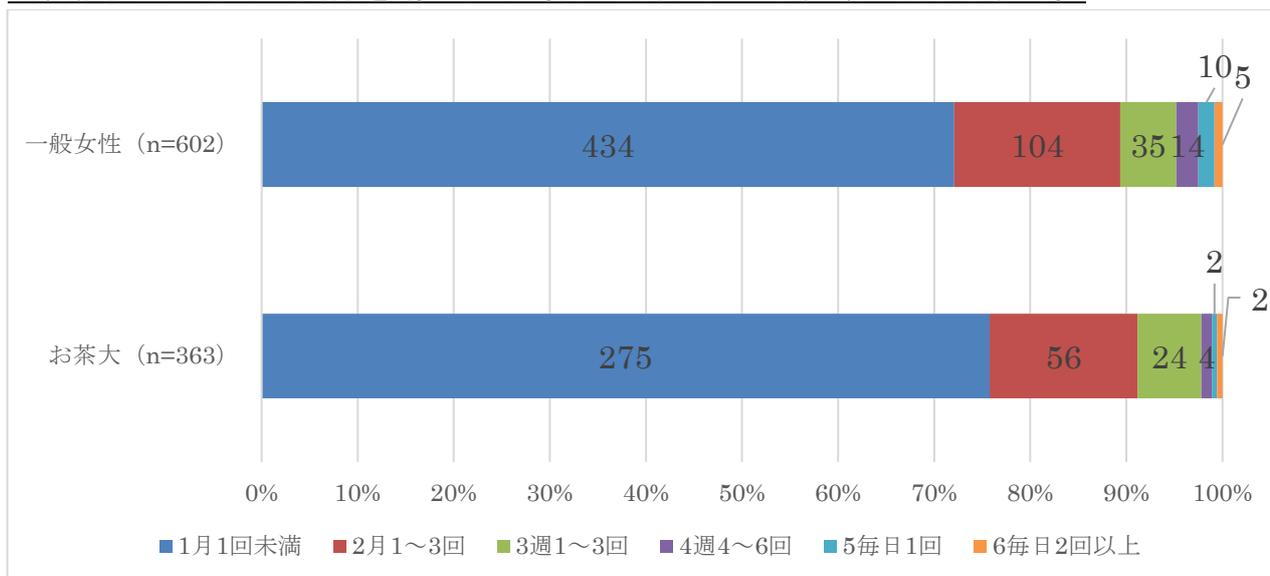
カイ二乗検定, $p=0.416$

フェアトレード食品を購入する



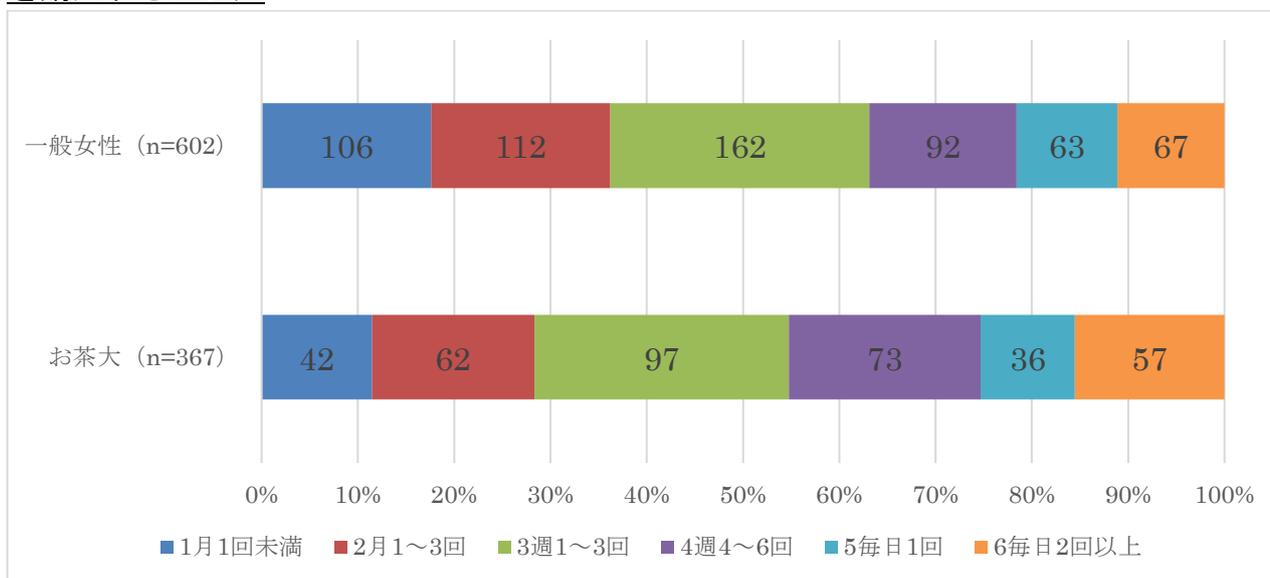
カイ二乗検定, $p=0.238$

動物福祉に配慮した食品を購入する {例：放牧肉や平飼い卵（放し飼い）}



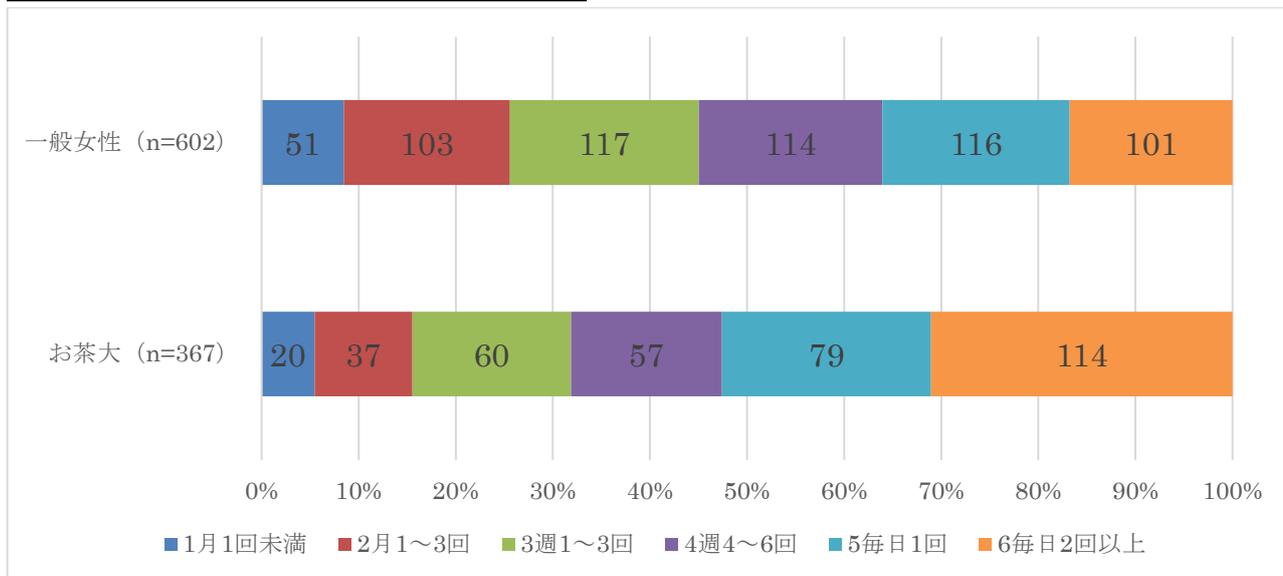
カイ二乗検定, $p=0.367$

食品購入時に「てまえどり」をする（賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること）



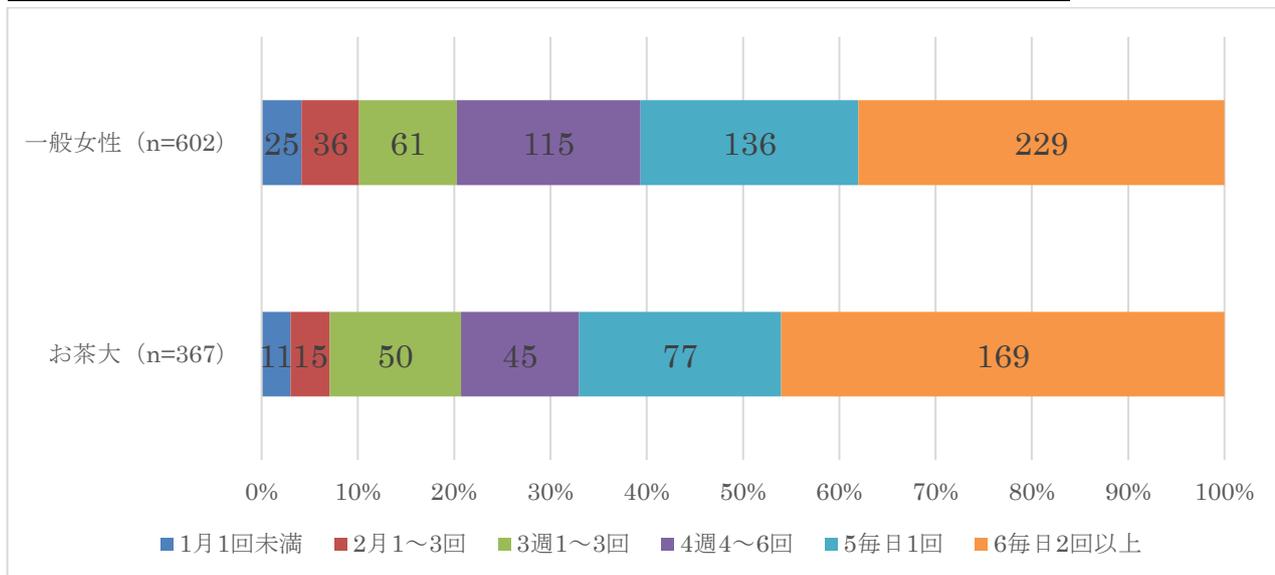
カイ二乗検定, $p=0.029$

主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる



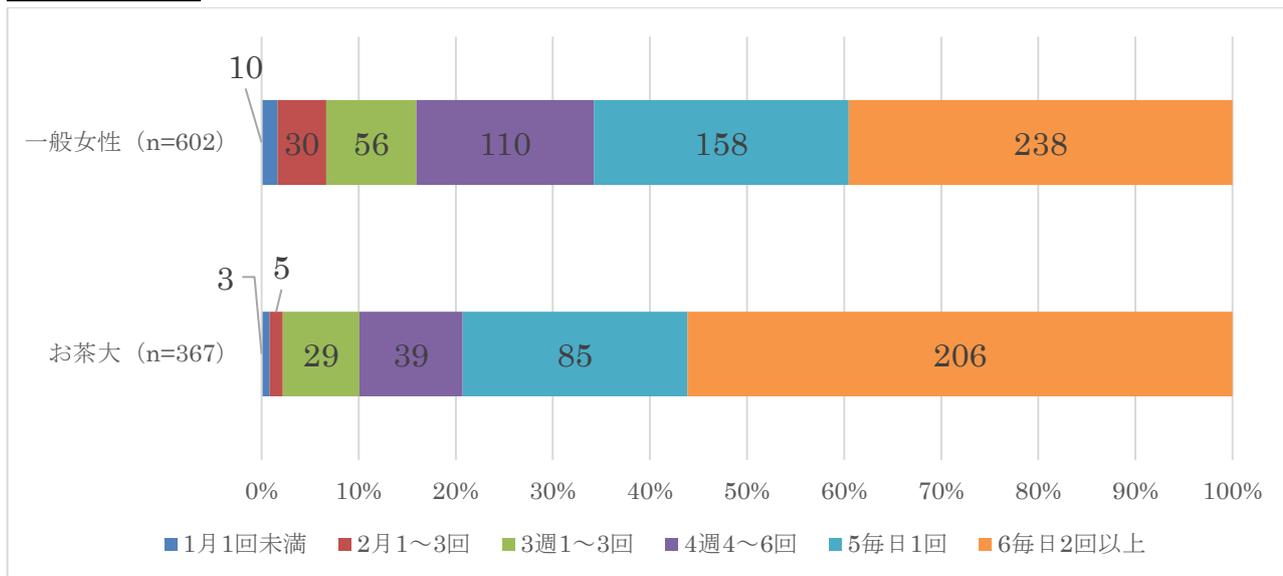
カイ二乗検定, $p < 0.001$

家庭で調理されたものを食べる。(家庭で調理されたもの：包丁を使って調理するものとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調理されたものも含まれます)



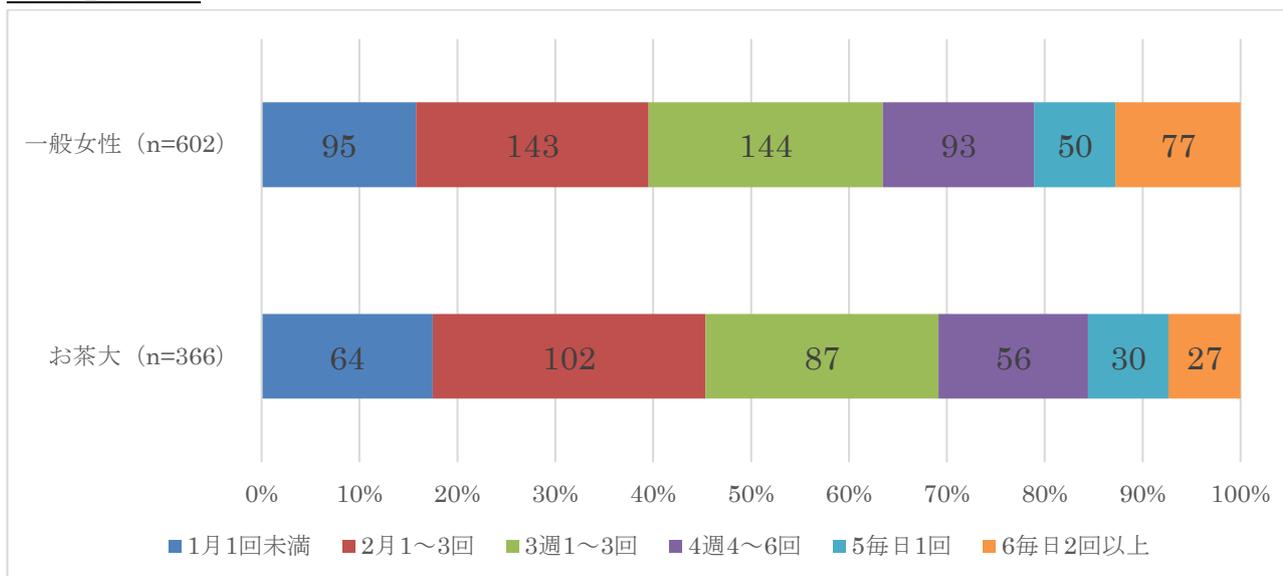
カイ二乗検定, $p = 0.010$

野菜を食べる



カイ二乗検定, $p < 0.001$

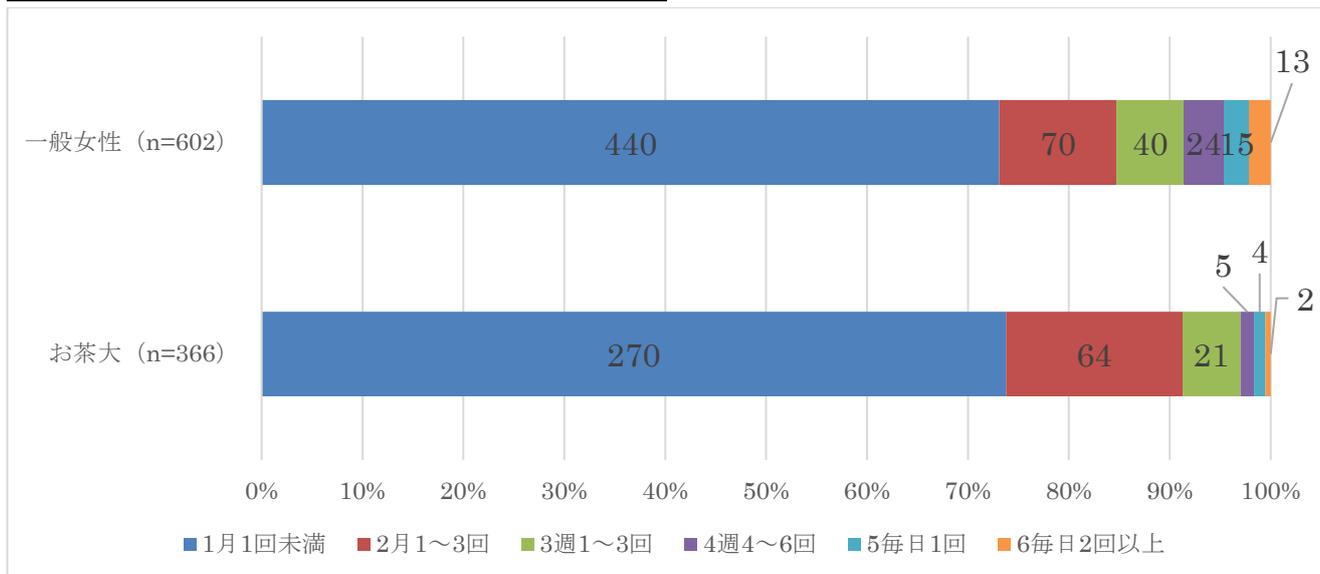
牛肉を食べる



カイ二乗検定, $p = 0.149$

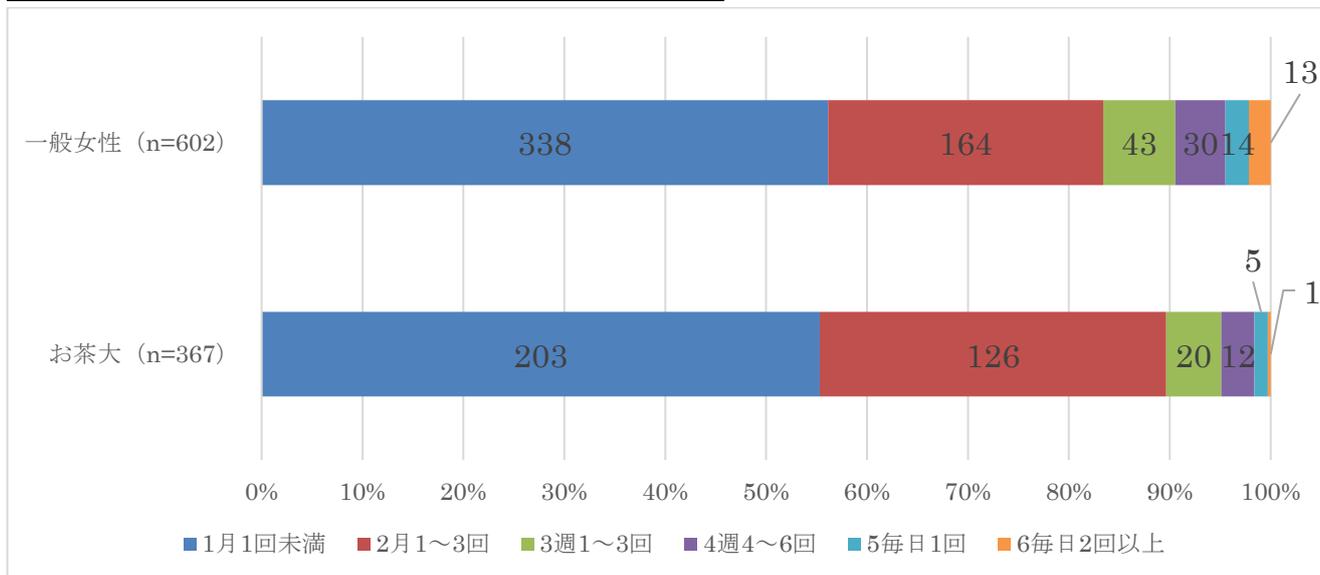
※データ確認済み

代替肉を食べる。(例：大豆ミート、昆虫等)



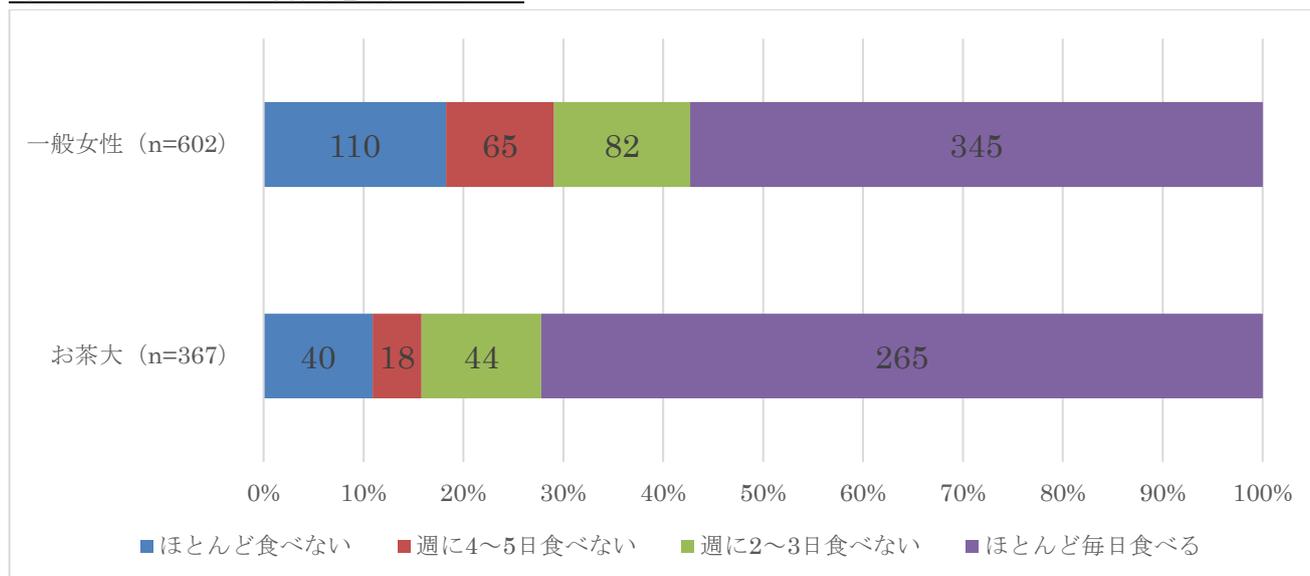
カイ二乗検定, $p=0.004$

本来食べられる食品を廃棄する。(例：腐敗させてしまい捨てる、手を付けないまま捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す)



カイ二乗検定, $p=0.022$

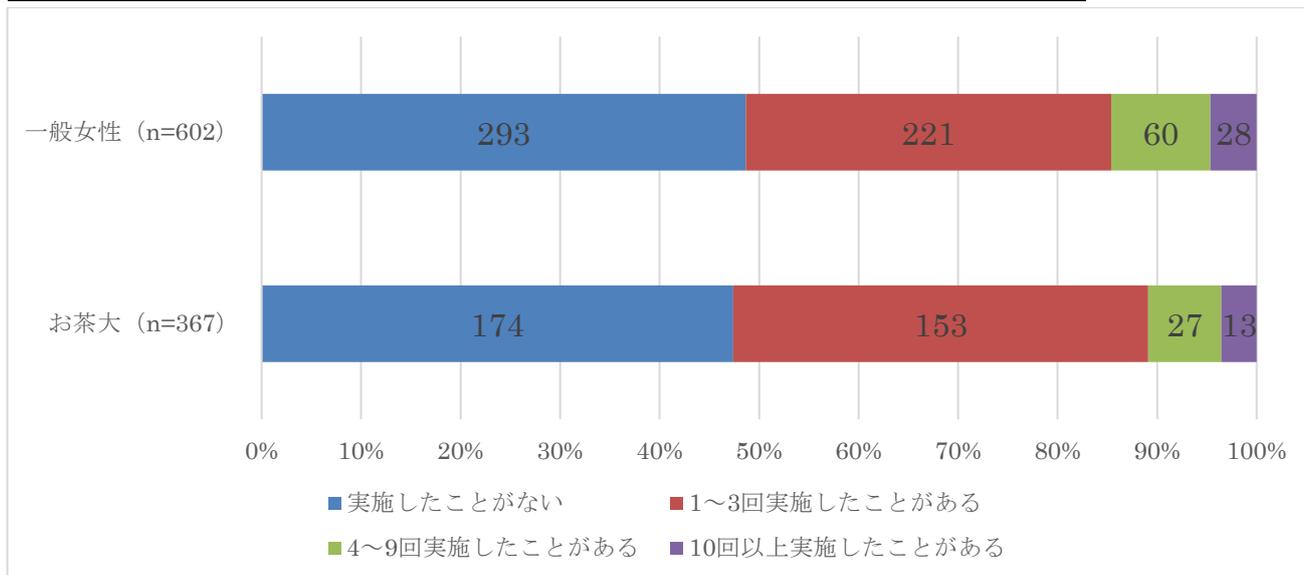
あなたはふだん、朝食を食べますか



カイ二乗検定, $p < 0.001$

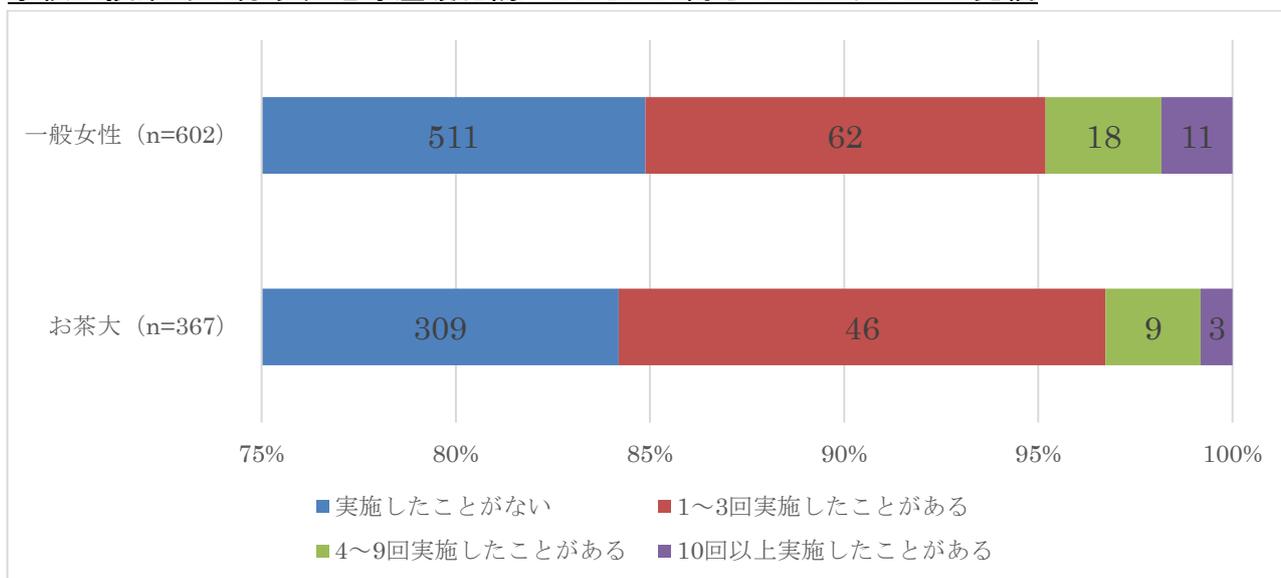
③SDGs 達成のためのその他の行動

授業外で行う、環境保全に関するボランティア活動。(例：ゴミ拾い活動)



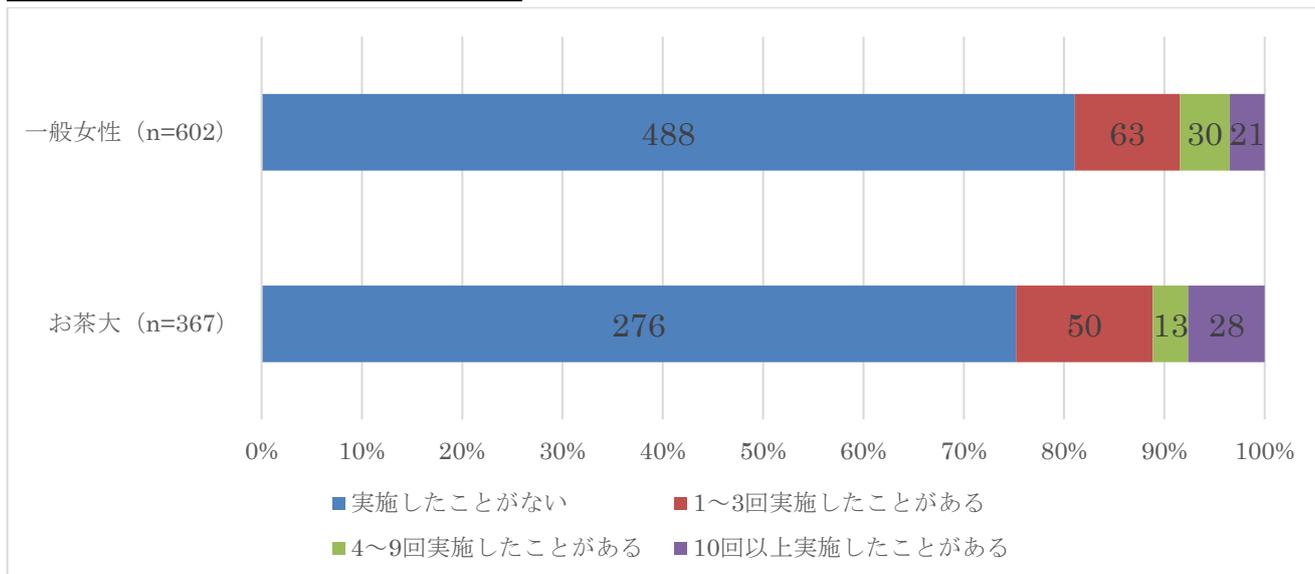
カイ二乗検定, $p=0.269$

学校の授業外で行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信



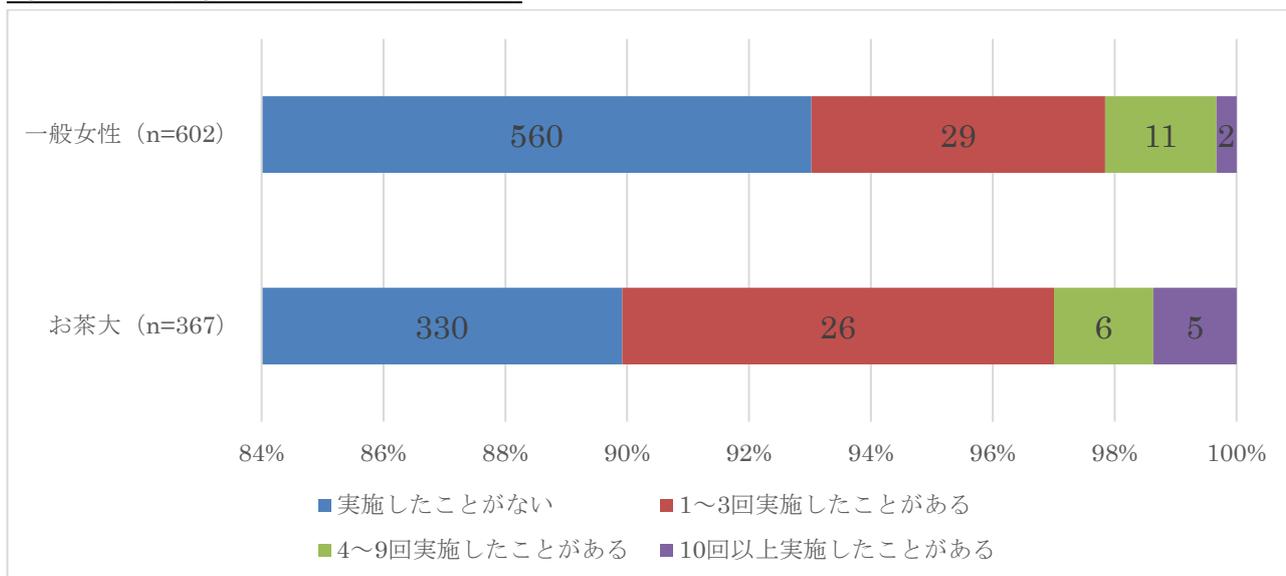
カイ二乗検定, $p=0.410$

国内の学習支援のボランティア活動



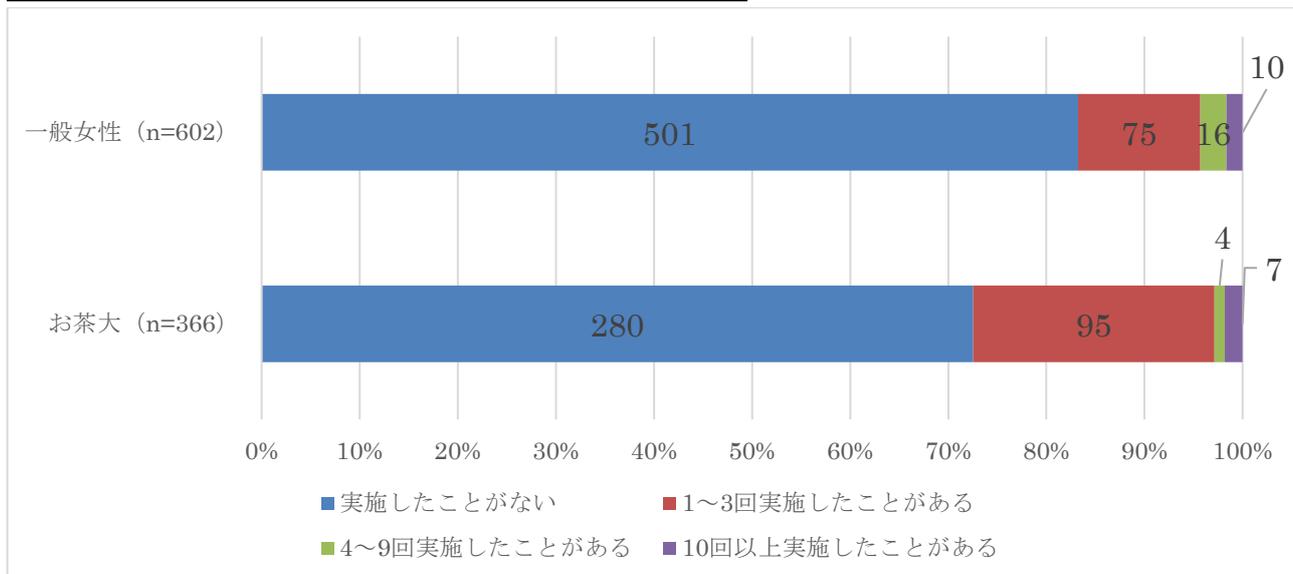
カイ二乗検定, $p=0.008$

海外の教育支援のボランティア活動



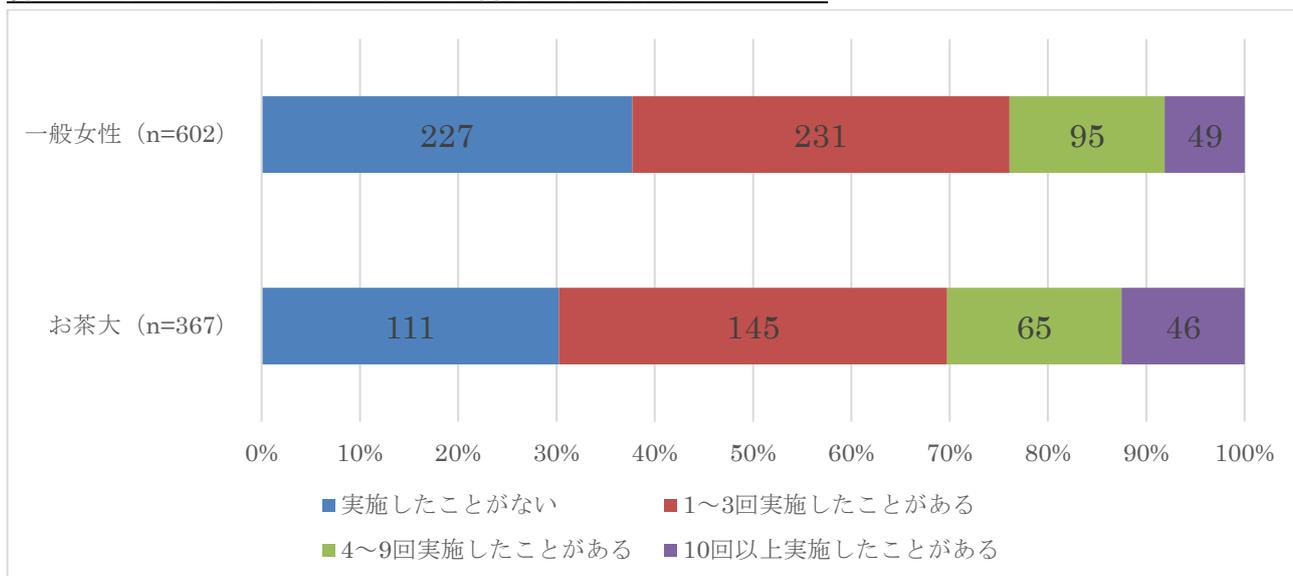
カイ二乗検定, $p=0.127$

食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加



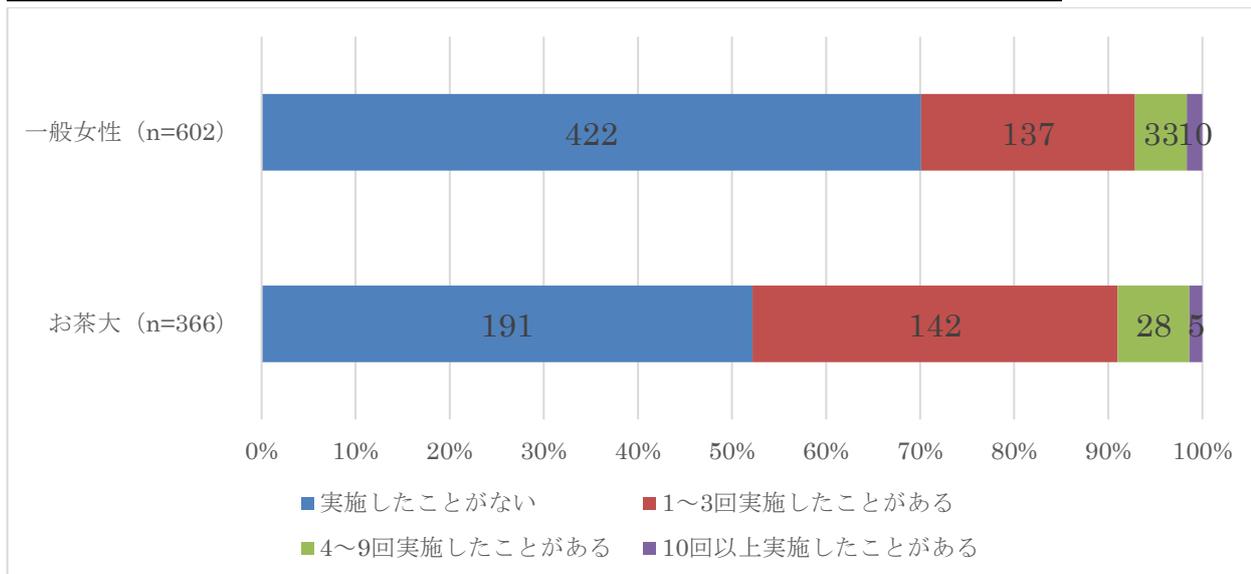
カイ二乗検定, $p=0.004$

募金活動への協力。(例：教育、紛争、災害、福祉など)



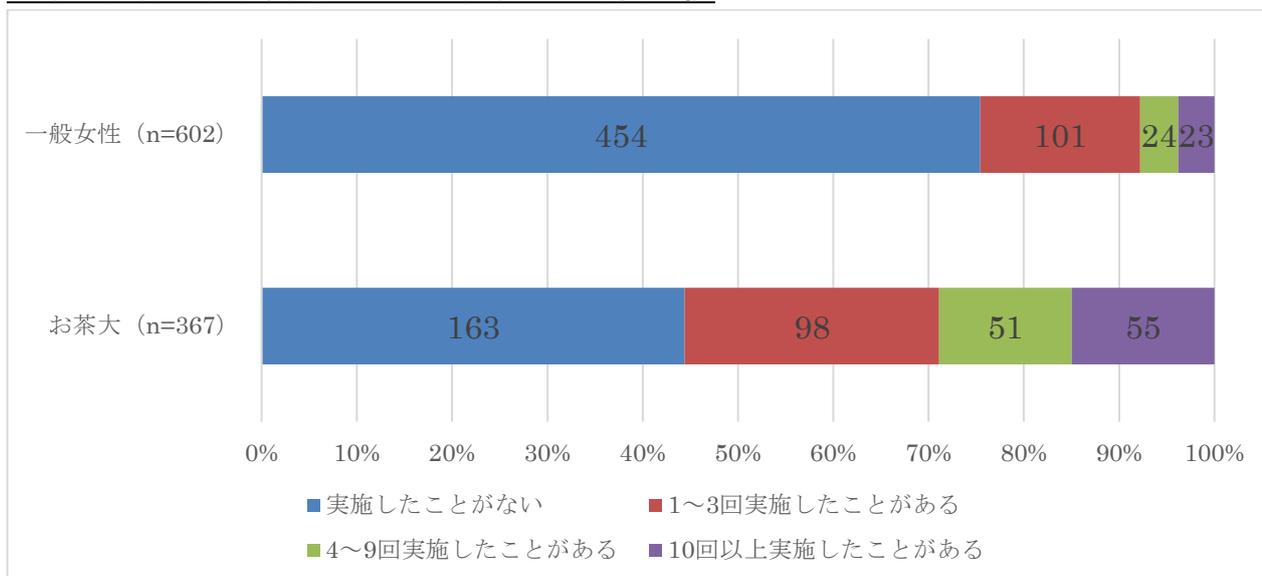
カイ二乗検定, $p=0.033$

使わなくなった学校用具の寄付（国内/海外問わず）（例：ランドセル等）



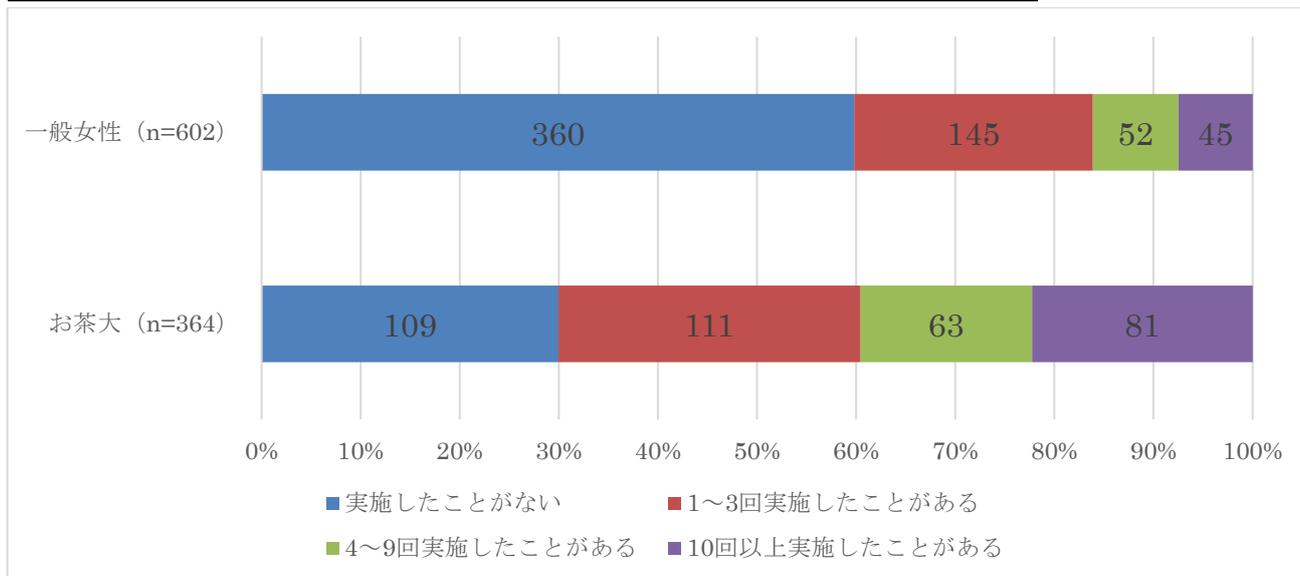
カイ二乗検定, $p < 0.001$

日本や世界の教育問題について他者との意見交換



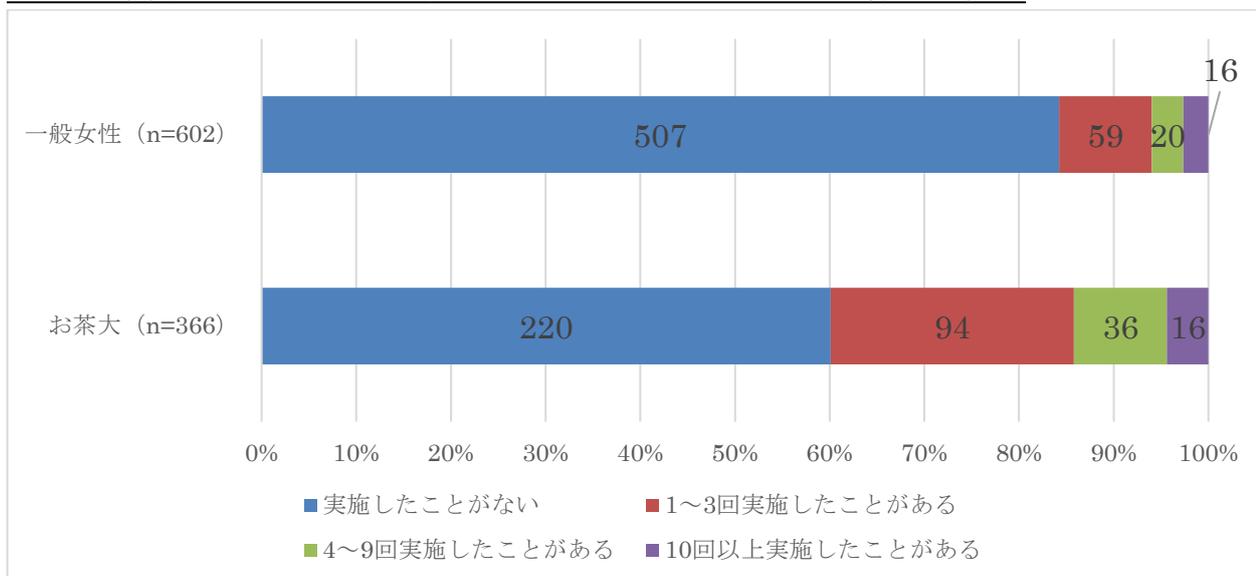
カイ二乗検定, $p < 0.001$

教育に関する話題について、主体的な情報収集（新聞やニュースから）



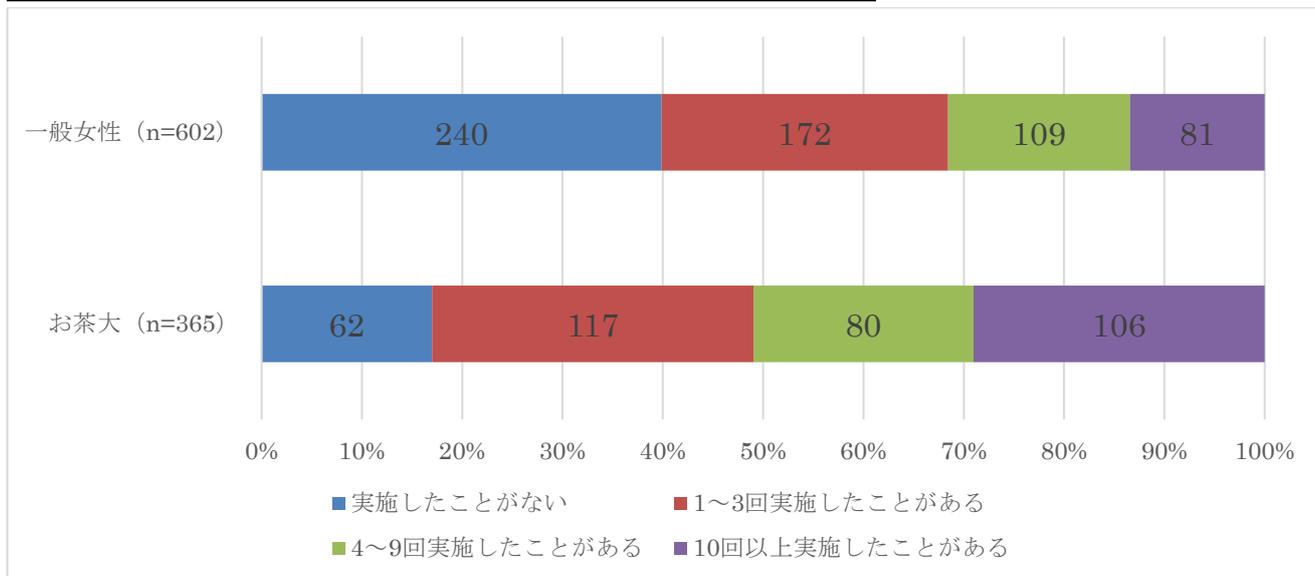
カイ二乗検定, $p < 0.001$

SDGs に関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加



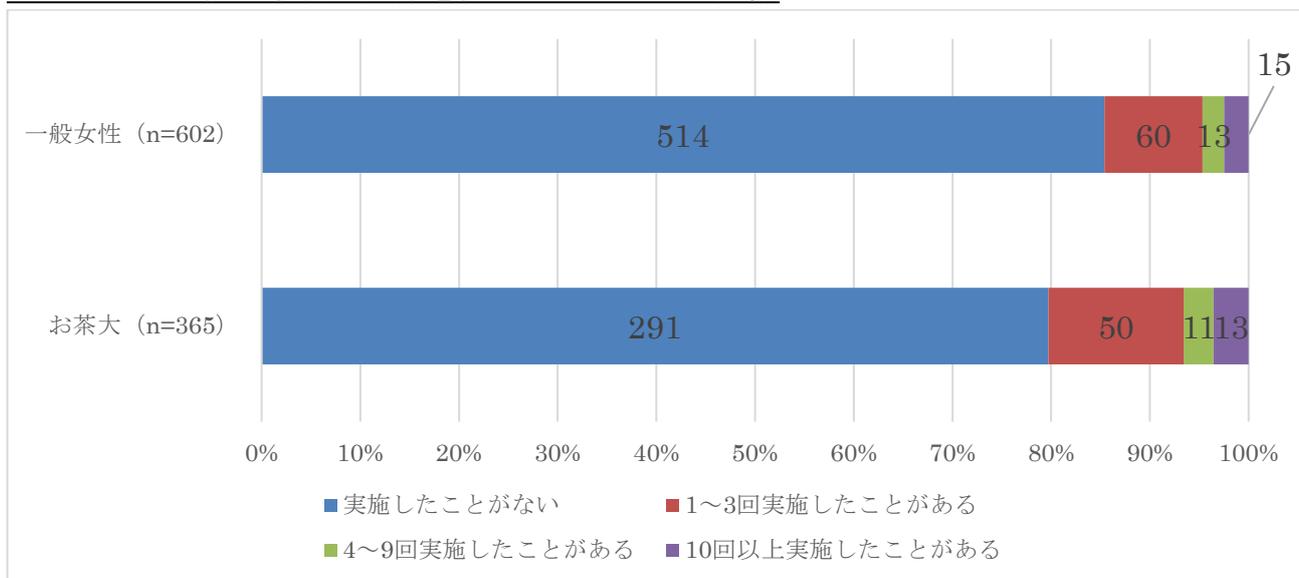
カイ二乗検定, $p < 0.001$

防災に関わる体験学習やイベントへの参加（例：避難訓練）



カイ二乗検定, $p < 0.001$

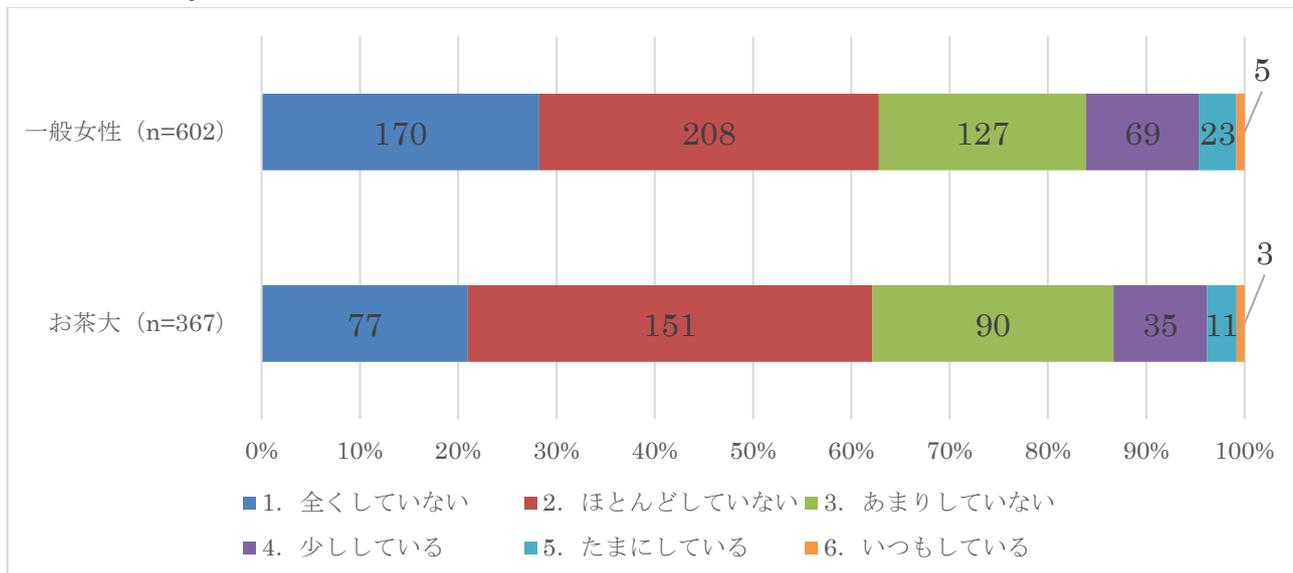
いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援



カイ二乗検定, $p = 0.156$

④ジェンダーに関する発言

あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。(例:「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等)



カイ二乗検定, $p=0.081$

(6) SDGs に関してお茶大に求めること (抜粋)

あなたが、SDGs に関してお茶大に求めることは何ですか。自由にお書きください。

●SDGs に関する知識を得る機会

- ・SDGs がテーマの授業があると話し合いの時間などを取ることができて勉強になるのではないかと思います。
- ・SDGS 関連の授業や実習を増やしていくと、より私たちみんなが意識していくのではないかと思います。特に、社会科見学のように、17 のゴールに向けて進んだ取り組みを行っている企業や自治体などに実際にお話しを伺う機会を設けたりすると関心が高まってよいのではないのでしょうか。
- ・学生や人々が SDGs の内容について学ぶ機会はそれなりに提供されていると思うので、学ぶだけではなく、実際に社会が変化するためにできるアクションについて学んだり、企業とともに取り組める講義などがあると良いと思います。
- ・幅広い年代に向けて教育を行なう機関として、年齢に合わせた適切な SDGs 教育を実施すること。
- ・正直やろうと思っても何から始めればいいのかわからないので、SDGs に関係する各所にどう言う観点で SDGs に貢献しているのか、私たちは何をすべきかを書いてほしい。

●教育・生活環境の充実

- ・図書館を 24 時間オープンにするなど、自習施設を充実させてほしい。夜も勉強しようとなると、音羽館居住者のみ音羽館の自習室が使える状況なので不平等だと感じる。また、日本国内の別の大学や留学先にある図書館や学習施設とのギャップに驚いた。
- ・ウォーターサーバーまたは浄水が出るものを設置して欲しい。ペットボトルを買わなくてよくなるので。"
- ・水筒に水を入れられる給水器の普及
- ・カウンセリングの充実。メンタルヘルスケアの調査だけでは不十分だと思う。
- ・プラスチック製の製品や歯ブラシなど、リサイクルが行われているものの、あまりされていないものがある気がするため、リサイクル用回収コーナーなどがあったらうれしいです。服や家具など、引っ越し時期に廃棄されがちなものをお茶大生間でやりとりできるウェブサイトなどがあったら、よいかもしれません。寮では行われていました。また、既に行われているかもしれませんが、学食などでの大豆ミートを使った食品、環境に配慮した食事の提供などがあったら面白いと思います。
- ・空調・照明等の設備に無駄、必要のないところに多くあって必要のあるところに十分に行き届いていない等の問題があるように思えるので、改善してほしいです。設定温度等も検討していただきたいとおもいます。
- ・古着・古本の売り場などがあれば、ありがたいです。
- ・洋服や本のフリーマーケットを開催して欲しい。
- ・食堂でテイクアウトするときに、お弁当箱の持参を推奨する。

- ・生協でのフェアトレード商品の販売、難民支援などの募金箱の設置、学食での支援食(この間販売していた汁なしうどんのように売上の一部が寄付されるメニュー)の恒常販売
- ・性別や身体障害に関わらず快適に使えるトイレの整備
- ・代替肉を利用した食事や、環境に配慮した素材の文房具などを販売する。
- ・不必要な書類をなくしてほしい。(授業関連プリント、ポスターちらしなどを全て含めて)
- ・ゴミ捨てるのルールがゴミ箱ごとに違うのが気になります。統一してください。

●イベント等の開催

- ・ジェンダーに関する意見を、幅広く全員が発言させてもらう会議などを開いてほしい!
- ・何かしたいが何をしたら良いのか分からない。その為、「これをしたら SDGs に貢献する」というイベントやものを沢山設置して欲しい。手軽に SDGs 貢献できる環境づくりをして欲しい。
- ・学部を超えたディスカッションやイベント参加の機会があること。

●学生主体の取り組み

- ・SDGs への取り組みが学生主体で積極的に進められること
- ・ごみ問題に関心があり、実際に研究しているので、学内(及び地域)でお茶大発のそうした活動をしたと考えている。
- ・学生の意志さへあれば SDGs な行動ができる環境の整備。
- ・学生を巻き込んで行う活動を企画して欲しい
- ・連携している企業も学生も一体となって SDGs に取り組める環境づくり。

●個々の目標達成に向けた取り組み

- ・お茶大はジェンダーに力を入れているイメージがあるので引き続きその分野を先導するのがよいのではないかと思う。
- ・ジェンダー平等関連に関しては日本のどの機関、団体よりも積極的に進めて欲しい。または進める機関でありたい。
- ・女子大としてジェンダー平等や男女平等に社会で活躍できる機会の獲得に力を入れてほしい。また、理学・生活科学・文教育という3要素が組み合わさった総合大学だからこそ、これらの分野が連携・融合しだれもが健康的な生活を確保できるような社会を実現していきたい。
- ・ジェンダー問題について、女性の中で幅広い意見を集めて討論すること。
- ・ジェンダー平等の実現の推進。労働環境の改善。
- ・地球環境に配慮すること、世界的な問題への募金などはもっと頻繁に行われたり、常設されたりしてもいいと思うし、それをたくさんの人に認知してもらうような行動をとる
- ・身近でできる行動や、大学全体での取り組み

身近にできる SDGs 活動や、SDGs に関するイベントなどの、情報提供をしていただきたいです。

- ・生活者視点からの行動の提案
- ・大学全体で SDGs に関する取り組みを行ってほしい。
- ・地球環境に配慮すること、世界的な問題への募金などはもっと頻繁に行われたり、常設されたりしてもいいと思うし、それをたくさんの人に認知してもらうような行動をとる
- ・日本最高峰の女子大として、教育関係の支援に力を入れてほしいです。

●SDGs 達成に向けて行動する機会

- ・お茶大生、教職員全員が SDGs 達成に向け動くこと。具体的な活動、行動を促すこと。
- ・ボランティアの機会
- ・興味関心のない人でも参加したいと思える、そのハードルが低い簡単なことからできる活動を提唱してほしいです。附属校との連携や他大との連携にも期待しています。
- ・自然に対する興味関心を惹くようなボランティア活動
- ・実際に SDGs に関連した活動を行うことができる環境づくり。
- ・学生がボランティア活動に積極的に参加できるようにしくみづくり。

●研究の推進・成果発信

- ・培養肉の研究 ジェンダー平等の研究
- ・メディアで取り上げられるような軽薄な活動ではなく、お茶大の得意な分野で専門的な知見を提供することで SDGs に貢献すること
- ・メディアを含む学外に対しても SDGs の重要性や取り組みを発信し続けること。

●SDGs 実践に対する負担感

- ・あまり無理にやらせないでください
- ・やり過ぎないようにしてほしい。
- ・押し付けがましくなく、産業の発展と両立すること。
- ・良い活動であるため、選択的にやれることはやっていきたいと思っているが、学生に対しての SDGs の活動の強要をしないでほしい。
- ・コオロギ食をしないこと
- ・グリーンウォッシュだけはやめて欲しい。

【参考資料】1) 調査質問紙（お茶大生対象）

SDGs に関する調査

●調査の目的と協力をお願い

- ・ この調査は、お茶大生の、SDGs に関する知識・態度・行動を調査することを目的としています。調査の結果は、本学の SDGs 推進活動や、SDGs 推進のための研究に役立てられます。
- ・ 下記の項目をよくお読みいただき、ご理解、ご承諾の上、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

●調査協力に関して

- ・ 本研究はみなさまの自由意思を尊重しています。研究にご理解いただいた上で、ご協力ください。
- ・ 本調査の回答の所要時間は、20 分程度です。
- ・ 調査に参加しなくても、また調査を途中でやめても、不利益を被ることは一切ありません。
- ・ 調査にご協力いただける方は、はじめの質問で「同意します」を選択してください。なお、調査終了後でも協力を辞退し、回答を取り下げることができます。回答を取り下げの場合には、2023 年 3 月末日までに、SDGs 推進研究所までご連絡ください。
- ・ この調査には、どの質問にも正解はありません。あまり考えこまず、率直なお考えやお気持ちをご記入ください。また、お答えになりたくない質問には、無理に回答する必要はありません。回答を中断することも可能です。
- ・ 本調査には、いじめや不登校に関する質問項目（1 問）が含まれます。回答されたくない方は、調査に参加されないことをお勧めいたします。
- ・ 調査にご協力いただいた方には、OCHA-SDGs オリジナルグッズを差し上げます。調査終了画面をお持ちの上、SDGs 推進研究所事務局（総合研究棟 207）までいらしてください。
- ・ 調査への回答は、お一人につき一回とさせていただきます。複数回のご回答はご遠慮ください。

●個人情報保護に関して

- ・ 本調査では、回答者の属性に関する情報収集のため、学籍番号の上 5 桁や年齢等をご回答いただきますが、回答内容から個人を特定することはありません。また、データは ID 番号で管理し、公表の際にはとりまとめて統計的に処理しますので、個人情報が外部にもれることは一切ありません。収集したデータ及び結果は責任者が厳重に管理し、研究以外の目的に使うことはありません。

オンライン調査のため、実際に表示される画面のデザインとは異なります。

★印は必須の質問項目

★前頁の注意事項を読み、この調査に参加することに同意しますか？

1 同意します	2 同意しません
---------	----------

まず、あなたご自身のことについてお伺いします。

1-1. あなたはお茶大生ですか。

1 はい	2 いいえ
------	-------

1-2. 学籍番号の上 5 桁を教えてください。※下 2 桁は入力しないでください。

--	--	--	--	--

1-3. あなたの年齢を教えてください。

	歳
--	---

1-4. 母国語を教えてください。

日本語	日本語以外
-----	-------

1-5. あなたの現在の暮らしについて教えてください。

実家暮らし	一人暮らし	寮暮らし
-------	-------	------

1-6. 現在のあなた自身の経済的な暮らし向きについて、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 1. ゆとりがある
- 2. ややゆとりがある
- 3. どちらともいえない
- 4. あまりゆとりがない
- 5. 全くゆとりがない

1-7. あなたの現在の学生生活は充実していますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

1. 全く充実していない	2. あまり充実していない	3. まあ充実している	4. とても充実している
--------------	---------------	-------------	--------------

1-8. あなたの 2022 年度後期の授業期間中の、1 週間の登校日数は何日ですか。

日

次に、SDGs に対するあなたの知識やお考えについてお伺いします。

2-1. あなたは、SDGs について知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. 名前を聞いたことがない。
- 2. 名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- 3. 名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための 17 のゴールがあることを知っている。
- 4. 上記 3 に加えて、17 のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。
- 5. 上記 3 に加えて、17 のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

2-2. あなたは、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) にどの程度関心がありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. 全く関心がない。
- 2. ほとんど関心がない。
- 3. あまり関心がない。
- 4. 少し関心がある。
- 5. まあ関心がある。
- 6. 非常に関心がある。

2-3. あなたが、SDGs に興味・関心を持ったきっかけは何ですか。(複数選択可)

- 1. 学校の授業 (高校以前)
- 2. 学校の授業 (お茶大)
- 3. 学校の授業 (他大学)
- 4. ボランティア活動の経験
- 5. 海外での経験(居住、留学、課外活動など)
- 6. アルバイトの経験
- 7. ネットやテレビ、雑誌などのメディア
- 8. SNS (知人やインフルエンサー)
- 9. 家族や友人との会話
- 10. その他 (具体的に :)

2-4. あなたは、SDGs の 17 つの目標の内容について、どの程度知っていますか。

		知らない 全く	知らない ほとんど	知らない あまり	知っている 少し	知っている だいたい	知っている 非常によく
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤を つくろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6

11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常によく知っている」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

2-5. あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。

		関心がない 全く	関心がない ほとんど	関心がない あまり	関心がある 少し	関心がある まあまあ	関心がある 非常に
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6

2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤を つくろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6

13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に興味がある」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

2-6. あなた自身の行動は、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。

		影響しない 全く	影響しない ほとんど	影響しない あまり	影響する 少し	影響する まあまあ	影響する 非常に強く
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6

4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤をつ くろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくり を		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6

15. 目標 15 陸の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に強く影響する」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

次に、SDGs に対するあなたの行動についてお伺いします。

3-1. 次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いもの一つを選択してください。

	当てはまらない 全く	当てはまらない ほとんど	当てはまらない あまり	当てはまる 少し	当てはまる まあまあ	よく当てはまる
1. 私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
2. 私は、環境に配慮した生活行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
3. 私は、環境に配慮した食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
4. 私は、健康的な食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6

3-2. あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月一回未満	月 1~3 回	週 1~3 回	週 4~6 回	毎日 1 回	毎日 2 回以上
1. 買い物の際にレジ袋を購入する。	1	2	3	4	5	6
2. ペットボトルを購入する。	1	2	3	4	5	6
3. この質問では、「毎日 2 回以上」をクリックしてください。	1	2	3	4	5	6

4. エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する。 (FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。)	1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---	---

	行っていない 全く	行っていない ほとんど	行っていない あまり	行っている 少し	行っている まあまあ	行っている いつも
1. 地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する。	1	2	3	4	5	6
2. 移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う。(自家用車やタクシーを使わない)	1	2	3	4	5	6
3. 古着や古本などの中古品を購入する。	1	2	3	4	5	6

3-3. あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？

度

3-4. あなたはふだん、次のような食に関する行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月一回未満	月1~3回	週1~3回	週4~6回	毎日一回	毎日2回以上
1. 地産地消に配慮した食品を購入・注文する。(例：国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等)。	1	2	3	4	5	6
2. フェアトレード食品を購入する。	1	2	3	4	5	6
3. 動物福祉に配慮した食品を購入する。 {例：放牧肉や平飼い卵（放し飼い）}	1	2	3	4	5	6
4. 食品購入時に「てまえどり」をする。 (賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること)	1	2	3	4	5	6
5. 主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる。	1	2	3	4	5	6
6. 外食する。	1	2	3	4	5	6
7. 中食する。 (中食：家庭外で調理された弁当や惣菜などを自宅や職場・大学で食べること)	1	2	3	4	5	6

8. 家庭で調理されたものを食べる。 (家庭で調理されたもの:包丁を使って調理するものとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調理されたものも含まれます。)	1	2	3	4	5	6
9. 野菜を食べる。	1	2	3	4	5	6
10. 牛肉を食べる。	1	2	3	4	5	6
11. 代替肉を食べる。(例:大豆ミート、昆虫等)	1	2	3	4	5	6
12. 本来食べられる食品を廃棄する。 (例:腐敗させてしまい捨てる、手を付けないまま捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す)	1	2	3	4	5	6

3-5. あなたはふだん、朝食を食べますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. ほとんど食べない
- 2. 週に4~5日食べない
- 3. 週に2~3日食べない
- 4. ほとんど毎日食べる

3-6. あなたが、これまでに次のような行動を起こした経験について、最もあてはまるもの一つを、それぞれ選択してください。

	実施したことがない	1~3回実施したことがある	4~9回実施したことがある	10回以上実施したことがある
1. 授業外で行う、環境保全に関するボランティア活動。 (例:ゴミ拾い活動)	1	2	3	4
2. 学校の授業外で行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信。	1	2	3	4
3. 国内の学習支援のボランティア活動。	1	2	3	4
4. 海外の教育支援のボランティア活動。	1	2	3	4
5. 食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加。	1	2	3	4
6. 募金活動への協力。 (例:教育、紛争、災害、福祉など)	1	2	3	4
7. 使わなくなった学校用具の寄付。(国内/海外問わず) (例:ランドセル等)	1	2	3	4
8. 日本や世界の教育問題について他者との意見交換。	1	2	3	4
9. 教育に関する話題について、主体的な情報収集(新聞やニュースから)。	1	2	3	4
10. SDGsに関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加。	1	2	3	4

11. この質問では、「何度も行ったことがある」を選択してください。	1	2	3	4
12. 防災に関わる体験学習やイベントへの参加。 (例：避難訓練)	1	2	3	4
13. いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援。	1	2	3	4

3-7. あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

(例：「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等)

- 1. 全くしていない
- 2. ほとんどしていない
- 3. あまりしていない
- 4. 少ししている
- 5. たまにしている
- 4. いつもしている

3-8. あなたは、いじめや不登校を経験したことがありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. 自分自身もいじめや不登校を経験したことがなく、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見ていることもない。
- 2. 自分自身はいじめや不登校を経験したことがないが、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見ていることはある。
- 3. 自分自身はいじめや不登校を経験したことがあるが、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見たことはない。
- 4. 自分自身もいじめや不登校を経験したことがあり、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見ていることもある。
- 5. わからない、覚えていない。

4. あなたが、SDGs に関してお茶大に求めることは何ですか。自由にお書きください。

5. インターネットを用いた調査においては、うそをついたり、質問を読まないで、いい加減な回答をしたりすることが問題となっています。つきましては大変失礼なお願いですが、あなたがこの文章をきちんと読んでいるかどうかを確認させてください。あなたがこの文章をお読みになったら、以下の質問には回答せずに（つまり、どの選択肢もクリックせずに）、次のページに進んでください。

- 1. そう思う

- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそう思わない
- 5. そう思わない

これで調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

調査にご協力いただいた方に、謝品（OCHA-SDGs 学生委員会オリジナルグッズ）をお渡ししております。

この画面をご用意の上、SDGs 推進研究所（総合研究棟 207）までお受け取りにいらして下さい。

【参考資料】2) 調査質問紙（一般女性対象）

＜リクルート画面＞スクリーニング項目

F1. あなたの性別をお知らせください。

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

F2. あなたの年齢をお知らせください。

		歳
--	--	---

F3. あなたが現在お住まいになっている地域についてお知らせください。

1.北海道	2.青森県	3.岩手県	4.宮城県	5.秋田県	6.山形県
7.福島県	8.茨城県	9.栃木県	10.群馬県	11.埼玉県	12.千葉県
13.東京都	14.神奈川県	15.新潟県	16.富山県	17.石川県	18.福井県
19.山梨県	20.長野県	21.岐阜県	22.静岡県	23.愛知県	24.三重県
25.滋賀県	26.京都府	27.大阪府	28.兵庫県	29.奈良県	30.和歌山県
31.鳥取県	32.島根県	33.岡山県	34.広島県	35.山口県	36.徳島県
37.香川県	38.愛媛県	39.高知県	40.福岡県	41.佐賀県	42.長崎県
43.熊本県	44.大分県	45.宮崎県	46.鹿児島県	47.沖縄県	

F4. あなたの婚姻状況をお知らせください。

1. 未婚・子どもなし
2. 未婚・子どもあり
3. 既婚・子どもなし
4. 既婚・子どもあり
5. 離・死別・子どもなし
6. 離・死別・子どもあり

F5. あなたの職業をお知らせください。

1. 会社・団体の経営者・役員
2. 会社員（契約社員／派遣社員含む）
3. 公務員
4. 自営業・自由業
5. 専業主婦・主夫
6. パート・アルバイト
7. 学生
8. 無職／リタイア
9. その他

SDGs に関する調査

●調査の目的と協力をお願い

- ・ この調査は、みなさまの、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）に関する知識・態度・行動を調査することを目的としています。調査の結果は、SDGs 推進のための研究に役立てられます。
- ・ 下記の項目をよくお読みいただき、ご理解、ご承諾の上、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

●調査協力に関して

- ・ 本研究はみなさまの自由意思を尊重しています。研究にご理解いただいた上で、ご協力ください。
- ・ 本調査の回答の所要時間は、20 分程度です。
- ・ 調査に参加しなくても、また調査を途中でやめても、不利益を被ることは一切ありません。ただし、調査を途中でやめた場合、ポイントは付与されません。
- ・ 調査にご協力いただける方は、はじめの質問で「同意します」を選択してください。調査終了後でも協力を辞退し、回答を取り下げることができます。回答を取り下げる際には、2023 年 3 月末日までに、D-Style web までご連絡ください。
- ・ この調査には、どの質問にも正解はありません。あまり考えこまず、率直なお考えやお気持ちをご記入ください。また、お答えになりたくない質問には、無理に回答する必要はありません。回答を中断することも可能です。
- ・ 調査に関するお問い合わせは、調査終了後に表示されるお問い合わせ先までご連絡ください。

●個人情報保護に関して

- ・ データは ID 番号で管理し、公表の際にはとりまとめて統計的に処理しますので、個人情報が外部にもれることは一切ありません。結果は責任者が厳重に管理し研究以外の目的に使うことはありません。

オンライン調査のため、実際に表示される画面のデザインとは異なる。

★印は必須の質問項目

★前頁の注意事項を読み、この調査に参加することに同意しますか？

1 同意します

2 同意しません

次に、SDGs に対するあなたの知識やお考えについてお伺いします。

1-1. あなたは、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) にどの程度関心がありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. 全く関心がない。
- 2. ほとんど関心がない。
- 3. あまり関心がない。
- 4. 少し関心がある。
- 5. まあ関心がある。
- 6. 非常に関心がある。

1-2. あなたが、SDGs に興味・関心を持ったきっかけは何ですか。(複数選択可)

- 1. 学校の授業 (高校以前)
- 2. 学校の授業 (大学・短大・専門学校等)
- 3. ボランティア活動の経験
- 4. 海外での経験(居住、留学、課外活動など)
- 5. アルバイトの経験
- 6. 就労時の経験
- 7. ネットやテレビ、雑誌などのメディア
- 8. SNS (知人やインフルエンサー)
- 9. 家族や友人との会話
- 10. その他 (具体的に :)

1-3. あなたは、SDGs の 17 つの目標の内容について、どの程度知っていますか。

		知らない 全く	知らない ほとんど	知らない あまり	知っている 少し	知っている だいたい	知っている 非常によく
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤を つくろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6

11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常によく知っている」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

2-5. あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。

		関心がない 全く	関心がない ほとんど	関心がない あまり	関心がある 少し	関心がある まあまあ	関心がある 非常に
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6

2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤を つくろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6

13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に興味がある」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

2-6. あなた自身の行動は、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。

		影響しない 全く	影響しない ほとんど	影響しない あまり	影響する 少し	影響する まあまあ	影響する 非常に強く
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6

4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤をつ くろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくり を		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6

15. 目標 15 陸の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「全く影響しない」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

次に、SDGs に対するあなたの行動についてお伺いします。

3-1. 次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いもの一つを選択してください。

	当てはまらない 全く	当てはまらない ほとんど	当てはまらない あまり	当てはまる 少し	当てはまる まあまあ	よく当てはまる
1. 私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
2. 私は、環境に配慮した生活行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
3. 私は、環境に配慮した食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
4. 私は、健康的な食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6

3-2. あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月一回未満	月1~3回	週1~3回	週4~6回	毎日1回	毎日2回以上
1. 買い物の際にレジ袋を購入する。	1	2	3	4	5	6
2. ペットボトルを購入する。	1	2	3	4	5	6
3. この質問では、「毎日2回以上」をクリックして	1	2	3	4	5	6

ください。						
4. エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する。 (FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。)	1	2	3	4	5	6

	行って いない 全く	行って いない ほとんど	行って いない あまり	行って いる 少し	行って いる まあまあ	行って いる いつも
1. 地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する。	1	2	3	4	5	6
2. 移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う。(自家用車やタクシーを使わない)	1	2	3	4	5	6
3. 古着や古本などの中古品を購入する。	1	2	3	4	5	6

3-3. あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？

度

○自室に冷房はない

3-4. あなたはふだん、次のような食に関する行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月一回未満	月1~3回	週1~3回	週4~6回	毎日一回	毎日2回以上
1. 地産地消に配慮した食品を購入・注文する。(例：国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等)。	1	2	3	4	5	6
2. フェアトレード食品を購入する。	1	2	3	4	5	6
3. 動物福祉に配慮した食品を購入する。 {例：放牧肉や平飼い卵（放し飼い）}	1	2	3	4	5	6
4. 食品購入時に「てまえどり」をする。 (賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること)	1	2	3	4	5	6
5. 主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる。	1	2	3	4	5	6
6. 家庭で調理されたものを食べる。 (家庭で調理されたもの：包丁を使って調理するも	1	2	3	4	5	6

のとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調理されたものも含まれます。)						
7. 野菜を食べる。	1	2	3	4	5	6
8. 牛肉を食べる。	1	2	3	4	5	6
9. 代替肉を食べる。(例：大豆ミート、昆虫等)	1	2	3	4	5	6
10. 本来食べられる食品を廃棄する。 (例：腐敗させてしまい捨てる、手を付けないまま捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す)	1	2	3	4	5	6

3-5. あなたはふだん、朝食を食べますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. ほとんど毎日食べる
- 2. 週に2~3日食べない
- 3. 週に4~5日食べない
- 4. ほとんど食べない

3-6. あなたが、これまでに次のような行動を起こした経験について、最もあてはまるもの一つを、それぞれ選択してください。

	実施したことがない	1~3回実施したことがある	4~9回実施したことがある	10回以上実施したことがある
2. 学校の授業や仕事以外で、あなたが自主的に行う、環境保全に関するボランティア活動。(例：ゴミ拾い活動)	1	2	3	4
2. 学校の授業や仕事以外で、あなたが自主的に行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信。	1	2	3	4
3. 国内の学習支援のボランティア活動。	1	2	3	4
4. 海外の教育支援のボランティア活動。	1	2	3	4
5. 食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加。	1	2	3	4
6. 募金活動への協力。 (例：教育、紛争、災害、福祉など)	1	2	3	4
7. 使わなくなった学校用具の寄付。(国内/海外問わず) (例：ランドセル等)	1	2	3	4
8. 日本や世界の教育問題について、他者との意見交換。	1	2	3	4
9. 教育に関する話題について、主体的な情報収集(新聞やニュースから)。	1	2	3	4
10. SDGsに関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加。	1	2	3	4
11. この質問では、「何度も行ったことがある」を選択し	1	2	3	4

てください。				
12. 防災に関わる体験学習やイベントへの参加。 (例：避難訓練)	1	2	3	4
13. いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援。	1	2	3	4

3-7. あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

(例：「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等)

- 1. 全くしていない
- 2. ほとんどしていない
- 3. あまりしていない
- 4. 少ししている
- 5. たまにしている
- 4. いつもしている

4. あなたご自身が、SDGs の達成のためにできることは何だと思えますか。自由にお書きください。

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) とは : とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) 別ウィンドウで開くの後継として、2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。(出典：外務省：SDGs とは？, <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>)

5. インターネットを用いた調査においては、うそをついたり、質問を読まないで、いい加減な回答をしたりする方がいることが問題となっています。つきましては大変失礼なお願いですが、あなたがこの文章をきちんと読んでいるかどうかを確認させてください。あなたがこの文章をお読みになったら、以下の質問には回答せずに (つまり、どの選択肢もクリックせずに)、次のページに進んでください。

- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそう思わない
- 5. そう思わない

これで調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所

2023 年度 SDGs 認知度調査（教職員対象）報告書

2024.4.22

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
TEL & FAX : 03-5978-2568

【目次】

1 調査の概要	P.3
2 調査結果	
(1) 対象者の特徴	P.5
(2) SDGs 認知度	P.6
(3) SDGs 推進活動に対する参画意識	P.7
(4) SDGs 推進研究所の活動に対する認知度	P.17
(5) 本学 SDGs 推進活動に対するご意見	P.18
3 参考資料	
調査質問紙	P.20

1. 調査の概要

1) 目的

本学で SDGs をより強力に推進するための基礎資料とするため、教職員の SDGs 認知度及び参画意識を調査すること。

2) 方法

【調査実施時期】

2024 年 1 月 10 日～2 月 1 日

【対象者と手続き】

対象者：本学教職員（非常勤職員を含む）

手続き：教職員向けメーリングリスト (kyoin-all 及び shokuin-all) を用いて対象者をリクルートする。

メールに記載された URL から対象者を調査票に誘導し、Forms を用いたオンライン自記式質問紙調査を実施した。10 分程度の回答時間を想定し、質問票を作成した。

【調査項目】

質問項目リスト参照。

質問項目リスト（調査 1・2）

No	テーマ	教示（一部省略）	選択肢	質問数
1	SDGs 認知度	あなたは、SDGs について知っていますか。	1：SDGs について聞いたことがない～5：17 のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている	1
2	SDGs への関心	あなたは、SDGs についてどの程度関心がありますか。	1：全く関心がない～6：非常に関心がある	1
3	参画意識に関する 質問－研究	あなたは現在、ご自身の研究活動を通じて SDGs 達成に参画していますか。	1：全く参画していない～5：積極的に参画している、6：自分の業務に研究は含まれていない→6 を選択した方は質問 6 へ。	1
4		研究を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。	自由記述式。質問 3 で選択肢 4 又は 5 を選択した場合に表示	1
5		今後、ご自身の研究を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。	自由記述式。質問 3 で選択肢 1～5 のいずれかを選択した場合に表示	1
6	参画意識に関する 質問－教育	あなたは現在、本学学生への教育を通じて SDGs 達成に参画していますか。	1：全く参画していない～5：積極的に参画している、6：自分の業務に研究は含まれていない→6 を選択した方は質問 9 へ。	1
7		本学学生への教育を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。	自由記述式。質問 6 で選択肢 4 又は 5 を選択した場合に表示	1
8		今後、本学学生への教育を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。	自由記述式。質問 6 で選択肢 1～5 のいずれかを選択した場合に表示	1
9	参画意識に関する 質問－研究・教育 以外	あなたは現在、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs 達成に参画していますか。	1：全く参画していない～5：積極的に参画している	1
10		ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。	自由記述式。質問 9 で選択肢 4 又は 5 を選択した場合に表示	1
11		今後、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。	自由記述式	1
12	本研究所の活動	あなたは、以下の SDGs 推進研究所の方針や活動に関するキーワードについて知っていますか。	1：聞いたことがない～4：聞いたことがあり、内容について詳しく知っている	10
13	本学の SDGs 活動に関する自由意見	本学の SDGs 推進活動に対するご意見をお聞かせください。	自由記述式	1
14	属性	性別/年齢/主なご所属先を教えてください。		3
			合計	25

2. 調査結果

（1）対象者の特徴

性別（人）

男性	60
女性	84
回答なし	9

所属先（人）

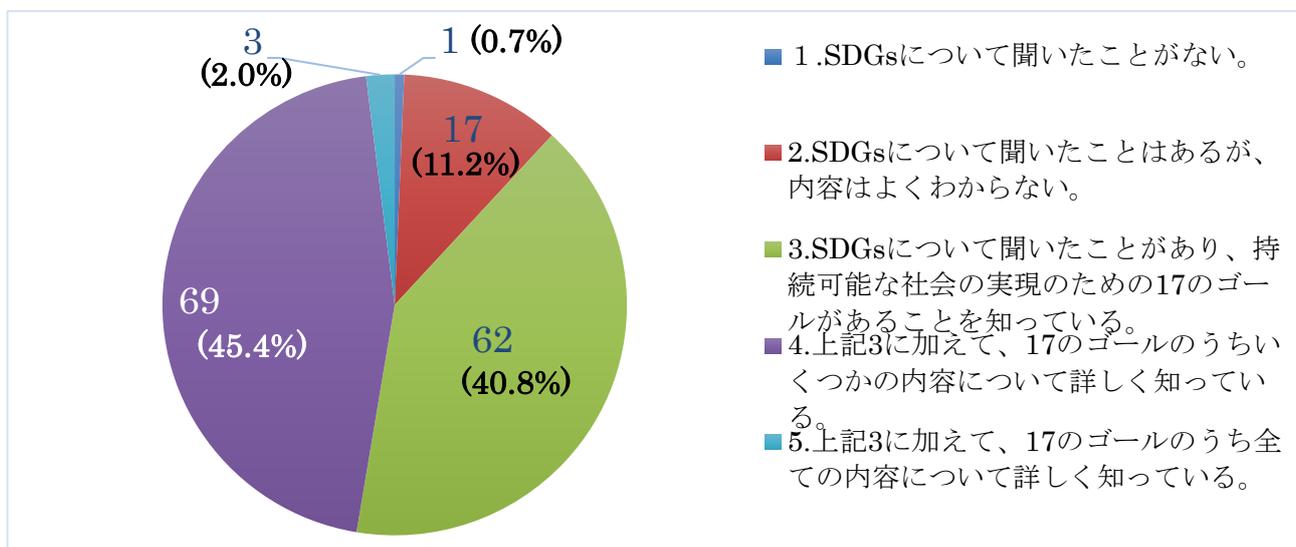
事務系職	45
センター・研究所	33
文教育学部	29
理学部	20
生活科学部	20
基幹研究院	1
その他・回答なし	5

年齢（人）

18-29 歳	9
30-39 歳	38
40-49 歳	38
50-59 歳	41
60 歳以上	20
回答なし	7

（2）SDGs 認知度

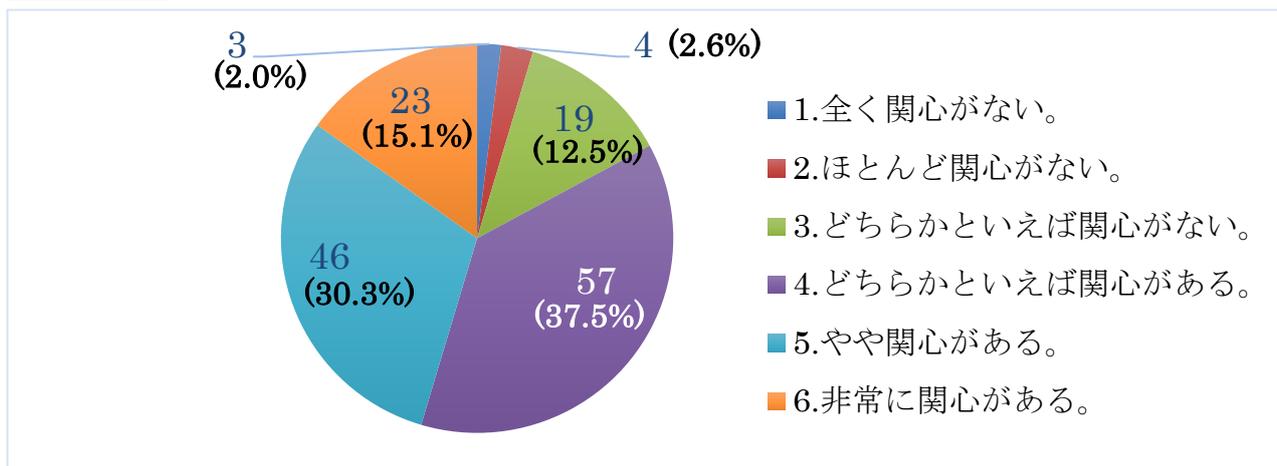
「あなたは、SDGs について知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。」



SDGs 認知度（上記項目で3～5 と回答した者の割合）は、
88.2%であった

（3）SDGs に対する関心

あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）にどの程度関心がありますか。



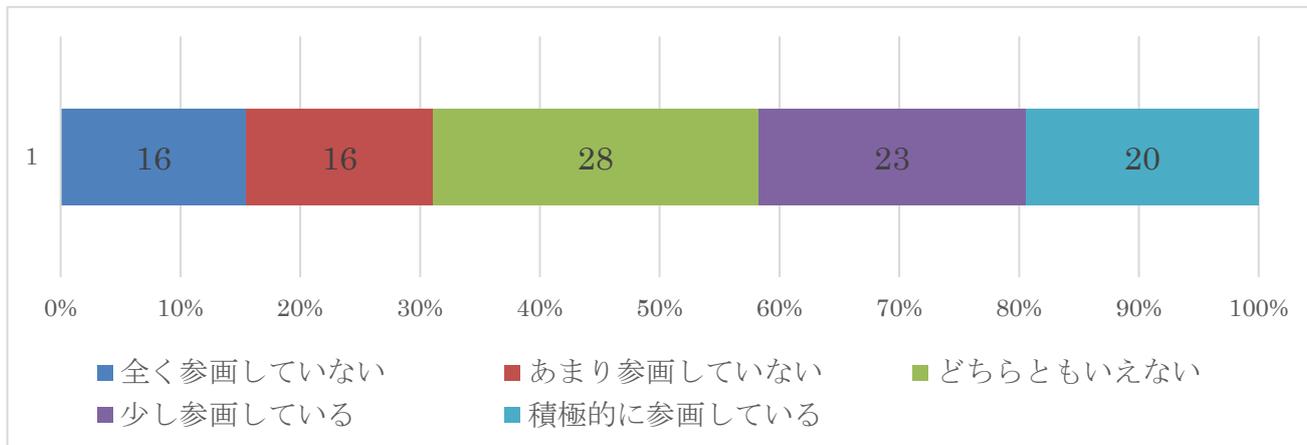
SDG 関心度（上記項目で4～6 と回答した者の割合）は、
82.9%であった

（3）SDGs 推進活動に対する参画意識

①研究

現在、ご自身の研究活動を通じて、SDGs 達成に参画していますか。

（n=103；業務に研究が含まれていると回答した者のみ）



研究を通じた SDGs 参画の具体例をお聞かせください。（自由記述；抜粋）

○特定の目標や分野についての研究を行っている

- ・ SDGs のターゲットに関わる研究を実施している。
- ・ ジェンダー平等達成に関わる研究を行っている。
- ・ ジェンダー平等やダイバーシティに関連する研究をしている。
- ・ 健康の維持向上に関する研究
- ・ 医療系の研究をしているため、”3 すべてのひとに、健康と福祉を”に該当する。

○具体的な参画例

（個人を特定する可能性があるため非公開とする。）

○その他

- ・ SDGs に関する論文を發表したことがある。
- ・（固有名詞）ウェブサイトの翻訳を通じて SDGs にもつながる内容を発信している

今後、ご自身の研究を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。（自由記述・抜粋）

○SDGs に参画する上で前提となることからの難しさ

- ・そもそも現状の SDGs は偏った項目ばかりが強く宣頭され、それにより多くの人間が「自分事」として考えられていないのではないかと思います。また、その特定の項目以外を SDGs の取り組みとして挙げると「それは本当の SDGs ではない」といった扱いをされることさえあります。
- ・障壁になるものはスタートの位置に立つことです。
- ・具体的に何をしたらよいか分からない。
- ・立場が不安定（有期雇用）なため、研究の持続可能性の土台が危うい。
- ・有期雇用で安定したポストがないこと。

○自身の研究内容との関連付けの難しさ

- ・ SDGs と研究の目的が重ならない限り、研究を通じて SDGs に参画することはない。
- ・専門分野では SDGs に寄与する可能性がほぼない。
- ・文系ですので、貢献できるところが少ないと思います。
- ・分野にもよるが、専門の種類によって、積極的に参画できるかどうか分かれるように思われる。
- ・基礎学問からのつながりを見つけるのが難しい。
- ・研究テーマが思い浮かばないこと。
- ・研究分野のそもそもの性格。
- ・研究成果の発信・活用のあり方。
- ・他分野とのコネクション。

○時間や資金・人的資源の確保の難しさ

- ・時間の確保。
- ・時間（研究の時間が取れない）。
- ・十分な研究資金が不足。
- ・分析に有効なデータの収集をバックアップする資金。
- ・文系なので研究費の獲得機会がなかなかない。
- ・マンパワーの不足。
- ・研究環境。
- ・大学業務の多さ。

○具体的な困難要因

- ・フードネオフォビア（新規食品に対する抵抗感）。
- ・生物多様性に興味薄い人たちへの教育・研究紹介。
- ・企業のイメージ戦略にしか利用されていないところ。

○SDGs の内容理解そのものへの難しさ

- ・そもそも中国政府やロシア政府も喜んで進めているようなキャンペーンに賛同すべきか。SDGs には学問的に批判的な態度が必要である。
- ・SDGs の内容があまりにも茫漠としている。
- ・SDGs に関する知識の不足。
- ・参画方法が分からない。
- ・SDGs に参画するインセンティブがない。

○障壁なし

- ・現時点では特に障壁とまで感じている事象はございません。
- ・参画すること自体に障壁はないと考える。

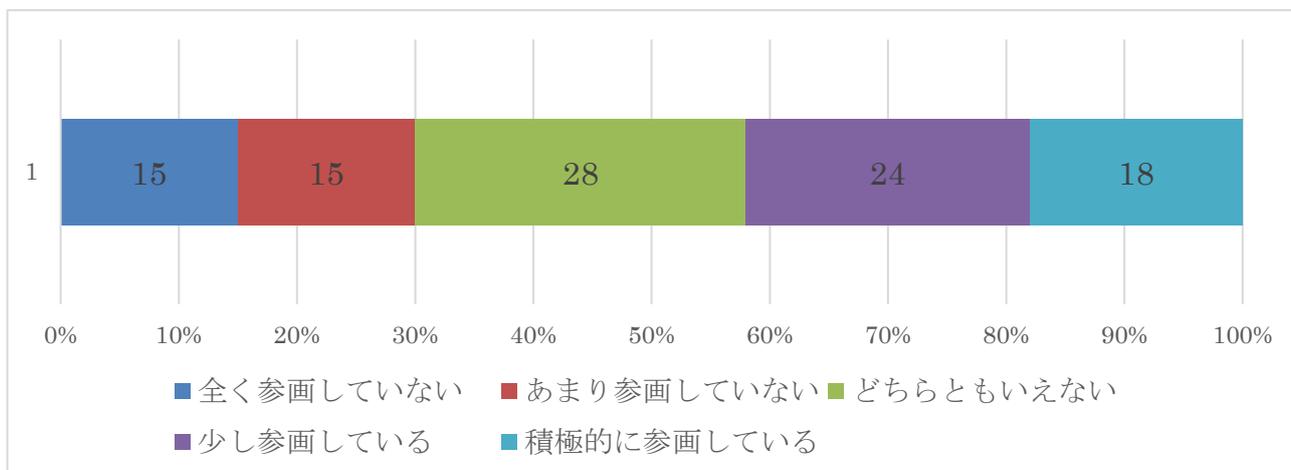
○その他

- ・実社会への実装を進めるマッチングと資本支援。
- ・特に興味がない。
- ・現実的ではない。
- ・無意識による差別。

②教育

あなたは現在、本学学生への教育を通じて、SDGs に参画していますか。

(n=100; 業務に教育が含まれていると回答した者のみ)



教育を通じた SDGs 参画の具体例をお聞かせください。(自由記述；抜粋)

○授業等による参画促進

- ・授業内容で SDGs に関連するトピック（ジェンダーや環境に取り上げている。）
- ・「質の高い教育を」としてデザイン思考やロジックモデルの使い方について教えている。
- ・授業での具体的な内容の紹介、開発途上国の SDGs に貢献するアクションの説明による理解促進
- ・ジェンダー平等に関する教育に携わっている。
- ・授業で扱う内容と SDGs を結びつける。
- ・衣料の生産・消費に関する環境・労働面への影響について講義で取り扱っている。
- ・防災・減災に関する集中講義を担当しています。
- ・リベラルアーツ演習の対話的論証のテーマで SDGs について取り上げた。
- ・ジェンダー平等、ダイバーシティなどに関連した授業を行っており、学生がそうしたテーマに取り組むことを課題とすることもある。
- ・担当する授業の中で SDGs の内容を紹介し、生物多様性・生態学の位置づけや世界的な動きについて説明している。
- ・英語の授業で SDGs について取り扱っている。いくつかのゴールに関するトピックについて掘り下げたり、学生にグループプレゼンをしてもらったり、ディスカッションしてもらったりしている。
- ・これまでの続きとして、ジェンダー、ジェンダー平等、貧困、グローバルゼーションなどのテーマについて講義を行なうだけではなく、学生同士のディスカッションを行うことについて、学生自身の関心を高めるようにしたい。
- ・授業に SDGs の一部の目標を説明している。
- ・都市の持続可能性を左右する少子高齢化対応の研究に関する授業。
- ・ジェンダーの問題について授業で取り上げている。
- ・LA 科目、学部専門科目、大学院専門科目において SDGs に関する内容を扱っている。
- ・生活空間における環境・防災に関する講義。

・キャリア教育の授業を通じて、労働市場における働き甲斐やジェンダー平等について考える機会を提供している。

- ・授業で取り上げている。
- ・ジェンダー学的要素を取り入れたコミュニケーション学習。
- ・SDGs をテーマにした講義を行っている。
- ・健康やジェンダーに関する講義。
- ・授業にて SDGs を取り上げる

○研究指導等による参画促進

- ・9. 産業と技術革新の基礎を作ろう に関連し、基礎を作れる人材の育成をしている。
- ・研究室のゼミや研究課題に取り上げている。
- ・ジェンダー平等に関する教育に携わっている。
- ・管理栄養士養成自体が人々の健康維持増進に関わるため。
- ・「保健」と「教育」の目標達成に関連する、学部生に対する心理学的な実証研究の方法論の教育および大学院生の研究指導。
- ・学生たちに SDGs のターゲットを示し、関心あるターゲットについて調査を実施した。
- ・フィールド実験を通じてフィードバックを行っている。
- ・自然環境とその変化をフィールド活動を通じて体感。
- ・卒業研究，修士論文研究にて上記4. の研究に参加している。
- ・大学院生が SDGs に関わる論文を書き指導した。

今後、ご自身の教育を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。

(自由記述・抜粋)

○参画するための資源の不足

- ・教材。
- ・資格養成教育（基礎分野）と SDGs 内容の乖離。
- ・ガイドラインの不整備。

○社会実装の機会や資金の不足

- ・実践できる場所（現在は生協店舗に頼んでいるが、大学外でも実店舗などで実施できると良い）。成果物の展示場所。成果物を作成する上での予算。
- ・授業を通して、学生が社会や企業に繋がる機会が少ない。
- ・学生を学外に連れて行く（見学、合宿など）費用がないこと。

○SDGs 参画に対する適切な社会の評価の不足

- ・学生が SDGs を学んだり、自身の研究で実際に貢献したりしたことが、社会で適切に評価される流れやシステムが必要ではと思っていました。
- ・教育を通じて SDGs 参画することへのインセンティブ。
- ・SDGs 参画の度合いの評価を自らの価値観で行うか一般的な尺度で行うかで異なってくる。

○教員自身の SDGs への理解への不安など

- ・領域が広すぎて、自分自身の知識やキャパシティではカバーできない内容も多い。
- ・SDGs の内容があまりにも茫漠としていて、具体的に何をしたら参画していることになるのか、ならないのか、という評価を恣意的に設定できてしまう。
- ・自身の SDGs に対する理解度、講義や演習への取り入れ方の工夫（等を考える力量や余裕の不足）。
- ・よく知らないということ。
- ・SDGs に関する知識の不足。労働力（協力者）の欠如。
- ・どのように教育を通じて参画可能かが分からない（ノウハウの不足）。

○専門分野と SDGs との関連性の弱さ

- ・専門領域そのものが SDGs で掲げられている具体的な項目と離れている点。
- ・分野にもよるが、専門の種類によって、積極的に参画できるかどうかに分かれるように思われる。
- ・専門分野の性格。

○学生自身の参画意欲の乏しさ

- ・学生各自の熱量の違い。
- ・学生から「子どもの頃から SDGs についてよく聞くので SDGs 疲れをしている」と聞いたこと。

○学生に SDGs へ参画させることへの反対意見

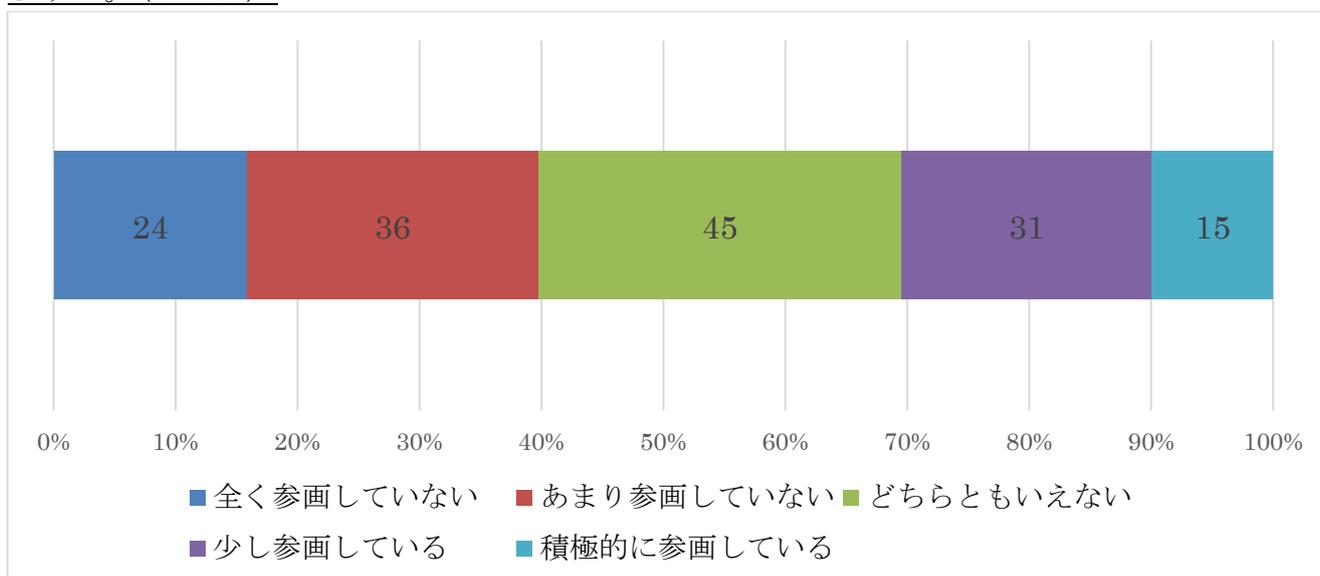
- ・学生にむだなことをさせるのはやめたほうがいい。

○その他

- ・人々（特に年配者）による無意識的差別。
- ・そもそも現状の SDGs は偏った項目ばかりが強く宣頭され、それにより多くの人間が「自分事」として考えられていないのではないかと思います。また、その特定の項目以外を SDGs の取り組みとして挙げると「それは本当の SDGs ではない」といった扱いをされることさえあります。
- ・特に興味がない。

③研究・教育以外の業務

あなたは現在、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs 達成に参画していますか。(n=152)



ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じた SDGs への参画の具体例をお聞かせください。(自由記述・抜粋)

○業務環境整備を通じた SDGs 参画

- ・会議でのペーパーレス。
- ・諸手続きにおいて、提出書類のデータ化に大学が動いていることを実感しており、協力するようにしている。
- ・決裁業務の電子化による紙の削減。
- ・環境に配慮した物品の調達。
- ・省エネの推進等。
- ・リサイクルできる使用済み物品の分別作業。
- ・プラスチック製品のリサイクルなど。
- ・リサイクル出来るものの仕分けをしっかりとる。 再利用できるものは使用していく。
- ・日常業務の中でも、節電やゴミのリサイクルなど、地球環境に関する目標 13、14、15 を意識している。
- ・ごみの分別、ごみの削減、空調管理によるエアコン使用の削減、休憩時間の消灯、裏紙の再利用。

○業務内容が直接的に SDGs 参画と結びついている例

- ・業務内容に SDGs 推進活動が含まれており、SDGs の取り組みの実施やイベント開催等をおこなっている。
- ・SDGs 関連イベントの推進。
- ・学生サークルや附属中高、学内イベントなどに協力し、植物観察などを通して生物多様性に関する知識の普及を行っている。

- ・ 学生活動の支援を通して、SDGs 達成に向けた活動に貢献している。
- ・ SDGs 研究所の取り組みに協力している。
- ・ 育児のための休暇の新設、非常勤職員の産休の有給化、次世代育成対策及び女性活躍推進対策行動計画の策定、健康診断・ストレスチェック・インフルエンザワクチン接種等の実施による保健・衛生への貢献、ハラスメント対策による不平等の是正等。
- ・ 自らの働き方にて体现、ロールモデル。
- ・ 男女共同参画に関する業務。
- ・ 本学の中期計画に SDGs が目標となっていることから評価関係で参画している。
- ・ 企業とのコンソーシアム活動など。
- ・ 所属部局では、ジェンダー平等や DE&I 推進に関連する事業を行っており、SDGs 目標の 3、4、5、8、9、11、16、17 達成に貢献するといえる。

○研究・教育業務およびそれらのサポート業務を通じた SDGs 参画。

- ・ センター員として活動を支援。
- ・ 体育や芸術の普及や理解を深めるための学会や連盟の役員として専門的知識を提供し教育の質の向上に貢献していること。
- ・ 国や自治体の関連委員会委員として SDGs ゴール達成のための政策推進への助言・提言を行う。
- ・ ジェンダー学的要素を取り入れたコミュニケーション学習。
- ・ 節電など、サステイナブルな研究のあり方を指導している。
- ・ 子供や高齢者の健康研究とその社会実装、身体に見られるジェンダー感に関する研究。
- ・ 研究所の研究員をして、イベントなどには参加している。
- ・ 都市の持続可能性を左右する少子高齢化対応の研究に関する授業。

○学内での参画例はない

- ・ 研究・教育以外ではない。
- ・ 具体例ではないが、環境問題やフードロスについて関心がある。
- ・ 学外での講演など。
- ・ 外部でジェンダー問題について講演やシンポジウム登壇を行なっている。

○生活面での参画

- ・ 自宅で SDGs 達成につながるような環境に負荷のかからない生活を心がけている。
- ・ 環境 NPO への参加、寄付、家庭菜園の実践。
- ・ ジェンダー論研究者として自分のジェンダーへの関心はもとより、日常生活の消費において持続可能な選択肢を意識的に選択しています。

今後、ご自身の学内業務/研究・教育以外の活動を通じて SDGs に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。（自由記述・抜粋）

○学内業務や研究内容との関連性の薄さ

- ・学内業務内容だけでは SDGs 達成の関連性が薄い。 ・業務上関わりがほぼ無い。
- ・本務内容に含まれるのか、external な任務なのか、難しい。ボランティア活動と似ている。
- ・直接は関連しない業務内容のため、業務上参画していると捉えにくい。
- ・今の業務内容で出来ることがあると思っていない。
- ・専門分野の性格。
- ・現在の SDGs 研究所の生活科学を起点とした視点は重要だと思いますが、その時に扱う「環境問題」に生物多様性までを積極的に含めてくださると参画しやすくなると思いましたが（今はなんとなく、化学的な内容が中心な印象を持っています）。

○時間・資金・人的資源等の不足

- ・時間・人的資源・予算の不足。
- ・研究・教育以外の活動に充てる時間がないこと。
- ・大学業務の多さに起因する活動時間の制約。
- ・時間的余裕（多数同様のコメント 7 件）。
- ・それにかかる時間が取れない、研究費がない。
- ・予算の使い方に制限があったり、難しい。何かを買うにしても、取引は書類作成に対応できる企業のみで、選択肢が狭まる。
- ・資金やマンパワーの不足。
- ・十分な研究資金が不足
- ・学内での他の業務が多すぎて、なかなか研究所の活動に積極的に参加する機会がない。
- ・既存業務の負担度。

○方針や目標の不明示のため

- ・SDGs 推進の方針について、全学的な方針が示されていないこと。
- ・SDGs に関する学内の方針がないこと。
- ・具体的な目標が定まっていない。
- ・具体的な対策や目標値が示されていない。
- ・具体的にどういう参画をせよということなのかわからないので答えられない。
- ・具体的に何をすれば SDG 達成になるのかを理解していない。そもそも SDGs の目標自体が漠然としている印象がある。
- ・本学でどのような SDG s 達成のための活動や目標があるのが学内に周知されていない状況（理解・認知度の低さ）。
- ・現在は特に障壁になるものは認識していないが、逆に、目標として明示されていないことによって、個々人の意識や裁量にまかされているため、学内教職員のインセンティブが働かないという側面はあるかもしれない。

○情報 不足・知識不足や連携不足への不安

- ・情報の提供。
- ・よく知らないということ。
- ・どのように参画するのか知らない。情報不足。
- ・SDGs に関する知識・情報の不足。そうした知識・情報を得るための時間の不足。
- ・やり方がわからない。
- ・つながりが見えれば、それほど障壁になるものないかなと思います。
- ・各課で参画活動に温度差がある。情報共有、連携が必要。
- ・本学のほとんどの教員と交流する場がないこと。

○社会課題やお茶大内の環境要因

- ・省エネに気を配ることや、健康増進に気を配ることも 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンにや 3. すべての人に健康と福祉を 等にも該当するはずだと認識しているが、それらを主張することは「本当の SDGs ではない」という扱いをされないかという懸念があるため。
- ・個人的な感覚ですが、東京は地域コミュニティが活発なところと活発でないところの差が顕著。
- ・社会の受容。
- ・定年後雇用やボランティア活動において SDGs 達成に資する分野に、個人や事業者が参画したくなるような仕組みがないか足りない。
- ・大学マネジメントに関わる人々に年配男性が多い実態。
- ・紙文化（法人文書管理を紙で行ってきた素地（今後は電子化が見込まれている）、押印廃止がなされていない文書、「まずは紙で印刷して持ってきて」等）。
- ・未だ押印が必要な書類があり、印刷物を減らすことが難しい点がある。
- ・学内の考え方の相違。

○SDGs に対する反対意見

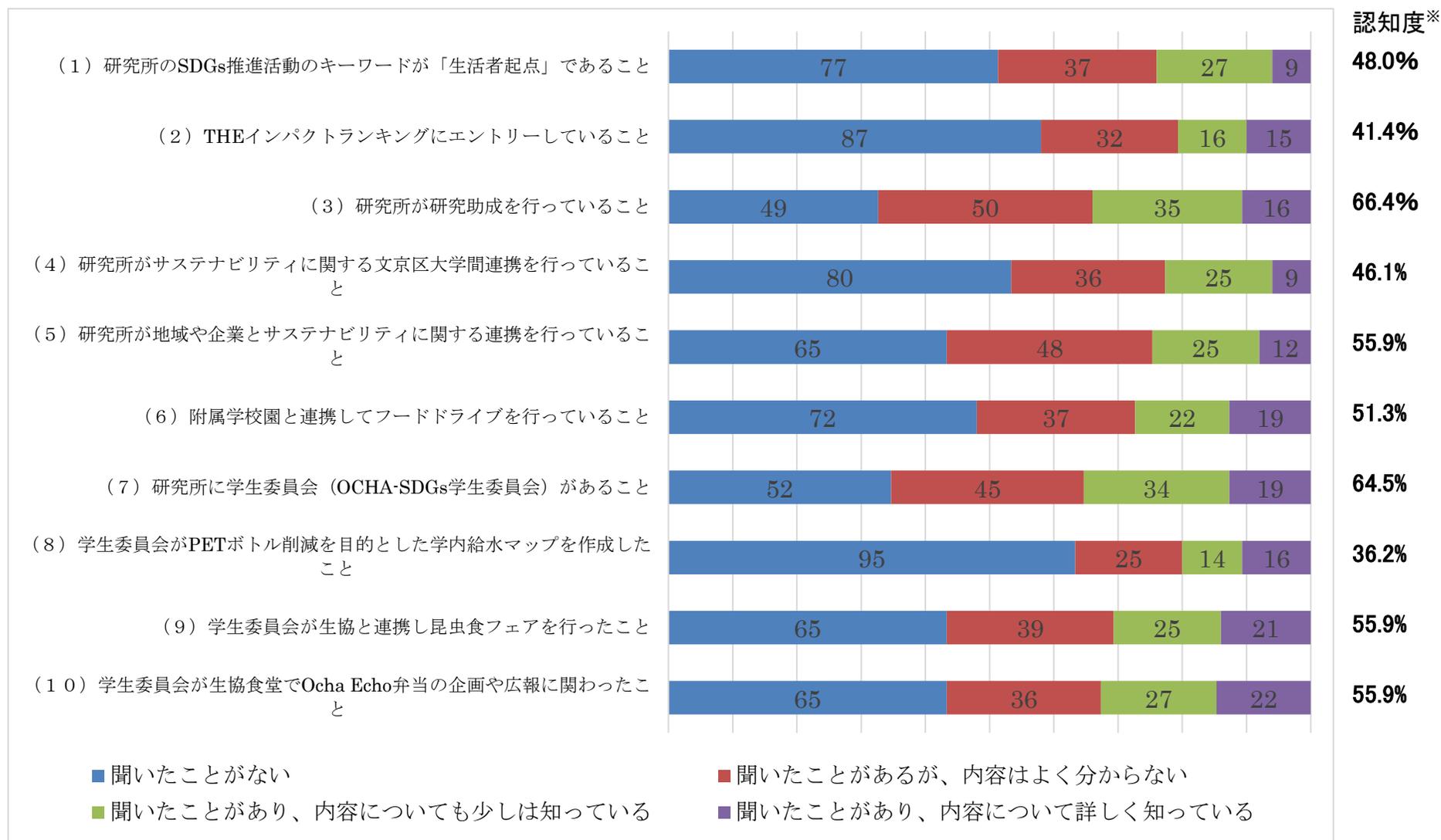
- ・教職員にむだなことを課さないでほしい。

○その他

- ・前例がない事。
- ・意識を高めること。
- ・社会貢献という観点では極めて意義はあるが、企業と同等の経営を行う（思考や制度等）ことが優先課題と思う。
- ・限られた時間と自身の健康と能力。
- ・自らできることをできる範囲でやる、ということであれば障壁は感じないが、あくまで個人レベル。社会的に大きな力につながる活動ができるかといえば、自信はない。

（４）SDGs 推進研究所の活動に対する認知度

あなたは、以下の SDGs 推進研究所の活動について知っていますか。



※「聞いたことがあるが、内容はよく分からない」「聞いたことがあり、内容についても少しは知っている」「聞いたことがあり、内容について詳しく知っている」と回答した者の割合

（5）本学 SDGs 推進活動に対するご意見（抜粋）

本学の SDGs 推進活動に対するご意見をお聞かせください。

○SDGs 推進への肯定的意見

- ・推進活動に効果を出していらっしゃると思います。 ・素晴らしい活動であると思う。
- ・学生委員会の活動が活発のよう見受けられます。 ・ SDGs 推進研究所の活動に期待する。
- ・フードドライブの活動はよいと思いますので、開催される期間が長くなると嬉しいです。

○お茶大の独自性を打ち出した SDGs 推進への要望

- ・この調査を通じて、あらためて SDGs 推進研究所のウェブサイトを見ました。教育、研究面で影響力のある取り組みだと思うので、お茶大ならではの分野や視点で推進いただきたいです。
- ・多くの大学で、当たり前のように SDGs に関する活動が行われています。突出する必要はなく、この大学として「生活者視点」という取り組みを無理なく進めるのが良いと考えています。将来的には、「当たりの SDGs 活動」をこの国が目指すのならば、背伸びは禁物に思います。持続可能な SDGs の活動が、流行で終わらないためにも・・・。
- ・本学のミッション実現に関連した SDGs 推進をぜひ行っていただきたいと思います。
- ・昨今の国内の状況として、大学だけではなく企業も SDGs の名のもとに様々な取り組みを行っていますが、お茶大独自の取組を国内外に発信してほしい。また、このようなアンケートを今後も行って SDGs 推進を学内構成員を巻き込んで進めてほしい。
- ・インクルージョンとして、お茶の水女子大学にしかできない活動があると素晴らしいです（ダイバーシティというよりは、社会的弱者への活動）。

○活動内容の拡充への要望

- ・特定の項目に関してはよく活動されていると認識しているが、「これも SDGs なんだ」と、普段の日本社会では大きく扱われない項目に関しても時々扱う事で 17 の項目全体の周知活動をするのも広い理解につながって良いのではないかと考えている。
- ・ハードルが高いのかもしれませんが、食に限らず、様々な領域とコラボを考え、とりまとめやリードしていただくということを期待しております。

○大学全体としての SDGs 推進活動実施への期待

- ・活動が一部にとどまっているように思います。理事・副学長クラスの大学幹部によるイニシアティブで全学的に SDGs を推進すべきと考えます。
- ・特定の分野の研究者に限られているので、もう少し全学的な活動になることを期待している。
- ・ SDGs 研究所所属の教職員・スタッフ・関係学生のみ尽力している印象で、そのほかの構成員はさして理解・熱心に活動している雰囲気はなく、温度差があるように思います。そもそも SDGs は個人単位の熱量の問題に帰してしまいがちなため、組織としての動きにつなげにくい気がします。その問題を大学としてどのように解決・改善していくかも、発信して行ってほしいです。
- ・教職員、学生すべて一体となって活動できるよう、参加しやすくわかりやすいしくみを作っていただきたいです。ぜひ参加したいです。

- ・研究所であったり、グローバル協力センターが行っている授業などそれぞれの部局で活動はしているが、大学全体として見えてないイメージがある。
- ・大学全体として SDGs をやっという姿勢が感じられない。

○本調査をきっかけにはじめて本学の SDGs 推進活動について知った

- ・本アンケートまで、学内で様々な運動をしていることを知りませんでした。これから、少しずつ理解を深めていきたいと思いました。
- ・あまり聞いたことがなく恐縮です。今回のアンケートで初めて取り組みを知りました。

○SDGs 推進に肯定しながらも距離をとる姿勢

- ・社会的なムーブメントを起こすように積極的に活動されるよう願っています。陰ながら応援しています。
- ・住んでいる世界をみんなが仲良く楽しく過ごせるように活動をよろしくお願いします。
- ・お役に立てることがあれば、積極的に貢献したいと思っています。
- ・次年度もますます頑張ってください。

○本学の SDGs 推進活動についての理解が難しいとの意見

- ・良く分かりません。
- ・本学の規模でどの程度の活動ができるのか、どういった目的で SDGs 研究所が作成されたのか、不勉強で恐縮ですが、あまり理解できていません。

○SDGs 推進への反対意見

- ・すぐにやめてほしい。
- ・ SDGs などよりも図書館におカネを使ってほしい。

○その他

- ・給水ポイントの設置はとても良いと思います。
- ・進んでいないと思います。
- ・学生への負担が気になる。研究成果へ繋げるなど、成果をアーカイブ・発信する機会があれば良いのでは。
- ・どういう活動を教員に求めているのか、具体的に教えて欲しい。
- ・教員一人ひとりの取組、研究所での取組が混在していて伝わっていないものもあるように感じております。
- ・自戒も含めて、SDGs ウォッシュにならないように、研究・教育内容を精査していきたいです。
- ・ SDGs という看板をかけるかはともかくとして、本学ではジェンダー平等をはじめとして、より公正な社会を実現するために資する研究活動・教育活動が多く行われていると思うので、そのことを学内外に積極的に知らせていくことで、大学の価値を高めることができるのではないかと思います。
- ・大学という組織として、あるいは一人ひとりの個人として、無理なく続けていけることを、こつこつと積み重ね、継続していくことが大切なのかなと思います。
- ・アンケート調査は統計をとるためにも毎年実施しすることが重要だと思います。

【参考資料】調査質問紙

< 調査説明画面 >

【SDGs推進研究所】令和5年度SDGs認知度調査 (教職員対象)

調査の目的と協力をお願い

- ・この調査は、教職員の皆様の、SDGs※に関するお考えを伺い、本学でSDGsをより強力に推進するための方法を検討することを目的としております。
- ・調査の結果は、本学のSDGs推進活動・広報活動における基礎資料として活用されます。
- ・下記の項目をよくお読みいただき、ご理解、ご承諾の上、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

※SDGsとは、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことです。

調査協力に関して

- ・本調査は、皆様の自由意思を尊重しています。調査目的等をご理解いただいた上で、ご協力ください。
- ・調査への回答の所要時間は、10分程度です。
- ・調査に参加しなくても、また調査を途中でやめても、一切の不利益を被ることはありません。
- ・調査終了後でも協力を辞退し、回答を取り下げることができます。本調査の回答を取り下げる際には、2024年1月末日までに、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

個人情報保護に関して

- ・データは調査固有のID番号で管理し、研究所HP等に公表する際にはとりまとめて統計的に処理しますので、個人情報が外部にもれることは一切ありません。
- ・結果は責任者が厳重に管理し、本学及びSDGs推進研究所の業務以外の目的に使われることはありません。

回答期限

2024年1月31日（水）

< 調査責任者 >

SDGs推進研究所長 斎藤悦子

< 調査に関するお問い合わせ >

SDGs推進研究所事務局

sdgs-office@ocha.ac.jp

<SDGs 認知度に関する質問>

はじめに、SDGsに対するあなたの知識やお考え、参画意識についてお伺いします。



1. あなたは、SDGsについて知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。



- 1.SDGsについて聞いたことがない。
- 2.SDGsについて聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- 3.SDGsについて聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための17のゴールがあることを知っている。
- 4.上記3に加えて、17のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。
- 5.上記3に加えて、17のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

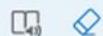
2. あなたは、SDGsにどの程度関心がありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。



- 1.全く関心がない。
- 2.ほとんど関心がない。
- 3.どちらかといえば関心がない。
- 4.どちらかといえば関心がある。
- 5.やや関心がある。
- 6.非常に関心がある。

<参画意識に関する質問－研究>赤字は補足説明

3. あなたは現在、ご自身の研究活動を通じて、SDGs達成に参画していますか。もっとも当てはまるもの一つを選択してください。業務に研究が含まれない場合は6を選択してください。自動的に次の質問にジャンプします。



1.全く参画していない

2.あまり参画していない

3.どちらともいえない

4.少し参画している

5.積極的に参画している

6.自分の業務に研究は含まれていない

選択肢1or2or3を選択

→質問4は非表示、質問5のみ回答

選択肢4or5を選択→質問4・5とも表示

選択肢6を選択

→質問4・5とも非表示、質問6へ

4. 研究を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。

回答を入力してください

(質問3で選択肢4or5を選択した場合に表示)

5. 今後、ご自身の研究を通じてSDGs参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。

回答を入力してください

(質問3で選択肢1～5を選択した場合に表示)

<参画意識に関する質問－教育> 赤字は補足説明

6. あなたは現在、本学学生への教育を通じて、SDGs達成に参画していますか。もっとも当てはまるもの一つを選択してください。業務に教育が含まれない場合は6を選択してください。自動的に次の質問にジャンプします。



- 1.全く参画していない
- 2.あまり参画していない
- 3.どちらともいえない
- 4.少し参画している
- 5.積極的に参画している
- 6.自分の業務に教育は含まれていない

**選択肢1or2or3を選択
→質問7は非表示、質問8のみ回答**

選択肢4or5を選択→質問7・8とも表示

**選択肢6を選択
→質問7・8とも非表示、質問9へ**

7. 本学学生への教育を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。

回答を入力してください **(質問6で選択肢4or5を選択した場合に表示)**

8. 今後、本学学生への教育を通じてSDGs参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。

回答を入力してください **(質問6で選択肢1～5を選択した場合に表示)**

<参画意識に関する質問－その他の業務> 赤字は補足説明

9. **職員の方**：あなたは現在、ご自身の学内業務を通じて、SDGs達成に参画していますか。
教員の方：あなたは現在、研究・教育以外の活動を通じて、SDGs達成に参画していますか。もっとも当てはまるもの一つを選択してください。

1.全く参画していない

2.あまり参画していない

3.どちらともいえない

4.少し参画している

5.積極的に参画している

**選択肢1or2or3を選択
→質問10は非表示、質問11のみ回答**

選択肢4or5を選択→質問10・11とも表示

10. **職員の方**：学内業務を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。
教員の方：研究・教育以外の活動を通じたSDGsへの参画の具体例をお聞かせください。

回答を入力してください **(質問9で選択肢4or5を選択した場合に表示)**

11. 今後、学内業務（職員の方）や研究・教育以外の活動（教員の方）でSDGs達成に参画するにあたり、障壁になるものは何ですか。

回答を入力してください **(質問9の選択に関わらず表示)**

＜本研究所の活動に関する質問＞

11. あなたは、以下のSDGs推進研究所の方針や活動に関するキーワードについて知っていますか。もっとも当てはまるものをそれぞれ選択してください。

	聞いたことがない	聞いたことがあるが、内容はよく分からない	聞いたことがあり、内容についても少しは知っている	聞いたことがあり、内容について詳しく知っている
(1) 研究所のSDGs推進活動のキーワードが「生活者起点」であること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) THEインパクトランキングにエントリーしていること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3) 研究所が研究助成を行っていること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4) 研究所がサステナビリティに関する文京区大学間連携を行っていること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5) 研究所が地域や企業とサステナビリティに関する連携を行っていること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(6) 附属学校園と連携してフードドライブを行っていること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(7) 研究所に学生委員会(OCHA-SDGs学生委員会)があること	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(8) 学生委員会がPETボトル削減を目的とした学内給水マップを作成したこと	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(9) 学生委員会が生協と連携し昆虫食フェアを行ったこと	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(10) 学生委員会が生協食堂でOcha Echo弁当の企画や広報に関わったこと	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

<自由記述及び属性> 赤字は補足説明

12. 本学のSDGs推進活動に対するご意見をお聞かせください。 

回答を入力してください

13. 性別を教えてください。  

男性

女性

その他

14. 年齢を教えてください。  

18-29歳

30-39歳

40-49歳

50-59歳

60歳以上

15. あなたの主なご所属先を教えてください。  

文教育学部

理学部

生活科学部

センター・研究所

事務系職

その他

送信

→送信ボタンを押すと下の回答完了画面が表示

 ありがとうございます。

これで職員の方は終了です。教員の方は引き続き、SDGsに関する研究・教育について以下のサイトで情報入力（記名式）をお願いします。

SDGsに関連する研究・教育情報の入力はこちら <https://forms.office.com/r/M8bnGeggtw>

別の回答を送信

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所
2023 年度 事業報告書

2024 年 5 月

発行：お茶の水女子大学 サステイナブル社会実装機構 SDGs 推進研究所

〒112-8610

東京都文京区大塚 2-1-1

Tel : 03-5978-2568

Fax: 03-5978-5766

E-mail : sdgs-office@cc.ocha.ac.jp
